



不動滝 (赤目)

水音が天鼓に呼び寄せる
 湖になり湖になって
 谷川が流れている
 紅葉の明るい緑
 針葉樹の濃い緑
 絶え間なく鳥が鳴いている
 河原のぐらつく石を踏むと
 潮音は足許へ近寄った
 白く細く懸かる一筋の流
 満ち溢るすなわぎ
 遠い故郷の唄をかなでる
 甘い愛の歌を口ずさむ
 汗をふき両膝をついて
 水を掬いあげる
 水晶のように輝いて散る

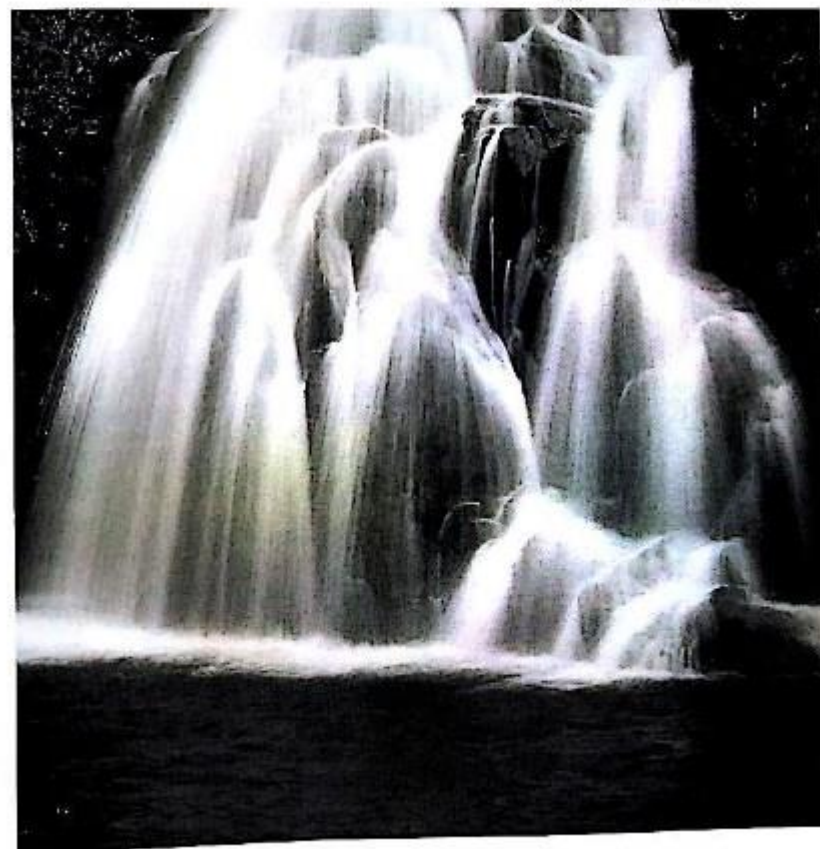


布曳滝 (赤目)

Photo essay

しる糸

題字 中田 萬石
 撮影 由井 収一
 文 松 永 恵一



千手滝 (赤目)

季節の



つゆ草



滝音聞いて (日野町)



八洲ノ滝 (比良)

実景

撮影 武市通治

盛夏



スイレン



ヒマワリ



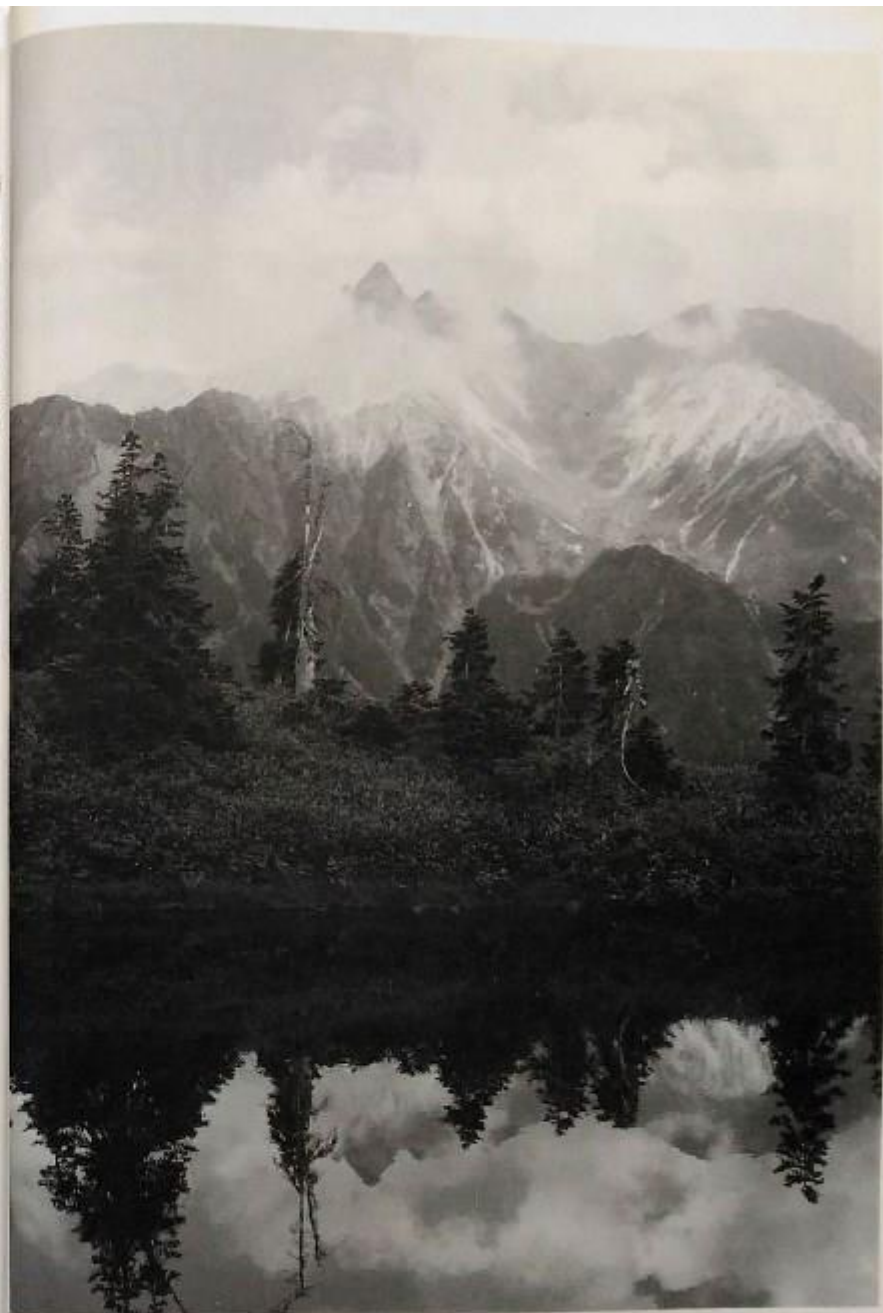
白馬岳 (北アルプス)

榊原 計國



上越国境巻襷山へ (割引山から)

坂本 健治



倒影槍ヶ岳 (北アルプス鏡池)

三浦 弘幸

大峰・八経ヶ岳三題

奥田 英一郎



赤山より八経ヶ岳を望む



八経ヶ岳山頂にて



八経ヶ岳山頂より南紀の山々を望む

新伴ッ 別冊 奥山の山
1994年7・8月 盛夏 第41号

●目次

表紙：松田敏男『早川尾根のイワギキョウと北岳』（南アルプス）

●作者プロフィール ●1949年、京都府生まれ。京都府立芸術大学卒。1987年より山岳部、山岳部の関係多岐に亘る。奥山探検隊、南アルプス山岳小隊、東京デパート（1号、16）京都山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員、一等二角山岳会会員

コース	ガイド	ページ
●一等三角点峰（5000以上）548座完全の記録（第8回）		48
九州・中部・関東の山を攻略	坂井 久光	55
●高尾子王子跡から道成寺 熊野街道探案	中村 敏文	52
●文学歴史探訪ハイイク⑩		58
●登山とオオボウウ	松永 恵一	62
●長尾山・高尾山・大尾山	山形 謙之	64
●高尾位山と日笠山	柴田 昭彦	66
治部ハイキングガイド	バス時刻表（2009）	70
ハイキング	巻頭言（1）	70
ハイキング	編集後記・仕舞案内	72
ハイキング		73

●グラビア

しらす糸……………撮影 田井 収 文 松永 恵一
季節の風景（盛夏）「スイレン」他……………武市 達治
（口絵）三浦弘幸・柳原計司・阪本健治・奥田英一郎
諸君（山のエッセイ）……………
旅行計画いろいろ……………
富士山と私……………
釣りの奥深さの思索のために……………

●紀行

平塚山から仙ノ倉山へ……………妻鹿 弘子 14
実銀座から雲ノ平へ……………田中 龍雄 22
白馬岳から蓮華温泉……………日野 孝一 26
【記録】日本登山紀行（番外編）「日本山岳志」……………松田 敏男 30
地蔵岳・製塩岳・薬師岳……………吉見 英樹 34
小太郎山……………松田 敏男 38
本太郎山……………松田 敏男 41
連環 北岳を歩く⑩……………今井 淑雄 45
北比良峰から武奈ヶ岳・ヨコタニ峠……………今井 淑雄 45
【記録】カラコルム見聞録①……………芝野 泰明 48
ラホールからチラスへ……………

●巻頭言

「ハイキング」と同類の言葉を辞典（広辞苑）から拾ってみました。
「トレンッキング」＝山地を歩いて回遊を楽しむこと。
「ハイキング」＝徒歩旅行をすること。自然に親しむため山野などを歩くこと。
「ワンデルンク」＝道の有無にかかわらず自由に山野を歩かまわること。
「ウォーキング」＝歩くこと。歩行。
「ピクニック」＝野遊び。遊山。
このように並べてみますと「ハイキング」のイメージが何となく分かるような気がします。そして日本の風景・地影・風土に最も適った歩き方が「ハイキング」と言えるのではないのでしょうか。「トレンッキング」はスイスマルプスを、「ピクニック」はイギリスやアメリカの高層ビル、「ワンデルンク」はドイツの森を連ねます。「ウォーキング」は歩くことが目的で場所は市街地でもよいのです。
「ハイキング」とは市街地から抜け出し、標高差のある近郊の山野を獲れない程度に長時間歩き、そこにある自然を親しむことで心もリフレッシュできるもの、と言えます。
新ハイキング開道（代志）村田 賢俊



旅行計画 いろいろ

生駒 壽峰

先日、妻といっしょに大手旅行社の団体ツアー旅行で沖縄に行った。泊8日で一人約四万円也。一流ホテルに泊まって食事付き。もちろん観光バスでの名所観光もある。

個人で行くとすれば乗り物や宿の手配など面倒なことが多い。費用の点では、ツアーの団体旅行とは全く計算が合わない。この沖縄にしても、その後、1等三角点の山巡りで再度行くことになり、航空券の手配をしたのだが、大阪から沖縄までは往復で五万円を越す料金になっている。

先の団体旅行の料金と比べて、格段の相違が感じられる。いったい航空運賃は幾らになっているのか、首を傾げなくなる。まさか航空会社が赤字を出してまで団体旅行を優遇しているとも思われないし、さりとて個人客から大いに稼いでいるとも思われない。

今や登山も百名山ブーム。日本各地に散らばるこれらの名山を登るためには、北は北海道の利尻島から南は九州の屋久島まで出かけなければならぬ。当然その交通手段の遊び方で費用が変わる。

航空機を使用するか、JRかバス。あるいは船やマイカーも考えられる。これはまた日数にも大いに影響を与えることである。JRにしても、新幹線もあれば各駅停車の席もあり、時期にもよるが切符の買い方ひとつで料金に差がある。

私たちの登山クラブでも、「青春18きっぷ」を利用しての山行が恒例になっていて、春・夏・冬の発売シーズンには、「青春18きっぷ」使用の山行が計画される。

私はこの切符で、東京まで往復したことがある。今どき東京まで2240円で行ったと言っても、知らない人はびっくりするが、何も不正乗車をしたわけではない。もっとも時間と少々体力は必要であるが。

この「青春18きっぷ」はなかなかおもしろい切符で、午前0時から午後12時までの1日24時間、普通料金で乗車できる列車に何回でも乗り降り自由である。日帰りでもこの山まで行けるか、とか、一日でどこまで行けるか、二枚使用すれば北海道まで行けるのでは、と計画する。そしてそれを実行するのはさらに楽しい。最近では使用できる普通列車や夜行の列車が廃止されておもしろ味は少なくなった。すでにリタイヤした私などは、金のほうは不自由しがらだが、時間のほうはたっぷりあるので、



随想 (山のエッセイ)

なるべく時間で稼ぐことを考えている。

以前奥久島や南西諸島の山々に行った時は、鹿児島まで行くのにいろいろな方法で行った。大阪から「青春18きっぷ」で福岡まで、さらに夜行バスを乗り継いで鹿児島まで。また大阪南港から志布志港までフェリーで、その後はバスで鹿児島島に行った。

最近では夜行バスが発達しているので、バスを利用することも多い。

このように交通の手段はたくさんあるので時間と費用と登山の計画をいろいろ考えるのはおもしろい。

富士山と私

内田 嘉弘

両親が静岡県の沼津出身で、小さい頃からよく沼津へ行った。

東海道本線で沼津へ向かう時、清水を過ぎて山比・薩原の海岸線を走るようになると前方に富士山が見えてくる。私が窓を開けて身を乗り出して富士山を眺めていると、よく母に「危ないから……」と叱られた。

小学三年(昭和二年)の時、太平洋戦争で日本は不利になり、都会に住む小学生の集団疎開が始まった。私は、それには加わらず故疎開で親戚がいる沼津へ母と一緒に疎開した。この時も、東海道本線の由比あたりから前方の雲の上に顔を出す真白き富士を、車窓から身を乗り出して眺めた。

沼津の小学校では私はよそ者

クラスで除け者にされたりじめられたりしたが、補習して家の前の針野川の土手に上がって富士山を眺めていると学校でいじめられたことなどすぐに忘れてしまった。

その年の8月6日の夜半過ぎ、敵機(B29)が沼津を襲った。空襲警報が鳴り響き、敵機の爆音が聞えてきた。そして焼夷弾が投下された。私たちは防空壕へ避難した。

その内の一つが防空壕の覗き窓から壕内に滑り落ちてきた。六角柱の焼夷弾だった。白い煙が出た。それが落ち込んできたと同時に皆は外へ飛び出したが、私だけ突っ立ったままそれを眺めていた。すると、だれかが私の手を引く。張って外へ連れ出してくれた。

家の周りの空気に焼夷弾が落ち、パアッと明るくなって燃えていた。目の前の私の住む家にもそれが命中し燃えかかってい



随想 (山のエッセイ)

られたことだろうか。
 ちなみに僕の御池岳への憧憬と遊楽本シリーズ執筆は、氏の「御池岳は通り一辺の解説ではとても意をつくせない魅力秘めており何度も足を運んでその実態をつかんでほしいと願うばかりである」「御池岳のような大岳は通り一辺のコースでお茶をにごさないで、あらゆる可能性を求めて積極的なチャレンジを行うべきだと思う。縦走もそうだし、池やドリーネの調査もその一つだと思ふ」(第二巻百十頁百一頁)の記述にどれだけ導かれてきたことだろうか。
 「通り一辺のコースでお茶をにごさない」歩き方こそ、西尾氏の「大岩全六巻」に僕が教えられてかかっていたとして、僕の山行きの願ひである。
 そして今回の岩野氏遺蔵の完結。この労作について、内容的には御池岳以外はほとんどコメントすることはできないけれど、

こうして七十にもわたる珠玉のコースを提示されると、西尾氏の「大著」と照らし合せながら、岩野氏の個性的な山行記が読めて、また別の角度から鈴鹿の深みへと僕たちを誘ってくださっているように思われる。
 それにしても、西尾氏の「大著」にせよ、中島仰男氏の「鈴鹿山仙山の伝説と歴史」「近江鈴鹿の鉱山の歴史」にせよ、辻源一氏の「近畿山行」「鈴鹿―樹林の山行」「鈴鹿源流」にせよ、今回の岩野氏の遺蔵にせよ、かかる「通り一辺のコース」をお茶をにごさない「山行」とそれをまとめてしまふステキな先注はどうしてみな、近江側なのだろうか(市販の入門的ガイドブックは各百個「伊勢側」が多いのに)。もちろん読者の層や他にもいろいろあることがあげられようが、こども考えられないだろうか。
 鈴鹿の山は、伊勢側が急峻で、そこを登りきるとすぐに主稜線



へと達する。つまり余り考える間もなく、苦しい登りを一気にすれば主稜線。しかし、近江側からは主稜線まで遠く容易に達することができず、その長い過程での山行きの思索の量的な差が、近江側と伊勢側の鈴鹿に関する著述の差に反映してはいないだろうか。
 伊勢側のみなさん。思索をさらに重ねて、岩野氏に続き「連続―伊勢側から登る鈴鹿の山々」をいつかものにしよう。

た。私は布団を頭から被って、従兄弟と手をつないで土手を越え、狩野川の河岸に避難した。そこにはたたくさんの人々が荷から逃げきていた。夜空には赤い炎の尾を震わせながら、七八輪ずつの奥夷弾が一つの塊になって、雨のようにあちこちに落ちて来るのが見える。対岸の土手にそれが落ちるとその周りが明るくなり、人々が避難して来ているのが見える。水辺をジャボジャボと逃がっている時、ヒュー！と空気を切る音がして私の頭の上をかすめてドボン！と何かは落ちた。機織の爆音が去って、私たちは被雷を免れた近くの家の軒下に立っていた。目の前の私たちの住んでいた家が暗闇のなか、柱だけになって燃え、それが一本ずつ焼け倒れてゆく。それを眺めながら、私は涙を流していた。
 朝が来た。沼津の市街地は焼

け野原になって煙に覆っていたが、その上にはいつもの富士山が顔を出していた。
 東名高速道路を走る時、私は由比パーキングエリアで必ず休憩して富士山を眺めることにしている。ここは東海道本線が並行して走っているから、小さい頃に列車から身を乗り出して富士山を眺めていたことや、沼津が爆撃で焼け野原になってしまった時に富士山を眺めたことを、いつも思い出している。
 鈴鹿の奥深さの思索のために
 近藤 郁夫
 岩野明氏の「近江側から登る鈴鹿の山々」が遂に完結した。この労作は、僕にとつて本誌のなかの一番楽しみみな連載だった。まずは岩野氏にご苦勞さまで

した、ユニークな山案内ありがとうございましたとお礼申し上げたい(あわせてその冊子化をお願いしておきたい)。
 鈴鹿の山の奥深さを空前のスケールで僕たちに提示したのは、西尾寿一氏の「鈴鹿の山と谷」(全六巻・ナカニシヤ出版)であった。この大著を手にしたとき、その記述がほぼ鈴鹿全域にわたること、しかも当時のガイドブックの制限を大幅に超えた深み、重厚長大さ、全六巻という膨大な量もさることながら、その内容が単なるガイドにとどまらず、歴史的視点、民俗学的視点も駆使しての山行論とその背後に人々論までうかがわされていることに圧倒された。
 西尾氏は、汲めど尽きぬ鈴鹿の山々の豊かさを、これまた汲めど尽きぬ六巻として僕たちの前に提示されたのだった。西尾氏の「鈴鹿の山と谷」に後進はどれだけ励まされ、教え

花の谷川岳最高峰

平標山から仙ノ倉山へ

上越

妻鹿弘子

まだ一度もお花畑を見たことがない。それも一種の群落ではなく、百花繚乱をお盆休みに見たい、と無茶な注文を出す友人の頼みに負けて、もう遅いだろうと思いながらも谷川連峰の西の端、平標山(1984m)に初級クラスの友人二人を連れて出かけた。

8月14日、9時10分に平標登山口の駐車場に車を置き、手入れの行き届いたトレイルから登りだす。林道を半分程行くとすぐに道は松三山コースの登りへと分かかれ、いきなりの急登になった。少し蒸す日だったので、二人は早くも汗まみれになり音をあげるが、ブナの多い林床には、ヤマホトトギス・ツルリンドウの花

がたくさん咲いていてそれらに気を紛らわせながら登る。ワンピッチで鉄塔までと思っていたが、とても覚束なく、休み休みの登高で1時間もしないうち、やれ足がつるの、アンメルツの、息が切れるの、ブドウが食べたいのと大騒ぎのおぼさん登山隊になってしまった。

コースタイムの倍理かかってやっと鉄塔にたどり着いた。きょうは谷川連峰の最高峰・仙ノ倉山をピストンして平標山の家泊まりの予定だがこの調子では、早くも不安が頭をかすめる。

鉄塔からは尾根道となり、明るい陽差しのなかにアキノリソウ・リンドウ・ウツボグサなどの花が増えてくる。ふり

は誰非のためこうして三葉の写真を撮っているのです。

聞望しに苦しみながら松手山に迫いたが、盛んに湧き上がるガスのため、庄場山も白砂山も見えない。行く手は草原状の緑の尾根が気持ちよく小ピーク、大ピーク、そして山頂へと連なっている。2000mを切る尾根なのにハイマツが生えている。もちろん二人には初目見えだ。ハイマツ帯の岩場で写真を撮るという数年の慣れを表明するため、小さな岩の上までできるだけ高山ばい雰囲気を狙って写真を撮った。その後うっかり私がカメラの裏ボタンを開けて、この写真はダメになってしまった。二人に責められた私



は誰非のためこうして三葉の写真を撮っているのです。さあ、あの大ピークまで頑張ったからお昼を食べようと登りだすがいくらも行かないうちにあっけなくダウン。差路のガレで食事にした。下山して来た人が、「ここは、こんなにガスが深いけれど、山頂は雲を突き抜けているので八海山がよく見えますよ。展望は大丈夫です」と親切に教えてくれたが、ガスはとうとう大粒の水溜りに変わってしまった。一服後「八海山、八海山」と呪文を唱えながら登っていると、急に花が増えだし、いつの間にか道は一面のお花畑を横切っている。ハクサンフクロ・オトギリソウ・シモツケソウ・ウツボグサ・トモエシオガマ・コゴメゲサ・ウメバチソウ・ゴゼンクチバナ・リンドウと杖箆にいとまがなく、まさに百花繚乱の正かりだった。「あれ、涙が出て来ちゃった。どうして、どうして」と友人の一人は首にかけたタオルでしきりに顔を拭いている。お花畑がぜんぜん力を取り戻し、それからは一気に平標山のピークをとった。

14時になっていた。眼下に平標の池塘

平標山山頂より平標池を見下ろす



返れば明日登る前山山が指呼に見える。神楽峠からゆるやかに降んだあたりはお花畑だというが、さてどんな花が咲いているのだろうか。稜線はその視を越え、頂上直下の胸のすくような急登から山頂へとあざやかにのびている。深田久弥が名著「日本百名山」の中で、鯨の背の様に巨大な図柄」と書いた頂がゆるやかに南に傾いている。

が光る。360度の展望で、赤城山・武尊山・苗場山・八海山・平標山・谷川岳・宗海山と輝々たる山が見えるはずなのに全てがガスのなかである。仙ノ倉山のピストンが時間的に不安になるが小屋に行くには少し早い。分岐にザックを置いて行ける所までピストンすることにした。あたりは2000m級では非常にめずらしいと言われる風食ノッチの浸食帯である。これは強風のため植被が根こそぎ吹き飛ばされたガレ場である。ガラガラとしたゆるいくだりの斜面に広大な草原が広がる。今はもう、何の花もないがよく見れば、チングルマ・ツガザクラ、何やらチドリ類、ユリなどの咲きがらに埋め尽くされている。小屋の奥さんの話によれば、このあたりの花の最盛期は6月で、白を基調に赤・ピンク・黄色の花に埋めつくされ、それは見事の一言だという。この広がりを見れば容易にそれを想像することが出来る。やがて小さなピークを越えたが、ガスのため何も見えない。幾つか登りを繰り返して、トリカブトの咲き乱れる草むらさくをくぐりきった所で一人ダウン。あと残ったピークを越えるのか全く見当もつかないが、時間的にそう遠くは

ないはずだ。ここまで来て引き返すのもくやしい。私一人で行ってくることにした。二人は花でも見て待っていると言う。

目の前のピークを荷物のない身軽さで一気に登ると山頂のケルンがガスのなかに溶んで見える。もう仙ノ倉は目の前だ。ここまで来たらぜひ二人にもピークを踏んでもらわなくてはと、あわてて引き返す。思いがけない近さまで二人はコトコトと喋りながら登って来ていた。頭めかけた仙ノ倉山(2026m)15時前。世で登ることができて何より嬉しい。特に二人は2日りの初登頂と言うので早速標識の前で証書写真を撮り、いっせいの感激にふけていた。明日の苗場山はさらに1000mの記録更新だと教えると、サツと顔が期待に輝き、まだまだ気力は残っているようだ。濃いガスが一瞬途切れ、エビス大黒の頭が見える。あの向こうに谷川岳が……と水に向けても縦走の話にはさすがに乗ってこない。

北アルプスを横断

裏銀座から雲ノ平へ

はじめに
四年前、無岳から蜂ヶ岳まで表銀座を歩いた時、合部尾根に登り着いた峠めは忘れられない。目の前に長々と伸びた黒い帯、裏銀座(合部尾根)絶ヶ岳)に面

一日目 プナ立尾根からの烏帽子岳へ
信濃大町駅に着くとタクシーの運転手は客を手際よくさばき、四人の合い乗りをつくらせてくれる。
東京電力のゲートは8時15分に閉めてくれた。その間に登山届けを出し、水3杯を詰める。車は高瀬ダムの高所(ハイ3000)まで行ってくられて助かる。トン

どうしたことが妙に元気ついて暑気に四方山に興じ、日暮れもガスも眼中にないのかマイペースで歩いている。分岐まで引き返せば平標山の家まで30分程度。このくぐりは少し湿地になっていて、ここのイワシチョウの群集になっていて。このイワシチョウは一点の紅もささない純白で、薄暮のなかでゆれるさまは山の裾のさざめきのような幻想的な美しさだった。

近年、登山者が増え道が踏み荒されたのか、崩壊が進み、新しく木の階段が作られている。
「ササの所に坐ってこれればよいのに、無造作に草むらに腰を下ろしてみんな駄目にしてしまうんですよ」
と小屋の奥さんが嘆いていたが、山を守る異方の苦勞を知るにつけ、感涙することしかできない自分が少し後ろめたく感じる時である。
小屋には16時着だった。あんなに登りに手間どったのに終わってみれば何となく疲労が合っている。お釜というのにさよりの泊まり客はたったの五人。環境の少ない上越の山はこれだから嬉しい。谷川岳から縦走して来た人。明日縦走し

日野 節 雄

北アルプス

ネルを滑り、吊り橋を渡るとそこから北アルプス三大ベカ堂といわれるプナ立尾根となる。樹林帯の急登につく急登だが、登りやすい。だが固もなく滑いのはまいった。丹沢のベカ尾根(大倉尾根)は標高差1300mを3時間半で登れるのに、このベカ尾根は50m高いだけなのに5〜6時間かかるのはなぜなのか。別に急降があるわけでもないのに。だが荷は重い。
京都の会社仲間という五人組と、抜きつ抜かれつして烏帽子小屋に着く。泊まりの手続きをして昼食後、烏帽子岳に向かう。森林限界を出るとイワシチョウ・ヒメイワカガミの大株や、コマクサは株

て行く人。そして私たちの三人だけだ。

「万太郎山の遊舞小屋は地図には昨年新築と書いてあるけれど、どうでした？」
「そう言えば、小さいけれどきれいなログハウスがありましたよ」
同の小屋も建て直されたし、谷川岳の縦走もほとんどん染になりそう、やっぱりこの魅力溢れるコースは計画からははずせない。またひとつ。行かぬばならないコース。が増えてしまった。

三人だけの小範囲でたっぷりとストレッチをし、さよりの楽しかつたことを思いだしてクスクス笑ったりしているうちに、20時の消燈も待たずいつの間にか遊舞りに落ちてしまった。山旅はまだまだ終わらない。明日もある。明後日もあると、先の楽しみをたっぷりと抱えて眠るのは至福の時である。
(平成9年8月14日歩く)

- A コースタイムW
 - 平標登山口(2時間) 松手山(1時間10分)
 - 平標山(50分) 仙ノ倉山(1時間20分)
 - 平標山の家
 - △地形図V2万5千 越後湯沢・四万
- 昭文社「谷川岳」

野口五郎岳と槍ヶ岳



は小さいが多い。烏帽子岳はその名の通りの形でトラバースありロープの登りありといった山だ。くぐりだりて船塚岳への道にある烏帽子四十八滝を見る。ここはきれいな感園だ。
小屋の水はポンプアップされ、1日100円で買えるので、電話で問い合わせれば、翌日の分まで背負わなくて済んだのに。



岩苔分岐付近から鷲羽岳

鷲羽岳は始々岳の展望台といった山だ。西に黒部五郎岳から薬師岳への膨大な鞍線を見せ、下は黒部川の源流だ。京都組の五人の来るのを待って、写真を撮り合って別れる。往きにワリモ岳を捲いてしまったので帰りは登った。ものの5分の寄り道だ。山頂標はない。分岐に来ると高校生グループにまた会う。「一番目にいた先輩の女の子は顔色もよくなり、元気になった。



夕立ちの来る前に、やっと登って来た一人の婦人がいた。聞くと「こむらがえりになって」と言う。「おなめた？」「登っていた人からボカリスエットを頂いた」と言う。持ってきた塩を小指の先

ほどなめさせ水を一杯飲ませた。夕方雷雨の凄いのがやって来た。稲妻が横に走る。まさにピカ！ドン！である。

二日目 野口五郎岳・鷲羽岳に登る
晴天の朝の出発だ。三ツ岳までは楽な登り。左に唐沢岳から銀岳。鷲岳の表銀座が、正面に槍の穂先からのびる北鎌尾根が朝の光を受けてはっきりと見える。一服して、道は大きな石のゴロゴロ道になる。これで五郎の名が付いたと鈴木さんは言うが？ 休みなく歩いたので野口五郎岳を目前にして休憩したら、2分の所に野口五郎小屋があった。消毒したという水は1割100円。他に蛇口もあり、親切な小屋だと感じた。

15分で野口五郎岳頂上に着く。360度の大展望はすばらしい。富士山・八ツ岳・南アルプス・御嶽・頭城三山まで遠望できる。カメラを一周させながらシャッターを切った。帰後後サービス判を撮いたら1割半の大パノラマ写真ができて、全山が同定できた。

高校生グループがいて、か細い女の子が真っ赤な顔をして蹲っている。大丈夫

ている。「よかったなあ。頑張れよ」と言ったら「にこっ！」と目が喜んでた。ここからゆっくり水品小屋へ帰る。

昨夜は定員20名のところ38名泊まったとかで心配していたが、台風9号が来ているせいか今夜は12名だ。夕食は小屋番のひげのオジさんと一緒に、酒を振る舞ってくれた。オジさんはウイスキーをチビチビやっている。私も持参したのを飲み始めると大変、話が後から後から出てくる。とうとう20時まで話を聞いてしまった。そのひげのオジさんは「桑原」と名乗った。

三日目 太郎平小屋までとす

霧の流れるなか、百名山の黒岳(水品岳) 私は水品岳というより黒岳のほうが好きだへ登る。往復1時間余で行けるのだから楽だ。きのうと違って展望はないが、途中一瞬雲ノ平が見えた。

計画では、黒岳を越えて赤牛岳を往復し、雲ノ平山荘泊まりの予定だったが、強風と霧、そのうえ台風による雨で薬師沢の増水が心配になり、桑原さんの言う通り赤牛岳往復は中止した。いったん岩苔乗越までくだり、祖父岳

だろうか。これで山が嫌いにならなければよいが。

雲砂岳へ登ろうとしたが、道がないように見えた。南面に向かうと大石でけっこう難渋する。槍を背にした薩摩尾根は、献しい。東沢乗越で行き会った夫婦が「これからが大変ですよ」と言う。見上げる馬の背のような所を直登している人が見え、黄色いチープが両側に張られているように見える。これは大変な所だなと緊張して行くと、昨年放ったという立派な階段があり、水品小屋の直下だけが砂で滑りやすいだけだった。

昼食後空身で出発する。どこへ？ その百名山の鷲羽岳へ。小屋からちょっと行った所で左へジグザグにくだる。この道には道標やベンチ印はない。平らになるとお花畑だ。私は高山植物音痴で、ここまで何も書いていないが、ずっと花・花・花、可憐な花、群落の花が狭い道であった。ここにもミヤマオダマキ、高さ10mにも足らないキバナシヤクナゲが今を盛りと咲いている。

岩苔分岐の道標には「鷲羽岳0:30」とあるがこれはウソで、登ってくだって、また100分登るので1時間近くかかる。

へ登る。ここは仄々とした所で右に直角に曲がるが、霧の時は注意したい。右へ行くとゴロゴロの石壁になり、薄いベンチ印にしたがって行くと雲原もある日字型の大石が積み重なった所へ出る。左のハイマツへ入って行く道と、右へ行く道があったが、奥に小屋が見えたのでその大石の真ん中をくぐってしまった。ここは道ではなく、植物を荒らすので止めたほうがよい。時間もくってしまった。くだりきると小屋に見えたのはトイレで、あたりはテント場だ。水場もある。途中から木道に出て歩きやすくなる。雲ノ平の各小屋はこの木道からはずれた所にある。雲ノ平山荘は台風が来るためか大勢の人がいた。

ここ雲ノ平は、四十年前に山の先哲が婚約者と共に来て、それは奥深くすばらしい所だと聞いていて、薬園を夢みていたが、やっと今来て、岩とハイマツと少しの花があるのみで薬草も見えず、北海道はトムラウシで見た薬園より劣ると見て、スタスタと木道を歩いて過ぎってしまった。各小屋を巡ればまた進んでいたかも知れないが。

ハイマツを過ぎると私の好きなコメツ

登山・ハイキング専門の旅行社

アミューズトラベルの夏山特集!

7/17-20 月山と烏海山 ¥115,000	7/17-20 早池峰山・岩手山・八幡平 ¥115,000
①7/18-21②8/1-4 羅臼・斜里・雄阿寒岳① ¥157,000② ¥147,000	
7/19-23 五色ヶ原～薬師岳縦走 ¥78,000	8/8-12・8/13-17 碓尻岳と羊蹄山 ¥165,000
7/23-27 飯豊連峰縦走 ¥228,000(食料・共同装備等をスタッフが持つ案々プラン)	
7/24-27 針ノ木岳～蓮華岳～霜ヶ岳 ¥68,000	
7/25-28 利尻山と礼文島花ハイク ¥139,000	8/29-31 トムラウシ ¥129,000
8/1-4 大雪山フラワーウォッチング ¥169,000	8/5-8 大雪山縦走と十勝岳 ¥187,000
8/6-10 雲ノ平～鷺羽岳～水晶岳 ¥81,000	9/17-20 大雪山縦走と愛山溪 ¥137,000
8/20-24 大雪山～トムラウシ ¥228,000(食料・共同装備等をスタッフが持つ案々プラン)	
8/28-30 高妻山と戸隠高原 ¥39,800 格安プラン!	

☆他にも多数プランございます。お問い合わせ下さい。

“脇坂先生と歩く” オーストリア・チロルの花と名峰 9日間

高齢(85才)の登山家・医師として著名な脇坂先生と歩くシリーズ。チロルの魅力を満喫します。
【出発日】8/2 【代金】428,000円

“脇坂先生と歩く” スイスアルプス登頂&ハイキング 9日間

“脇坂先生と歩く”シリーズ。プライトホルン登頂予定。NHK同行取材(9月全国放映予定)。
【出発日】8/9 【代金】532,000円

ヨーロッパアルプス最高峰モンブラン(4807m)登頂 10日間

参加者1名に対しガイドが1名つく安心プラン。高度順応日のあるゆったり登頂プランです。
【出発日】8/15 【代金】688,000円

スイスアルプス登頂&ハイキング 10日間

オーバーコートホルン(3415m)とファウルホルン(2681m)に登頂。アイゼン・ピッケルは不要です。
【出発日】8/15 【代金】428,000円

“花と歴史の名峰を歩く” 長白山龍門峰(2586m) 7日間

朝鮮半島の最高峰(朝鮮名は白頭山)。自然あふれる登山道はブルーベリーの実にいっぱい。
【出発日】8/21 【代金】278,000円

★98年度インフレット(国内外山行プラン)、海外山行の詳しい資料、ご請求下さい。(無料)

アミューズトラベル株式会社 ☎06-265-3303

〒541-0053 大阪市中央区本町4-5-3 本町三井ビル2号館

四日目 残念だが下山

ガ・シラビソの針葉樹林帯になる。休憩場所もあり、黒部五郎岳や笠岳・薬師岳も見え小休止した。木道がないと歩きにくい所では、鈴木さんは六年前に来て雨のなか、川になった道で難航したと言った。木道が消え、木の根や石の歩きづらいうえ坂になって、アクションメントに遭う。急に左足首が痛くなった。控座のようではなく、薬を塗ると痛みは少し和らいだが、両手を使ってくださった(後日分かったが、現着直前の初期症状だった)。最後の鉄梯子をくだり、黒部川の川原を左(上流)に行き、鉄梯子を登り、吊り橋を渡ると薬師沢小屋だ。水は豊富にある。小屋から太郎平小屋へ宿泊の連絡をする。

ここから少し急登するとまた綺麗な木道が続く。沢を何本も渡り、大きな沢には木橋がある。風が梢を鳴らし、薬師岳が大きく見える。樹林と花畑で一眼したくなる所だ。最後の沢を飛び石で渡り、直進して荒れた急登1時間で太郎平小屋に着く。台風を逃れた人で今夜は200名というが、一人一畳でゆっくり眠れた。大型テレビがあり、水も豊富だ。

△参考タイム▼
一日目 信濃大町駅5・30(タクシー) 高瀬ダム6・40△10・30 烏帽子小屋12・00△13・00 烏帽子岳14・00 烏帽子小屋15・10(泊)
二日目 烏帽子小屋5・25 三ツツ岳6・30 野口五郎小屋5・00△40 野口五郎岳8・55△9・15 水晶小屋12・00△13・00 山若分岐13・25 鷺羽岳14・20△14・40 ワリモ岳15・10 水晶小屋15・15(泊)
三日目 水晶小屋5・10 黒岳(水晶岳)

天気予報通り、小屋を出ると風で飛ばされそうになる。やはり薬師岳往復は無理だと折立へ下山することに。ここも木道ができ、追い風に押されて思い。右奥に頼・立山が見え、左下に有峰湖を見てキスゲの咲くなかを行く。3時間かかるところを2時間5分で折立に下山して始発バスに乗る。

有峰口の午前、亀谷温泉ホテル「おおよま」で入浴し、富山駅への直行便に乗る。

最後はお決まりの反省会で、お互いの疑問をたえた。あつた。

(平成9年7月24日〜27日歩く)

△地形図▼
5万1有峰湖・槍ヶ岳
昭文社「銀・立山」
△連絡先▼
烏帽子小屋(現地) 0261-04293
水晶小屋・雲ノ平山荘
(東京連絡所) 03(3)351-0175
薬師沢・太郎平小屋 0764-01917
富山地方鉄道(折立バス) 0764-03456

5・45△50 水晶小屋5・25△7・40 岩若乗越8・15△25 根交岳9・10△安ノ平山荘10・20△40 薬師沢小屋13・15△14・00 太郎平小屋16・25(泊)
四日目 太郎平小屋6・00△7・15 折立8・05△15(バス) 亀谷温泉9・15△10・15(バス) 富山駅11・15
△費用▼
信濃大町駅→高瀬ダムタクシー1台 8750円
山小屋 1泊2食付き(三軒共通) 8400円
折立→高山駅 バス 3080円
荷物10kg以上 650円
亀谷温泉ホテル「おおよま」入浴料 500円

大雪渓を登る

白馬岳から蓮華温泉

田中 誠

北アルプス

小蓮華山より、いま登ってきたばかりの山頂を望めば、白馬岳が早朝の紺碧の空に向かって大きく立ち上がっていた。周りに旭岳・杓子岳・鐘ヶ岳を従え、そして眼下には北アルプス最大の大雪渓をはべらせ、威風堂々きりりと立ち上がっている。

白馬岳の後方、はるかかなたには北アルプスの盟主銀岳、それに続く立山三山・槍ヶ岳・穂高連峰・鹿島槍と見渡すかぎり百名山のオンパレードであり、好天に志まれて北アルプスの大パノラマとなった。

眼下を見下ろせば昨日登った大雪渓が、杓子岳との間に大きく横たわり白馬尻小

尾を起点に鵜平あたりまで延々と続いていた。

昨日、妻とともに夜行列車で白馬駅に着き、シャトルバスで登山に到着した。

林道を30分も歩くとようやく白馬の峰々が目の前に現れてきた。鋭く尖っている山頂は聞きしに勝る鋭峰である。期待と不安が交錯する。白馬尻小屋前で少々休憩をとり、そこから15分ほどで大雪渓に取りついた。

午前9時、いままでも岳友に幾度となく聞かされ、おおいに憧れ、また日本三大雪渓中最大の「白馬の大雪渓」に足を踏み入れる。ピッケルを支えにおそろのおそろ踏み出せば、思っていたより雪質はや

いているので先がつかえ、自分のペースで登ることもままならない。

幅1000呎はあるという大雪渓中の一本の狭い登山道、案内書には「わき道に入るな」とある。「二年間、岳友のパーティの一人が大はしやぎして道を大きく外れ、クレバスに落ちて大騒ぎになったことがあったそうだ。リーダーの機転により事なきを得たそうだが、注意するにこしたことはない。

足の早い人は、やや遅れぎみの横手を

足早に抜いていく。それでも道は外さない。

しかし、不思議なことには上から降りてくる人は逆筋がよく見えるのか踏み跡を大きく外して降りてくる。なかにはアイゼンを着けぬ人もいる。登路には大きな音のする風穴があり、またクレバスも随所にあるので慎重に歩く。

1時間も登れば大雪渓の中はぼつかりと浮かんでいる島のような岩礁地帯にたどり着いた。9時50分、ふり返って見下ろせば、急傾斜の大雪渓には登山者の列



白馬岳・蓮華温泉付近略図

が延々と続いている。見上げれば左手に杓子岳の岩峰や崖肌が大きく迫り出し、今にも落ちてきそうに怖いくらいである。右手には白馬岳に続く岩肌があり、大雪渓ははるか見上げる急傾斜に続いて

白馬大雪渓を登る



わらかく歩きよさそうである。アイゼンで踏みつけられた雪道の横には深みがあり、黒く緑どった半柄円形の模様の中腹まで延々と続いている。まるで魚のうろこみたいであった。

ここから鵜平まで約2ヶ、標高差600呎、歩行およそ2時間とある。本日の予定は白馬山荘まで、あえて急いで登ることもない。しかし、登山者の列が延

いる。

再び雪渓に足を踏み入れる。道は一本道、大勢の登山者の中に入り込めば先ほどと同じ、ゆっくりに歩かぬ。突然、左山三前から轟音、何事かと目で追えば、雪渓の端をひと泡えはあろうかと懸るほどの大岩が下方に転げ落ちていくのが見えた。

こここの登山者は、テント泊と思える人も多く荷もしかり担いでいる。しかし足どりは確かです。山男だ。私もおよそ20分は担いでいたが、それ以上担いでいる人も多く見つけた。前後には腕に緑の腕章をした「白馬ボランティア」の人が何人もいた。ゴミ拾いや登山案内、そして山岳遭難救助の手伝いまでするそうだ。感謝しつつ登って行けば雪渓はようやく終わりに近づく。「風」から40分程度で岩道となった。木の階段を幾つか登れば鵜平蓮華小屋前に到着。12時ジャスト。ここで持参のうどんを炊き、煮干飯の昼食をとった。

12時40分、再び頂上をめざし歩き始める。避難小屋を過ぎれば、お花畑の出現であった。今が盛りの名も知らぬ可憐な花たちが道の両側いっぱい咲き誇って



白馬山荘前から見た立山連峰

いる。三國一湯をすくにあきらめ「仙気の湯」へと急ぐ。仙気の湯は、およそ六畳ほどである。湯船には先客5、6名がゆったりと浸かっていた。脱衣所もなく、衣服を置く場所も見当たらない。湯船横で衣服を脱ぎ端の方から「ぬるめのお湯」にゆつくりと入る。しかし妻は着替える所も身を隠す所もない、あきらめ顔で温泉小屋に引き返して行った。

そのあと若い女性二組が来たが、その内の一組は用意がよいのか露天風呂に慣れているのか、水着姿で遠慮なく入ってきた。ビチビチとしたキヤルが入ってくればたちまち狭い湯船は若き色気いっぱいとなる。おもしろいもので多い方の男性陣が、少々たじろぎ遠慮して隣にかたまる。大勢が少数に押されきりとなって、もう一組は残念顔で妻同様引き返して行った。

晴れていれば湯に浸かりながら雲雀・朝日岳の勇姿が見られると案内書にあった。しかし、さよふはあいにくガスに隠れて見ることができない。七つあるという露天風呂も泉源が溢れたのか、流れが変わったのか見当たらなかった。

他の湯に入るのをあきらめ小屋に帰る途中、同湯した人から近くに「黄金湯」があると聞いた。教められた所に向かってみると緑の葉っぱにとり囲まれた所、小径の奥に黄金湯がぽつんとあった。青年一人が浸かっていた。五人も入れば溢れんばかりの小ぶりの湯船が、まるで森のなかに小舟がそっと置いてあるように浮かんでいた。流れくるお湯の音を聞きながら小鳥のさえずりを聞きながら静か

- △コースタイム▽
- 8月15日 飯倉(1時間) 白馬尻小屋(2時間30分) 飯平(2時間) 村宮頂上(20分) 白馬山荘(泊)
 - 8月16日 白馬山荘(15分) 白馬岳(30分) 三國境(40分) 小連華山(1時間30分) 白馬大池(1時間) 天狗ノ庭(1時間) 温泉温泉(泊)
- △地 図▽ 昭文社刊「白馬岳」

いた。あとで小屋の調査を見ると「タカネナアシコ」や「オオサクラソウ」など、赤や黄色の花があたり一面にゆく夏を惜しむように、また、短い北アルプスの夏を精一杯の可憐さで、お互い競い合うように咲き乱れていた。

お花畑を楽しみながら少し登れば白馬村宮頂上宿舎に到着。受付の案内に今夜は「一畳に一人」とあった。宿ジュースを飲みしばし休憩し、頂上をめざす。

被線に立てば白馬岳(2932m)の山頂が、時おり切れるガスの間からいきなり見えてきた。その締め下に白馬山荘が現れ、切り立った山頂と楕に広がる山荘がほどよく対比し、なかなかの展望となった。両側には杓子岳・鐘ヶ岳の頂上が間近に認められ、西に清水岳、北に雲倉岳と、白馬岳北部の山々が姿を現し始めてきた。

被線を歩くこと20分、日本最大の山小屋、都会の大ホテルと見紛うばかりの白馬山荘に14時20分到着した。

山荘は左右に大きく張り出し、寝台スペースは三畳もあった。1500人は泊まれると案内書に書いてあったが、先ほどの村宮頂上宿舎と違い「一畳に二人」

とあった。ここは人気の山小屋である。めずらしくレストランもあり、おまけにジョッキでの生ビールや、ステーキ料理も各種あるとのこと。

食事前の暇つぶしに小屋周りを歩く。湧いていたガスも徐々に薄くなり、鐘ヶ岳北側はるかかなたに、鋭く尖る岩峰が現れてきた。増だ、増高だと雄偉だったが、よく見れば、北アルプスの親王「御岳」である。鐘ヶ岳はその南側近くとうすすらと浮かび、それに続く穂高連峰はかすかにしか見えなかった。

遅い食事をとり、山のレストランの窓際に座り、暮れゆく大アルプスの夕景を肴に酒を飲む。飲みながらあれが絶た乗鞍だと同席の人との話は尽きなかった。

明けて16日、早朝4時半起床。カメラのレンズをズームに交換し、三脚を片手に白馬岳直下の広場に向かう。

5時05分ごろ来光。地平線のかなたが少し明るくなるや一条の光線がまるでスロービデオを見ているように雲海を照らし、神々しく雲上一面をなぞっていくように感じられた。山登りの醍醐味の一瞬である。昇りつつあるく来光にカメラのシャッターを何度も切った。

朝食を済ませ、同室の人に「まだどこかでお会いしましょう」とエールを送り、6時45分白馬山荘を出発。15分で白馬岳頂上に到着。この光景の雲海はいつの間にか消え、快晴となっていた。見渡すかぎりのにぎやかな北アルプスの大展望を目の前にし、記念写真を撮り合い、しばし北アルプスの壮大な景観を楽しむ。

三國境を過り、雲倉分岐を過ぎ、目頭に記した小連華山を通り過ぎ、30分も経過後は頃からガスが湧き出してきた。ふり返りながら、また、休憩するたびに現れていたすげえらしい白馬岳連峰も8時頃にはガスのなかに隠れるようになっていった。

白馬大池で早めの昼食をとり、10時55分小連華温泉をめざして出発。天狗ノ庭を通り、約2時間で谷の向こう側に連華温泉の露天風呂が見えてきた。白い湯気が上がっていて温泉の楽しみを倍加させてくれる。假れた足よりも軽やかになってきた。

受付で宿泊の手続きを済ませ、タオル片手に小屋裏橋の急坂を露天風呂へと向かう。七つあるという露天風呂のうち、最初に現れた「三國一湯」に手をつける。まるで水風呂、おまけに葉っぱも浮いて

日本霊山紀行 番外編 (補遺)

連載 『日本山嶽志』 高頭式編纂

浅野孝一

私の「日本霊山紀行」の連載を読んでくださる方には、すでにお気づきのことと思うが、越後守門岳における下山時の私の異常な行動である。下山時に多大な時間がかかり、いっしょに登ってくれた山仲間にも迷惑をかけてしまったのである。

今から五年前に手術をした前立腺腫瘍のまわりのリンパ腺に異常が発見され、昨年の4月に手術を受けたのであった。手術後友人たちとフランスのプロバンス地方を旅行して、セザンヌがよく描いていたセント・ピクトワール山に登った。この下山時にも守門岳と同じように時間がかかった。帰国後、6月から7月にか

けて二十六回の放射線治療を受けたが、その間低い山へ登ったものの下山時に苦勞した。平癒感に異常を覚えた。以後、紅糸曲折があり、10月上旬MR検査を受けて腫瘍が発見された。手術の結果は良好であったが、右脚に若干のマトが残り、リハビリが必要となり当分の間山歩きは禁止された。

そこで今回より「日本霊山紀行」を昔くについて使用した文献の数々、その利用方法などについてしばらく連載することにした。

まず第一に緊用させてもらったのは、高頭式編纂の『日本山嶽志』である。この著書について深田久弥は、「ヘルメッ

ト、ザイル、ピッケルのいでたちの登山者には、本書はあまり用はないかもしれぬが、日本の登山所調査の延長と心得ている私のような者には『日本山嶽志』は大変貴重な本である。私はある山の事を書こうとする時、まずこの本を掲げる。」と記している。

『日本山嶽志』は明治三十九年(1906)2月4日、高頭式三十歳の時博文館より発行された。

日本の山々の頂は、昔から神仏の寄代としてあがめられてきた。山自体がいわゆる霊の宿る地であった。山岳宗教が盛んになった十世紀以来、山は修験者によって登拜され、近世に入ってから修験者が生活のため登るようになった。

明治期に入ってから急速に山頂へ立つための登山が実施されるようになった。アーネスト・サトウ、ガーランド、ウエストン等の外国人のみでなく、日本人の間においても自然発生的に登山熱が盛んになってきた。高頭式もそのような日本人の一人であったと考えられる。

まず著者高頭式の人となりを書いてみる。高頭式は明治十年(1877)5月20日、新潟県三島郡深才村深沢に父清蔵

母リクの長男として生まれた。幼名式太郎、名は式、字義明、通称を仁兵衛といふ。また号を海畔といふ。

家は累代の豪家であつて、代々に兵衛を名のつていた。義明は第九代であつた。昭和十二年(1937)4月6日逝去、八十三歳であつた。

登山に関しては明治二十四年(1891)十五歳の時、片貝高等小学校の地理歴史教師であつた大平誠に伴われ樹形山、小ノ木城山へ登つたのが始めてであつた。以来、二十代後半『山水私記』、『日本名山制』、『日本名山抄』を出版し、明治三十八年(1905)二十九歳の時、日本山岳会の発起人の一人となつた。

昭和八年(1933)五十七歳の時、小島島水のとを継いで第二代日本山岳会々長となり、五十九歳の時日本山岳会長を小森則太郎にゆづつた。逝去にいたるまでの間日本国内の山々はもちろん、欧米旅行をし、台湾では嘉義より阿里山、新高山(玉山)に登つてゐる。また大正四年(1919)には未開発地域であつた尾瀬の奥の平ヶ岳へも登つてゐる。

ここで日本山岳会創立のことにふれてみたい。発起人は高頭式・小島島水・城

数熊・武田久吉・河田敷・高野慶蔵・菊沢精光の七名であつた。その時会の創立に必要な財政面を支えたのは高頭式であつた。すなわち高頭は山岳会の会計に欠損ある場合、向こう十ヶ年分、毎年千円(當時の会費十人分)を提供する。ただし十年たつても自立できなければ山岳会は解散すること。また万一の場合を考慮して山岳会のために養老保険一万円に加入したのであつた。

『日本山嶽志序』には鉄推登人即ち地理学者の小川琢治が、撰修に就いての解説に小島島水、編纂上旨は高頭が書き「余も亦編纂に注意せば、馬鈴薯ニ八十二及パザランヤ、余今年正ニ三十、餘ス所五十年、孜々汲々、愚公ガ山ヲ移スガ如クセバ、日本山嶽ノ大綱成リ、將來碩學ノ山誌編纂セラレシ時、多少ノ参考トナランカ、世ノ同好者、明教ニ者ナル勿レ、……」と記している。

そしてその最後に「……吾ガ同好者ハ、均シク餘勇ヲ滅シテ、人跡未ダ到ラザル『ひまらや』ノ最北端ニ遊シ、以テ天地ヲ小トセン、巖ニ腰世ノ快事ニ非ラズヤ、而シテ余ガ編纂ノ意、ココニ至リテ盡ク、昔シテ骨ヲ五百金ニ買フ者アリ、此吉也

ニ一顧ノ値ナカラシヤ。」と三十歳の高頭式、意気大を突くものがある。

当時日本においてヒマラヤに関心を持つ人は少なかったと考えられる。高頭がどこまでヒマラヤについての知識を持っていたか不明であるが、高頭の時代のヒマラヤの歴史についてみると、1887年ヤングハズバンドはムスタグ峠を越えており、1882年コンウェイがカラコルム遠征を、1885年マンマリーがナンガ・パルバットを試登し、1905年コングスタッフがナンダ・デビの試登をしている。

ついで凡例があり、編纂者の希望が書かれている。内容は索引・登山術・山嶽諸説・日本地質構造風俗・山嶽各記即ち本編・山嶽暖年表・山嶽に分かれている。編纂には小川琢治・志賀重昂・田中阿弥麻呂・小島島水・大平誠等が協力している。

引用書名及略號があり、私が本書を参考にした時、実に有利な文献等を知ることができ、本書の中にも数多くの引用がされている。例えば『読叢』は日本地誌提要、『地解』は大日本地名辭書、『新常』新編青陸國誌、『新武』新編武蔵風

土記類、(難州)難州府志、(肥志)肥後國志等々であり、当時発行されていた日本全土の地名名が表記されている。

ついで日本山嶽志の目次となり、區分の索引・字彙索引・山名索引・稱呼索引等々、至れり尽くせりの索引があり、最後に補遺が付けられている。跋は依田白川(雪舟)が書いており総頁八三四にわたる大冊であった。さらに増補が日本山岳会々報の「山岳」に発表された。

高頭はただ山を愛し、万卷の書を讀み、山に登り、名譽未達を求めることなく、「平凡人として山好きの自己の生涯をまっとうした。」

郷里弥彦山山頂に高頭(兵衛)のレリーフがある。その碑面には、第六代日本山岳会々長武田久吉博士の文章が彫られてある。除幕式は昭和二十五年(1950)5月20日、高頭の七十四歳の誕生日であった。

高頭は山登りの師として生花大平展を尊敬し、レリーフを苗場山頂に、郷土の先輩「北越雪洞」等の著作を残した鈴木牧之の頌辞碑「天下之雪洞」を苗場山頂手前の神楽ヶ峰に建てた。

高頭式の人となりについて一応の略歴

林杞崎ヨリス、里敷未詳、標高一萬三千六百七十九尺、(名勝)支那人は玉山又は八通關山と稱し、西洋人は之をモリソン山といふ、……西洋人の此山をモリソン山と呼ぶは、其初め森南府に往來せる英國の一商船の艦長の名を取りて命じたるなりと……とある。

今、私はある本に茅ヶ岳の事を書いてあるので、参考までにその部分を引用すると「茅ヶ岳、甲斐國北巨摩・中巨摩ノ二郡ニ跨ル、北巨摩郡神村字淺原ヨリ一里十八町ニシテ長山頂ニ達ス(甲國) (留妻園志)相傳テ云フ、昔時山下ニ葦族アリ、某長者ト稱ス、一道士來リテ迄ヲ借ルニ許サス、食ヲ乞フニ與ヘス、道士大ニ怒リ叱シ水麻ヲ絶ツ、是ニ因リ山間ニ伏水アレトモ、流レテ川ヲナサスト云、今ニ長者原・長者澤・行人塚ノ地名存セリ……」と記してある。

高頭式のレリーフのある弥彦山について記してある。「彌彦山(別稱伊夜彦山、伊夜日子山、香結山)建後國志難原・三島ノ二郡ニ跨ル、西端原郡彌彦村大字彌彦ヨリ一里ニシテ其山頂ニ達ス、標高一千八百一十二尺、……(風雲)山に彌彦山神社あり、……」とあり、靈山紀行を詠く

を記したが、「日本山嶽志」に紹介され、また私が引用するときのことを記してみる。この著書の中の山岳の文章を引用すると、あと書くべき文章がスムーズに出てくるのである。そのことは冒頭の深田久弥の文章と同じなのである。本書で取り扱われている最北の山は、千島列島にある山である。それは「千島火山帯」の「環状島」で、「環状島」(別稱成吉思、成吉思島、最吉嶽)千島國葉取郡ノ南東方ニアリ、登路凡二十八町、標高三千九百五十二尺、(風雲)富士杖をなし、二

火口あり、半月形の湖あり、周圍二里、ナリツブ・紗那の西火に立つ」とある。(風雲)とは志賀重昂の著書「日本風景論」である。さらに「志賀加不嶽(別稱単單嶽、ストック山)千島國振別郡ノ東方ニアリ、登路凡三十三町、(風雲)真個の富士」とあるので私は早速本棚にある「日本風景論」を取り出して読んでみる(するとさらにこの山以外のことを知る事ができるのである)。この本に北千島、樺太の記述がないのは1905年のポーツマス条約に領有したものであり、朝鮮半島もそれ以後であったからである。最南端は当時の台湾であった。雪山、鳳

に重要ポイント弥彦山神社の事が記されている。神社の創建その起源については社誌とかその他の資料を集めるが、そこで参考となるのは吉田東伍博士編の「大日本地名辞書」である。山の記述は「日本山嶽志」に及ばないが、実に地名などに関する記述が多くある。

少なくとも隔月御世話になっているこの著書は、今から約二十年前に購入したもので、裏表紙にはられているラベルによると購入価格八千円。現在はなくなりましたが、浅草六区入口にあった協立書店で買った。迷いに迷って購入した本であったので私の座右の書となって机の上あるいは下に置いてある。何せ明治三十八年の本であるので薄身製本、裏紙などはばらばらにならぬようガムテープで補強している。

現在、店頭に並んでいる古書は高価である。「日本風景論」「奥の細道」「北越雪洞」「利根川図志」などは右波文庫に再販がされていたが、絶版の類はいろいろ高値であったことを覚えている。

「日本山嶽志」の中で紹介された関東近辺の地誌はほとんど購入したが、高価で購入できない古文書は、私のいる東京

鳳山、新高山、大屯山の説明を試みてみる。「雪山(別稱玉山、シルグィア山)臺北縣臺東縣ニ跨ル、登路未詳、標高一萬二千九百九十九尺、(名勝)(日本名勝)南勢山脈との相交する所に屹立し、高峯嶽と伯仲の間にある、新高山に次ぎて日本第二の高山にして、群山冠たり、西洋人は之をシルギヤ山といふ。是れ近海を測量せる英國軍艦の名に因りて、かく名付けたるものなりといふ、英人の測量によれば、高さ一萬三千尺ありといひ或は三千七百六十六米突なりともいふ、(補遺)(ほとんどおつく、ふおあ、じゃぼん)

支那人ハ雪山トイフ、海拔二二八〇〇尺、臺灣第二ノ高峰ナリ、また雪山という名称について「(日精) (日本地理精説) 此山脈は多く白色の石灰石より成る故に遠く之を望むときは恰も白雪の積れるが如しといふ」ともある。山頂直下に長いU状の浅い谷があって、かつての氷河の跡とも言われている。

玉山には非雪山荘の手前に大きな運糧坂があつて、この山脈一帯地殻変動による隆起山地であることを知る。その玉山については「新高山(別稱玉山、八通關山、モリソン山)臺中縣臺東縣ニ跨ル、登路

の地元図書館に頼んで探してもらい、東京都中央図書館の蔵書はレファレンスによって調べてもらっている。なお不明の場合は国立国会図書館レファレンス申込書を図書館からファックスすると、蔵版の有無、請求記号を知らせてくれるので国立国会館へ行って閲覧ができる。必要箇所のコピーサービスも受けることができる。

東京大学史料編纂所も各種の歴史資料が収蔵され、訪問すれば親切に対応してくれるのでありがたい。以上の知識は「全国図書館案内」によって知ったのであるから一度その目次だけでも目を通したほうがよいのではないだろうか。

補遺はこれだけではない。次に「大日本地名辞書」「田斐園志」「信府精記」「新編武蔵風土記略」「武蔵通志」などの編者について、できるかぎりの解説を試みるつもりである。

そのうちに右側の自由が戻り、山歩きができるようになったら、東北地方の恐山・岩木山から書き継いでゆく予定である。

次回は「大日本地名辞書」について書くつもりである。乞御期待。

地蔵岳・観音岳・薬師岳

鷺見守康

南アルプス

南アルプスの甲斐駒、仙丈、北岳。それぞれ山頂で風に吹かれ、地蔵岳の特徴あるオベリスクを眺望しながら、いつの日にか鳳凰三山を歩いてみたい、と思っていた。いつの日にか……それは、漠然とした想いであった。ところが、その日は意外に早くやってきたのだった。

「ホウオウシヤジンを見に行きませんか」とKさんからの誘いを受けたのは、春。ホウオウシヤジンの花期に合わせ、盆過ぎの8月下旬、1泊2日の日程で出かけた。

例によって、Kさんの予定では未明発だったが、その時刻ではまだ公共交通機関も眠り込んでいるので、深夜発にと変更

あたりなのだろうか、青空に映える山肌がまぶしい。針葉樹の黒い森におおわれるなど、全体に暗い印象をもつ南アルプスのなかでも、花崗岩で形成された鳳凰三山と甲斐駒ヶ岳は、白っぽい特異な山容である。

ガイドブックでは南アルプスの入門コースとして紹介される鳳凰三山だが、ドンドコ沢コースの登りはけっこうきつい。息が切れ、汗がしたり、かなりしんどい思いで登る。Kさんはマイペースで先頭に立ち、その後を私、そして、A君とY子さんが続く。KさんのペースにA君



地蔵岳・観音岳・薬師岳付近略図

更してもらい、私はJRの最終便に近い宿車で多治見駅へ向かい、瀬戸から走ってきたKさんの車に拾ってもらった。メンバーは昨年の白山山行と同じく、夫人のY子さん、長男の中学一年生A君を加えた四人である。

車は、多治見インターから中央自動車道に入り、伊那谷をひた走る。途中、踏肩で激しく炎を上げて燃えるトラックに遭遇して肝を冷やしたが、特にトラブルもなく、諏訪インターで高速道を出た。

一日目

登り口の青木鉱泉に到着したのは午前3時半。駐車場で一時間ほど仮眠し、空

とY子さんはどうしても遅れきみになる。昨年に比べればA君は成長し、体力的には父親のペースについて行けるまでになっているのだが、母親を気遣ってそのそばを歩いているようだ。

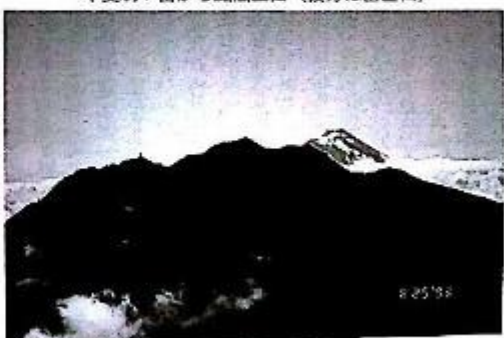
青木鉱泉から秋の花が咲き続いており、レンゲショウマ・ヤハズヒゴタイ・ハリモミ・ミヤマフタバラン・ワダソウ・オオバアナガラ・ヒメシヤジンなど、私には初見の花に次々と出会う。

「予想以上に花がいいですね」深い原生林におおわれた登山道だから見晴らしはさかないが、Kさんも、Y子さんも私も、思いのほか花の豊富な林間の風景に、急登のしんどさを感ぜられる。大人三人のいきさか上気した様子に、A君もうれしそうだ。

沢には、南精進滝・白糸滝、そして五色滝と見えたえのある滝が続く。滝音は高く、どんどんどんこと耳に響き、ドンドコ沢という名の由来に思い至る。

亜高山帯に入ると、岩壁にシヤジン・ピランジの花が出現した。シヤジンはどちらかと言えばイワシヤジンの雰囲気、ホウオウシヤジンとは言いづらい。ピランジも「タカネ」という冠はつけにくい

甲斐駒ヶ岳から鳳凰三山（後方は富士山）



が白々と明けるのを待って、6時頃に出発した。登山道は鉱泉宿の庭を通過しており、その庭にミヤマモズリなどの高山性の花が咲いている。ミヤマモズリとはネジバナの高山型なのだが、私は初対面のランで、Kさんにしても数十年ぶりとのこと。

ドンドコ沢に出ると、前方の空高く、明るい稜線上のピークを仰いだ。観音岳

けれど、花の美しさに変わりはしない。

やがて、Kさんが林床にみずらしい腐生植物のミヤマツトリモチやオニクを見つけた。Y子さんはシヤクジョウソウを発見した。オニクは、四人とも初対面のため、長いカメラタイムとなってベトスは完全に狂ってしまった。

みずらしい腐生植物のある反面、例えばヤマホタルブクロが山頂付近まで咲き続けているなど、亜高山帯や高山帯にも低山の野草が入り込み、複雑な植生に不思議な感じを抱いたまま、さらに歩を進める。標高2400付近では平均な広い沢にぶつかり、予想もしなかった光景にしばし唖然とし、そして唸るばかりであった。

どの乾きをいやすため、両手ですくい上げた沢の水は手が切れるほど冷たく、ほのかな甘みがあった。私の知る限りでは、今までで一番おいしい流水であった。

青木鉱泉から5時間半を要して鳳凰小屋に到着。小屋からは、身軽になって地蔵岳をめざそうと、四人分の食料などをY子さんのザックに詰め直して私が背負い、Kさんら三人は空身となった。小屋

から地蔵岳山頂まではさらに1時間ほどを要したが、山頂直下のザレ場の急登は歩きにくいことこのうえない。ザレに足をとられ、一歩進んでも二歩ずり落ちるという状態で、大変苦しく、久しぶりにバテてしまった。

山頂は、地蔵岳のシンボルとも言うべき花崗岩のトア（岩塔）が林立し、有名なオペリスクが天を突いている。そのトアのなかに、ホウオウシャジンを見つければ、Kさんと私は興奮きみとなる。歩き始めると、岩の隙間のあちこちにホウオウシャジンが満開である。白い岩肌にくらべて長い葉をすらりと垂らし、リンとした紫の花冠を突き出して、孤高で気品に満ちている。咲き誇るタカネピランジも見つけて、私たちは小躍りした。

下山は、森の河原に迫る。下界から奉納されたおびただしい地蔵仏にびっくりさせられた。この位置からトアの全貌をよく眺めると、一つ一つの岩がまるで佛像のごとく迫り、一瞬空気がピンと張りつめたかのような錯覚に陥った。

二日目

平日のため、宿泊者の少ない鳳凰小屋

る秘蔵の景観は、ガイドブックなどでよく紹介されているように、まさしく雲上の日本庭園である。

白砂に淡紅色のまぎやかなタカネピランジも咲き誇り、私たちは口を揃えて「いい山ですね」を繰り返して、感激を語り合った。

四間の山岳の展望は得られなくとも、ハイマツ・テンカラ・オオンラビン・コマツガなどの針葉樹が生きる姿を見る、それだけで十分だ。ただ、ホウオウシャジンは数株しか見られない。この鳳凰三山のなかでも地蔵岳特有の花なのだろうか。

明るくなった空の下、薬師岳で記念写真を撮り、コーヒープレイクとする。

薬師岳からは中道をくだる。この道も楽しい。途中、道沿いの倒木の上など所どころにハイマツの葉の食べかすが大量



ホウオウシャジン

を午前6時に出発。昨日、山頂を踏んだ地蔵岳はバスは、直接観音岳をめざす目覚めた頃には、宵空がいつぱいであったが、もうガスが立ちこめ始めていた。

北アルプスに比べて南アルプスは森林限界が高く、稜線直下まで樹々が迫っている。その林床で、またオニクを見つけた。にょきにょきと頭をのぼして群生している。朝から歓声を挙げてしばし足を止めていると、バラバラと雨がきた。

稜線に飛び出した頃には雨は止んだが、空には暗い雲が広がり、西にそびえる北岳の天辺を隠している。

観音岳から薬師岳への道は、明るくのびやかだ。背の低い緑濃い針葉樹を遠くから見るとハイマツかと思ったが、近づいてみるとダケカンパやテンカラ（天然カラマツ）であった。明らかに自生のテンカラを私は初めて見た。

山の中にすっきりとした林をつくるカラマツは、まずほとんどが植林されたものであり、自生のカラマツはない、とさえ言われている。なるほど、天然カラマツというのはこうして風雪に耐え、身を幾重にも折り曲げて生きているのだ。このテンカラと死産岩の白砂とでつくられ

に残されていた。ホンガラスなどの野鳥がつかい込んだものではなく、哺乳類の食べかすと思われるのだが、果たしてリスなのかサルののか、いろいろ推測してみた。下層には昨年の食べかすも残されており、定期的な食卓として使用されている様子などから、リスのものだと判断したが、それにしても大量の食べかすであり、感動にも似た驚きを感じた。

亜高山針葉樹林帯に入ると、じゅうたんと敷きつめたかのごとく広がるコケの林床が実にいい。そのコケ林床に、Kさんが小さな丈夫の低いコフタバラン、そしてタカネフタバランを見つけた。これも私には初見だが、よく見渡すとあちこちに花を付けている。

それにしても、Kさんの視線の細やかさには驚くしかない。いつものことだが、遠くの梢に止まっていたり、天空高く点のように飛翔する野鳥の姿や樹木の小さな尻尾をいち早く見つけたり、だれもが見落としているめずらしい草にいつも満甲に出会ったり、野生生物に対する視野は、並々ならぬ広さと深さがある。なぜこんなものが目に入るのかと、しばしば呆気にとられることさえある。私には見

低山登山〜本格トレッキングまで、登山用品のことならおまかせ下さい。

新ハイの金沢本店が新に開業します。



とスキーのヨシミ

〒543 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL 06(772)7231

JR天王寺駅
北出口右へ
歩道橋渡ってスグ



えない自然の営みが、夜には確実に見えているのだ。

やがて、クロウソグの群落があり、たわわに青い実をつけていた。口に含むとさわやかな酸味がおいしく、四人でひとしきり食べたが、登山道には点々と青い葉が落ちており、野鳥もこのクロウソグの実を腹一杯食べているようだ。

14時30分、青木鉱泉に戻った。風呂で寝れをいやしてか、冷たくて引き締まったざるそばを味わい、2日間の華やかな山旅をふり返った。

帰路、晴れ上がった青空を背に、きれいなスカイラインを指く鳳凰三山の姿を車中からいつまでも眺めていた。

(平成9年8月25日〜26日歩)

△コースタイム▽

一日目 青木鉱泉(5時間30分) 鳳凰小屋(1時間) 地蔵岳山頂(1時間) 鳳凰小屋

二日目 鳳凰小屋(1時間) 稜線分岐(40分) 観音岳(1時間) 薬師岳(3時間10分) 林道山合(1時間) 林道(50分) 青木鉱泉

△地 図▽昭文社「甲斐駒・北岳」

南アルプスの真っ只中

小太郎山

小太郎山。気安くて、どこかユーモアのある名所である。北岳に登るメインルートとしての小太郎尾根は大勢の登山者でにぎわう所だ。しかし、その尾根上の分岐点より北に向かう小太郎山までの尾根筋は、お盆直後でできたれにも出会うことのない静かな気持ちのよいルートだった。

分岐点より小太郎山へは、まるで下山して行くような感じで始まる。分岐点が2850m、小太郎山の手前の最低標高は2645m、そして小太郎山自体が2725mなのだから、分岐点から見る道は、何となくはつきりしない。あまりにも広い北岳の登山道を見慣れた目には、

乗るべくバス停に行く、と、たくさんの人たちが行列をつくっていた。

その人数の多さにマイクロバスに乗れるの心配したが、二台のバスに全員座ることができた。私のザックのような大きい荷物は別の車に乗せることになった。

長谷村村営バスは、どの運転手さんともたいそう親切で、北沢峠までの間ずっとまわりの説明をしながら走ってくれる。観光地によくあるようなスピーカーから流れる通り一遍の説明ではない。道々花が咲いていけば通行しながらその花について説明される。時期によって咲く花は変わっていくから、その知識はかなり豊富なのである。どの由が角で何が見え始めるかなどは熟知されているから、その方向も見ずして地元の歴史や山岳景



小太郎山村営バス

松田敏男

南アルプス

そのように映ることだろう。しかしここからが、私の今回の山行のクライマックスだった。

昨年の夏は山の版面の恒展を二週間開いた関係で、夏山に行くのが少し遅くなった。8月15日に長距離バスを利用して伊那に行き、JRバスに乗り換えて高遠から戸台口まで入った。長谷村村営バスは戸台口から仙流荘まで何も歩かずに着くことができた。村営バスが予想外の便宜をはかってくれた。仙流荘のはずれの駐車場脇に、十畳ほどの畳を敷いた無料休憩所がある。きょうはそこに泊まることにした。お盆なのに私ひとりだけだ。

内が、こんなにいきいきと楽しく、小さなマイクロバスの車内で展開されるのは、他にそう多くはないだろう。村営バスだから公務員だと思うが、どの運転手さんも自らの仕事を楽しんでおられるような、そんな心温まる雰囲気、いつ訪れても楽しい。

標高2000mを越す北沢峠に着いた。こった返すなか、少し待って今度は山梨県安村村営バスの広河原行きに乗り換える。

広河原は観光地のような人の群れだ。大滝沢は北岳方面への人気の高いコースだから観念しての登山となった。下山中の親切な人たちが登り優先を守ってほるか上の方で待ってくださった。また、軽装者の人の足音が後から近づいてきたので広い所で脇によけながら追い抜かしてもらおうと歩調を速くして待っているのに向にその呼吸を感じてくれなかつたりと、歩きづらさの覚悟はしているはずだったが、やはり恨めしく思うこともあった。

二俣から右俣の道に入ると、イブキトラノオの群生や、ナテンコやクルママリなどの鮮やかな色の花々に心を奪われ、

小太郎山より北岳を見る



しかし、たぶん夜中に自家用車の登山者が朝一番の村営バス目当てにやってきて仮眠するだろうと思いつ、部屋奥の隅で寝ることにした。寝入っている最中に人の入ってくる大きな音がしたので目が覚めた。すぐに静かになったのか、その後のことは知らずじまいで朝になった。結局は八人くらいで寝ていたようだった。朝食を済ませて6時30分発の一番バスに

山の空気が体に入ってきた。霧があたり一面をおおっているので、晴れている時以上に近い距離の花やタケカンバの幹などが印象深く目に映える。

小太郎尾根に上がると西側は霧がなく遠くまで視界があった。明日めざす小太郎山が、尾根の連なりが一番奥にすくと立っていた。今立っている場所より小太郎山の方が低いのだが、小太郎山の後ろは霧で真っ白だったので、なかなか立派な山に見えた。

北岳尾ノ小屋まで登ってランチを張った。水場がかなり遠かったが、道は花が

日本山岳会京都支部

山のスケッチ展

7月21日(火)～26日(日)
正午～午後8時

ギャラリーF

京都市中京区寺町道三條下る
電話 (075) 221-2340

・京都支部会員15名の作品約30点
・第1回目のグループ展



イブキトラノオ (後方は風置山塊)

美しかった。今回の山行のなかで最も美しい道だった。

翌朝は4時に出発した。ヘッドランプをつける人が多いが、私は明かりをつけずに歩くのが好きだ。暗いと奥行き感覚が分かりにくくて、ちよっとした岩場ではやはり光が必要だったものの、それ以外の大部分では光なしで歩いた。未明の澄んだ空気を全身の感覚と聴覚を最大限に広げて受け入れた。岩やハイマツの未明の蔭の暗さに高山の気配を感じた。

小太郎尾根の分岐点に着いた。ここからが私にとっては真新しい世界。今回の山行のクライマックス。胸の高まりを覚える。これまで二度、この地点を通過した。そしてそのたびに小太郎山は気になつてきたのだが、今その未知の地へ足を踏み出したのだ。まだ時過ぎなので人通りはない。そのため後ろからの「道が違うぞー」といった親切な呼び止めがないから安心だ。とは言え早く私の姿がメインルートから見えなくなるように自然に歩調が早くなる。

歩き出しは二重山麓になっていた。小太郎山に向かって左の、正しい稜の上を歩いているのが確認できる地点に来て、ひと安心。ハイマツが一面に生えている所は踏み跡が切つてあるから迷うことはない。砂礫帯は尾根の上さえ歩いていけばいい。広い尾根だから濃霧の時は少し分かりづらいかも知れない。小さかった風置山塊が明るくなり始めた空をバックに、徐々に大きく見えるようになった。ハイマツに光る朝露を体に浴びながらハイマツの間をくぐり始めると、小太郎山の手前の鞍部は近い。そのあたりだけが樹林帯になっていて、奥深く分け入って

いるような気分がさせてくれる。小太郎尾根の分岐点から眺めた時には、単純に北へ一本の尾根をたどればよいように思えたが、いざその場所に入ると求ると窪地や稜線などがあって、その展開が楽しかった。最後の登りでちよっとした台地が上がれば、その左上に三角点のある高みがあった。

ここまで来る間、常に見えていた風置山塊は単なる逆光のシルエットを脱して、ハイマツの緑色や花崗岩のグレーの岩肌を見せ始めていた。来た道の方角には霧が見えかくれしながら徐々に北岳の迫力ある姿が現れ出していった。しかし次から次へと西から霧が吹き上げてくるので、ほかの山は見えない。まきは朝のコーヒーとしよう。

歩き始めてちよっと2時間が経ち、午前6時。最高だ。西側から絶えず吹き上げてくる霧が少しずつ薄くなっていく。うっすらと見え始めていた仙丈ヶ岳が、次第に尾根筋を谷の切れ込みを縫やかにしていく。北岳の写真を撮り絵を描いた。振り返れば甲斐駒ヶ岳もくっきりと全容を現して、やはり写真と絵で記録した。その間1時間30分。絵を描いている

と、そのなかに没入してしまうから、実際の時間よりも長くいたような満足感に浸ることもできた。周囲全部がすっかり暗れた。小太郎山は完璧に山のなかの山である。周囲の山より標高が低い分、下界が全く見えない。北に甲斐駒ヶ岳、東に風置山塊、南は巨大な北岳、西は仙丈ヶ岳。周囲に役者がずらりと上座並び、この山頂はまさに極楽の頂きである。

を楽しみながら戻った。往きはうす暗くて気がつかなかったが、メインルートに近づくにつれて尾根が太くなってくると、そここに小さな株をなした花が咲いていた。全体的には花の少ない尾根だったが、もつと早い時期だったら黄色系の花がもう少し多く咲いていることだろう。小太郎山の頂上にはいた時間と分岐点からの往復とを合わせて5時間余り。全く一人だった。8月17日というお盆の時期なのに。テント場から30分程で着ける北岳には行かず、テントを撤収して大津沢をくだった。

小太郎山での5時間余の大切なひとときを心にしまつて、また人通りの多いルートを下山した。たくさんの人たちとすれ違ったが、皆、北岳に行くのだから。

▲コースタイム▼
 広河原(6時間45分) 肩ノ小屋テント場(2時間) 小太郎山(2時間30分) 肩ノ小屋テント場(4時間30分) 広河原
 ▲地形図▼2万5千1 風置山・仙丈ヶ岳

山と高原地図シリーズ

定価750円(税込)

※ 別売 空白 34号 4号本(刊 行予定)	35 白馬岳北アルプス
2 七ノ平 北岳山	36 奥穂高 奥穂高北アルプス
3 大雪山 十勝岳	37 越前 立山北アルプス
4 十九間峠 八ヶ岳 七ヶ岳山	38 上高地 穂高北アルプス
5 八ヶ岳 甲斐駒ヶ岳 北岳山	39 奥の細道 北アルプス
6 奥の細道 甲斐駒ヶ岳	40 草津山
7 越前 立山北アルプス	41 中央 奥アルプス 奥の細道
8 奥の細道 北岳山	42 木曽駒 木曽駒北アルプス
9 奥の細道 北岳山	43 甲斐駒 北岳北アルプス
10 奥の細道 北岳山	44 越前 立山北アルプス
11 奥の細道 北岳山	45 白山
12 奥の細道 北岳山	46 奥の細道 奥の細道
13 奥の細道 北岳山	47 奥の細道 奥の細道
14 奥の細道 北岳山	48 奥の細道 奥の細道
15 奥の細道 北岳山	49 奥の細道 奥の細道
16 奥の細道 北岳山	50 奥の細道 奥の細道
17 奥の細道 北岳山	51 奥の細道 奥の細道
18 奥の細道 北岳山	52 奥の細道 奥の細道
19 奥の細道 北岳山	53 奥の細道 奥の細道
20 奥の細道 北岳山	54 奥の細道 奥の細道
21 奥の細道 北岳山	55 奥の細道 奥の細道
22 奥の細道 北岳山	56 奥の細道 奥の細道
23 奥の細道 北岳山	57 奥の細道 奥の細道
24 奥の細道 北岳山	58 奥の細道 奥の細道
25 奥の細道 北岳山	59 奥の細道 奥の細道
26 奥の細道 北岳山	60 奥の細道 奥の細道
27 奥の細道 北岳山	61 奥の細道 奥の細道
28 奥の細道 北岳山	62 奥の細道 奥の細道
29 奥の細道 北岳山	63 奥の細道 奥の細道
30 奥の細道 北岳山	64 奥の細道 奥の細道
31 奥の細道 北岳山	65 奥の細道 奥の細道
32 奥の細道 北岳山	66 奥の細道 奥の細道
33 奥の細道 北岳山	67 奥の細道 奥の細道
34 奥の細道 北岳山	68 奥の細道 奥の細道

※昭文社の「山と高原地図」は年間販売として毎年百数十冊発行されています。山行の際はなるべく最新版をご利用ください。また、お申し込みの際は、お名前がご記入ください。また、お申し込みの際は、お名前がご記入ください。

株式会社 昭文社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11
 電話03(3262)2141(代) 102-8238
 支社 大阪市淀川区西中島6-11-23
 電話06(303)5721(代) 7532 0011
 営業所 札幌 仙台 横浜 千葉 浦和 立川 新潟
 金沢 静岡 名古屋 京都 広島 福岡

幻の花ラフレシアを求めて

キナバル山

吉見英樹

マレーシア

フィジーやハワイへの旅行もそろそろ飽きが始まった頃であった。ビーチリゾートも楽しいが、変わった旅行をしたいと考えていた。

以前からキナバル登山をしたいと考えていたので、家族、特に次女の沙希子を、世界一大きい花、ラフレシアの花を見に行こうと誘ってみた。数年前にあった花博での写真を見て娘ともすんなりと話が決まった。

関空から乗るブルネイ航空はなかなかのもので、ティクオフの前にいきなりお祈りがあるのには、さすがに参った。関空を飛び立って5時間ぐらいでブルネイに戻った。ここで3時間ほどの乗り継ぎだが、

コタキナバルへの飛行は出発が夜になり、おまけに雷がガンガンとなり、けっこうビビった。

コタキナバルの空港はいかにもアジア

的な空気の漂う、ちょっとあやしい雰囲気だった。人種的にも体が細くて、抜黒いのですぐに馴染んで来た。気候は意外にもたいへん涼しく、熱帯性気候を覚悟していたので拍子抜けするぐらいだ。ホテルまでの道中は、屋台また屋台、マニャの人はほたええられないだろう。

2日目にホテル内にある「ポルネオエクスベティション」というツアーデスクを訪ねて、まずラフレシアを見たいのだが、そんなツアーがあるのかと尋ねたが、

該地域があるらしいので、もし情報が入れば、いつでも行くから電話してくれるよう頼んでおいた。10日間滞在するので、何とかなるさと言っていた。

私のほうのキナバル登山はあっさりオーケーが出た。日本では高価なうえにもっとたいを付けられ、そのうえ自然保護人員制で入山アウトと聞いていたので、簡単に打けるのにびっくりした。明日からでも行けるとのこと、翌日早朝出発となった。

次の日、ツアーのピクアップで自己紹介となる。私のパートナーはイギリス



人のステイブンスさんだった。彼とは登山家奥さん共々我が一家とたいへん親しくなり、ティイクタイム・夕食、また、大変危険な日に遭った覆輪ラフティングツアーと行動を共にし、今でも連絡を取り合っている。

キナバルパーク登山口は、標高1800mでビーチから約2時間半の大変に涼しい高原リゾート地にある。ゲートでガイドが一人付いて出発。多雨林のなかを高道を登っていく。登りにつく登り道は、道は抜群に整備され、金剛山の階段登りの長いほうだと思えばよい。従って歩いていけばいつかは頂上に着く。技術的にはいたって簡単な山で、スニーカーで十分である。事実、地元の人にはほとんどスニーカーが常識だが、日本人はマネをしないほうがよいだろう。涼しいのだが、すぐ湿度が高いので、汗がポトポトと滴り落ちる。

道中は霧のなかで植生を築む以外何も無し。標高2500mあたりから、足が上がりなくなってきた。4時間半で今夜の泊まりラパンラタ小屋に到着した。大きい小屋である。1日で3200mの標高差は私にはけっこう苦しかった。

キナバル山山頂にて



なかなか難しいとのことだ。そもそもこの花は、カメラフィルムケース大ぐらいの蕾が9ヵ月かかって大きくなり、突然直径2センチぐらいの花がポーンと開く。花が見られるのは長くて9日間ぐらい。非常に繊細なもので、人が入らない低地多雨林の奥深いところに生育しているとのことだ。そんな花であるから簡単に見ること自体が至難の業である。いちおう保

小屋のテラスにはいろいろな人種が集まり、明日めざす頂上を見上げている。それはそれはでかい岩山で、小屋までの低い雨林帯とは全く異なる景色だ。巨大な岩山が天を突いて垂直にそそり立っているが、上方部は厚い雲におおわれて見ることができない。見えるかぎりでは森林限界はかなりの標高のようだ。

翌未明2時の出発予定で早々に寝たが、夜半に天地倒逆のごとく天が割れるような雷が1時間以上続き、小屋の中にもも恐ろしくて眠れなくなった。やっと重苦しい時間が過ぎ、出発の時刻になってきた。

K国の登山者グループは、何と公衆電話で街にいる友にだろうか、「今から登るんじゃ、うらやましいやろ」とデカい声でがなっている。このグループは昨夜遅くまで皆の迷惑も考えずに酒を飲み、デカい声で騒いでいた。どこにでもこの手合はいるものなのだが、日本人でないので心底はっとした。

さあ出発だ。外に出るとすごい湿度でいさなりモワリとする。ガイドはついさきほどまで喋っていた雷をまったく気にせず、何も無かったかのように歩き出す。

毎日恒例だという。たくさんの人が歩き出し、夏の北アルプスの表銀座のようだ。

3700m付近で樹林帯が終わり、岩山登山になる。ロープや鎖がしっかり設置されているから、真つ暗闇の中でもさらさらとたどれば頂上まで着けるのだ。8900mあたりからすっきり晴れてきた。星雲の下、美しい夜間登山だ。かなり冷えるが、前方を行く人のライトがチラチラと見えると元気が出る。

約3時間半で山頂(4100m)に登く。山頂から見るとキナバルの山容は奇様な岩の塊でロックのようだが、いっばい突き出ている。ダイナミックで異様なこの光景は来て見るべき価値がある。霜生と岩峰、さすがに皆が山行を希望するだけはある。

帰路は絵はがき通りの光景を清映しながら小屋までくだる。朝食後、登山口まで一気にくだる。急勾配を5時間くだるので、着いた時は足がパンパンに張ってしまった。

今回分かったことはバックツアー会社には申しわけないが、

①キナバル山は実際には安く行ける。航空券が往復で8万円、登山ツアーは1

泊2日で1万円のホテル代は3泊で1万2千円。間違いないにツアー料金の半額である。

②一生に一度は行くべし、それも個人旅行で十分だ。

以上……と言いたいところだが、実はラフレシアが残っている。帰山後ツアーデスクへ行ったのだが、やはり駄目。仕方なしに娘を説得して、またキナバルパークまで行き、ジャングルトレッキングをした。園内で栽培したウツボカズラを見た。登山中に見たのはその蓋が大ジョッキぐらいあったが、このパークのはカキの殻ぐらいいかない。娘などは天王寺公園の植木市のほうがもっと大きいし、数も多いと怒りだした。わざわざマレーシアまで来たのに、これなんだから娘の気持ちもよく分かる。

帯在中、何とかなだめようと他の村へ馬祭りを見に行ったら、車酔いをして吐き、別の離島へシュノーケリングをしに行けばドリアンのドブくさい臭いが漂い、その上珊瑚は死んでいた。彼女にとっては散々なマレーシア旅行であったに違いない。何とも申し訳なかったが、当の娘

は意外とこの園が気に入っているようだ。どうもその理由には中絶の料理、マンゴスチン・マンゴなどの独特の南洋フルーツ、大きなアールリックのホテル、現地の人の優しく穏やかな仕草、全てがアジア人のこの子に水があっていたようだ。

帰る日にホテル内にある、木で作った模造のラフレシアの前でスナップ写真を撮り、今回の旅行の記念とした。
(平成8年8月歩く)

★ラフレシアはラフレシア科の多年生植物。ブドウ科植物の項に寄生し、無葉緑。地上部は花だけ。花全体は圓球形で、直径1.5cmに達し、世界最大。五枚の多裂な花弁は赤褐色で、黄色のいぼが並び、悪臭を放つ。スマトラ島など熱帯アジアの林下に生じる(『広辞苑』八訂版書店)。

比良を歩く ⑤

連載 北比良峠から武奈ヶ岳・ヨコタニ峠

秦 康 夫

シリーズ第5回は思いがけない雪山登山となった。

【気象情報によれば、滋賀県北部は曇り時々雨、降水確率は午前60%、午後40%。おまけに早朝6時頃の京都はしとしと雨模様。状況が悪化すれば途中で引き返すことにして、】京京都駅から湖西線近江舞子行きに総勢5名が乗車した。

比良駅からの江若バスは、日曜日にもかかわらず乗客はたった十名。比良山系に近づくとつれ、道端に除けてある雪の塊が目につくようになる。「アレッ! 雪がある!」というのが率直な感想。3、4日前に比良に雪が降ったのは知っていたが、このところ京都では気温が異常に

高く、すっかり融けているものとばかり思っていたので、うかつなことに雪山は頭になかった。

終点の「比良リフト前」で下車し、「さんろく駅」からリフト・ロープウェイを乗り継いで北比良峠の「山一駅」に向かう。運賃は片道1100円。昨シーズンまでは950円だったので約15%の値上げ、われわれのペースアップと違ってアップ率は豪快である。

幸い雨は上がったが上空は薄い雲におおわれ、ロープウェイの窓の外は一面のガス、視程は60mくらいか。間近に眺められるはずの雲霧帯も姿を見せない。リフトは分、ロープウェイ7分で山上駅に



ツルベ岳

着いた。気流は6度。オーバーズボンにロングスパッツを着替えて駅の外に出ると、一帯に銀色の世界が拡がり、思わず歓声が上がる。今シーズン初めての雪山に、全国高揚する気持ちを抑えきれない。久しぶりの雪の感触を楽しむため、比良ロッジを経由せず直接八雲ヶ原へおける道をとることにした。

八雲ヶ原の木橋の雪はすでに融けていて、薄氷を透かして見えるジュンサイは寒そうに揺れている。あたりには淡いモヤが立ち込め、花こそないが、初冬の八雲ヶ原湿原の雰囲気もなかなかのものである。

スキー場のゲレンデ横から山道に入る。積雪は20センチくらいだがベタ雪で滑りやすい。純白の雪をすくって口に入れてみる。「比良の雪はおいしいぞー」と言うと、「京都先斗町に降る雪よりうまいか?」とだれかの声。「融けて流れりゃみな同じ」などとアホなことを言いながらイブルキノコバを通過。

雪面には、ウサギの足跡が鮮やかに残っている。長い後ろ脚の跡が、前脚の前方に印されているのが特徴的で分かりやすい。少し離れてひづめの跡のあるのは狸かイノシシか。アニマル・トラッキング(「トラッカー足跡」というらしいが、雪のフィールドに残された動物のサインを追うのも雪山の楽しみのひとつだ。実物にはめったにお目にかかれない動物たちが、にわかに身近な存在に感じられる。沢の右岸に雪道が続く。清流は心地よ

い響きを立てて走っている。この道は比良湿原とも言われるほどの人気コースで、休日には人の絶えることがないが、さすがにきょうの天気では登山者の姿も見えず、わずかに八雲ヶ原でテントを張っていた三人連れに会っただけ。

所どころ吹きだまりで雪に足をとられることもあるが、大したことはない。時間的にはほぼ夏道のペースと変わらない。薄日も射し、時おり青空ものぞくようになってきた。

登山道は沢筋を離れ山道に入る。ロープの張ってあるガレ場を慎重に越え、疎林帯を出ると東北に、きょう通過する予定のツルベ岳が見えてきた。北の空は明るい。武奈ヶ岳もようやく姿を現したが、山頂付近にはガスがかかっている。

コヤマノ岳・中岳への分岐を過ぎ、いよいよ武奈ヶ岳への最後の急登が始まった。えぐれた溝状の道から抜け出すとにわか強い風にさらされ、あわてて帽子の紐を締め直す。ここからが、砂地の滑りやすい急斜面で、いつも苦労するところだ。ふと見ると斜面の左端に、ごく最近設置されたらしい階段がある。黒いビニールパイプと支柱で作られた簡単なもの

のだが、この50数段の階段のおかげで、なんなく西南麓との山合に出られた。

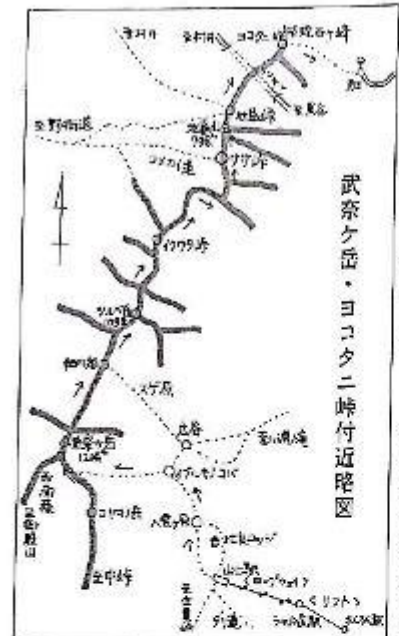
数分で武奈ヶ岳到着。昼時だというのに、日頃の喧嘩がうそのように静かな山頂だ。昼食中の二人パーティがいるだけである。ガスも上がりこれか行くツルベ岳から、最北端の蛇谷ヶ峰西峰の電波塔まですっきりと見渡すことができる。

下界を眺めると、安曇川側の橋の水、細川・朽木あたりはすっぽり雲の下。白合岳の頂上が白い雲の上と思えばいい姿をのぞかせている。東方向も、ガリバー旅行村から穂川の流域、恵ヶ瀬あたりまで

一面に雲が広がるなか、シヤカ岳・ヤケオ山・岩屋砂利山の山頂だけが雲海の上にはっきり浮かび、まるで北アルプスの高みから見下ろしているような気分にしてくれる。

日頃見慣れない光景をちょっと楽しみたかったが、風が強いので早々に北麓へくだることにした。急坂をおりて細川越の手前、疎林のなかの乾いた場所を選んで昼食にする。

50分ほどのランチタイムを過ごし、ツルベ岳に向かって出発。紅葉も終わリナサの緑も色あせて暗褐色が支配する冬の林に、ツルベ岳の山頂が白く輝いている。ツルベ岳の山頂は、ツルベ岳の山頂が白く輝いている。ツルベ岳の山頂は、ツルベ岳の山頂が白く輝いている。ツルベ岳の山頂は、ツルベ岳の山頂が白く輝いている。



山歩きの一番重要なポイントは「靴」です。「靴」の選び方・合わせ方次第で山行が楽しいものになるか、終始苦痛なものになるか、それはもうエライ違いです。初心者から上級者まで、あなたの足に合う「靴」をアドバイスいたします。又、自分の山行に合うグループの紹介もしております。

○山用品は全て安く揃います



山・スキー・専門店 青徳山荘
 京橋店 大阪市都島区東野田町2-9-24
 ☎ 06-351-8691

リンゴのような味だった。

すっかり葉の落ちた雑木林を抜けると杉が現れ、間もなくツルベ岳(1098m)の頂上に着いた。三角点はないが、それより立派な雄鶏岩石柱があるのも道理で、ここは地図によれば大津市・木曽町・高島町・朽木村の四つの市町村を分ける境界になっている。名付ければ三國山ならぬ四國山とでも言うべきか。

小瀬下山開始。落ち葉の上には雪が乗って滑りやすい。だれかがシリモチをついて大石をあげているが、下はやわらかいので大丈夫だ。右を見下ると、高島のあたりは相変わらず雲海にすっぽりおわれており、ヤケオ山からヤケ山にかけての稜線がその上に浮かんでいる。その北方、キザギサの林道が山腹につけられた三郎ヶ岳の姿はここから見ても痛々しい。

薄日が射してきて、もう雨の心配はない。正面に蛇谷ヶ峰を眺めながら、ゆるい登りくだりを繰り返して、ササのなかをのんびりした稜線歩きが続く。はるか東には伊吹山の姿も見える。

地図に記されているイワタ峠は知らぬ間に通り過ぎ、朽木村の山行会によつ

て閉かれた栃生・野街道ルートの標高がある。3層の小ピークで休憩。道脇のササを見るから、約3層四方にわたって、葉柄のところから上が見事に全部かじられていた。若葉のころ鹿のユサになったらしい。

二つ小ピークを越えるとササ峠と記された道標に出合う。左にくだる道は、やはり朽木の栃生・野街道へ出るルートで、先ほどの道と途中で合流するようだ。コメカイ道と名付けられている。その昔、牛の背に米俵をのせて峠を越え、高島から朽木まで米を運んだ古道の名残だが、いまは、朽木村によって整備された立派な登山道になっている。この道より北に猪谷の源頭のエジキ滝の下を横切って、直接地蔵峠に達する山道があり、われわれは、それをコメカイ道と呼んでいた記憶があるが、幾つもの米買い道があったようである。

地蔵山までのコースも、ひとところに比べるとずいぶん歩きやすくなっている。798・7層の3等三角点は、以前はササにかくれて見落とすことが多かったが、今はまわりがきれいに刈り込まれていて分かりやすい。地蔵峠を過ぎると道は縦

線に沿って右に回り込む。この下あたりを林道のトンネルが通っているはずだ。ヨコタニ峠(伝説的ヨコタニ峠と呼称されていたが、最新の登山地図では昭文社もヤマケイもヨコタニ峠となっている)には15時15分ごろ到着した。西方向に、横谷を経て村井への案内標識があり、昭文社の「山と高原地図・比良山系(1998年発行)」にも、比良縦走路と同じ赤色の実線で、登山道(一般路)として記載されている。

登山道(一般路)として記載されている。次回のコースに予定しているのが、下見のつもりで少し歩いて見たが、一面のブッシュで消らしきものは見当たらない。すでにかなり前から廃道になっているようだ(「ヤマケイ登山地図帳」ではこのコースは一級登山道にはなっていない)。

ヨコタニ峠から畑へは、落石俵の積もった歩きやすい道だ。雑木林のなかをくねくねと曲がりながらおろて行く。林道を横切って集落に入り、直徑2層ほどの立派な杉がある八幡神社の前を過ぎると、畑のバス停は間もなくである。近江高島行きの江若バスは他に客がおらず、貸し切り状態であった。

(京都北山グループ例会、平成9年12月7日歩く)

勇氣ある心やさしい若者に感謝

リーベン・ネンチンレン(日本人青年)

台湾

今井 淑雄

山で命を落とす機会は、幾つでもあると認識したのは、3月27日夜から31日未明にかけて、東アジア最高峰・玉山(日本名 新高山、標高3952m)から八通関・八通関古道縦走をした時だった。

3月28日朝8時、上東嶺山荘登山口は昨日までの寒さとは打って変わり、標高2800mながら、25〜26℃。冬山から夏山へのシーズンの変わり目というより、まさに夏山と変わらぬ暖かきだった。

29日、玉山山頂を極めたのちの、北峰への急斜面には、幅40m、縦500m程度の踏み跡もない雪渓だけが「今まで冬だった」と、「お前たちが最初にトラバースするパーティーだ」と語っているようだった。

た。この縦れを知らぬ雪渓が、体力の劣った未熟な中年の足を滑り、突き落とすのは容易なことだった。十一人パーティーの二〜三番目を進んでいた中年は、急峻な雪渓をコガネムシが転がるようにコロコロと落ち、途中二ヶ所のブッシュで減速・加速を繰り返して、三番目のブッシュで停止した。冬山経験のない中年は寒さを心配して異常に厚着し、また、せつかく持参したアイゼンも装着せずの事故だった。朝7時、捷索山荘を出発して3時間、わっくくりと起き上がったその男は、また盛り込んだ。

後に、彼は左肘、右腕の打撲と左足首の激痛、近視眼鏡破損による視界不良を

登山に必要なものは、
国産・舶来
すべて揃っています。
足にピッタリ/
登山靴のことならお任せ下さい。
(定休・火曜日)
〒804-0077 京都市中京区丸太町通堀川東入
☎ (075) 211-5788
☎ (075) 231-0318
山とスキーの専門店
京都 ムラカミ

- ▲コースタイム▼
北比良峠(35分) イブルキノコバ(45分)
武奈ヶ岳(30分) 細川嶺(30分) ツルベ岳(1時間10分) 地蔵山(30分) ヨコタニ峠(40分) 畑バス停
△地形図▼
2万5千 比良山・北小松
昭文社 比良山系
山と溪谷社 比良・北山東部

訴えていた。もし彼の落下箇所が5分程度手前だったら、減速させたブッシュもなく、さらに長い急な斜面を駆け落ちてガレ場に突っ込んでいたことだろう。

口際のくだけた道は、凍った雪を残し登山者の足をもたぬ。足元に気をとられながらの長いくだりが続いた後に、再び、小さな雪渓を横切る。中年の足は、ヨチヨチ歩きの子供のそれに似て、しっかり雪を踏みつけることなく上滑りにズレてゆく。と、その途端またもや足をとられて下降開始。3層も滑れば、2層の落差の下には大きな岩石が待ち受ける川原だった。その時、自衛者をマークして、後ろに続いてきた若者が、素早く、ズリ落ちる中年の腕を掴み引き上げた。

12時半、パーティーは小休止。少しずつ遠ざかる玉山岩壁をバックに川原で仲間とのスナップ。凍った雪道も終わり、行く手は平常の山道が続くだろう、との勝手な期待と安堵感に満ちた楽しいひとときだった。

だが、踏み跡のない雪渓だけが、シーズンの変わり目を告げる危険地帯ではなかった。八通関、否、観音まで、ガレ場

流れ止めの柵も横も流されていたのだ。中年が三度目の命拾いをしたのは、山腹の草にかくれた20×30坪の山道の穴落部だった。控いて左足をさらにひねり、痛みに堪えかねて叫び飛び上がった。彼に続いて若者は、調整を容れず中年の体を着地させようとした。谷側にはみ出した尻を「ヨイショ」と道に引きずり上げた。中年の足はかなり悪化していたのだろう。

若者は、傷ついた中年のリュックを、気負う風もなく、無言で、自分のリュックに結びつけ、歩き始めた。その姿は、カモンカが急峻な崖に背筋をゴシんとすに似て涼々しいものだった。

最初の崩壊したガレ場をおそるおそる渡りきると、その背後にそれまで隠れていたさくらに険しい大きなガレ場が現れた。一同、思わず後ずさりするほどで、いったん転落すれば数百坪下の谷底へ滑り落ちる。ガイドはバレーティに進行を促す。思わず体が強張るが進むほかはない。足がすくむ。ガイドが「体を垂直に立てろ」と言い聞かせても、姿勢が斜側に寄ってしまふ。途端に両足がズレた。目だけが驚しく次の足場を求め、体はノロノ

ロとしか動かない。滑落がおそろしく、目線より高い位置に着地したり、先で待つガイドの差しのべた手に、しがみつくようにしてたどり着いた。中年の面露を見ていたのは、サブ・ガイドの台湾大生・洪君。渡りかけた一同が、そこに見たのは、三番目の、今のよりさらに大きなガレ場。ガイドと若者は先行しており、それを知りつつ、我々を二番目ガレ場を通り越させたのだろう。

二番目のガレの次はくぼみ、くぼみの向こう側には山道が見える。そのガレを洪君を含め三人が渡るが、ガイドはくぼみの蔭に隠れず山腹を直登し始めた。くぼみの蔭には、ガイドも渡れぬ崩壊があったのだ。恐ろしさで座り込んだ我々の所に戻ったガイドは撤退を決定。中年が先に足を踏み外した地点まで全員退却した。

「安全地帯まで戻り露営し、ガイドがレスキュー応援のため、単独で排雲山左へ戻ってどうか」「時間はすでに午後3時だ、遅過ぎないか」「レスキュー隊は明日でも到着できない」などとガイドを入れぬ議論がなされ、それを提案することにする。代表者が戻ってきたガイド

洪・若者・楊氏以外にいない。時刻は既に闇の迫る16時近く。その三人が、岸の下にたどり着いた後続者七人のリュックと体を引き上げ終えた時には、すでにあたりは、とっぷりと夜の暗闇につつまれていた。一時間ほど登ってまず進んだ頃、右手に四本の光線が輝く。思わず引き寄せられた。そこは四人の先着者が炊飯をしている最中の、八通関山小屋だった。19時10分。目的地の標高まで、「七拾分」と、道標は言う。負傷者を一人抱え、しかも夜、これまでのすさまじい崩壊地を越えてきたことから、さらにそれが続くかも知れない登山道。

二日後に出動予定の勤め人は、その日の内に視高到着の希望を捨て切れずにいるが、とりあえずガイドの指示で、夕食の準備にとりかかる。中年は到着するや、シュラフで眠られた。

小屋の中は、別着四名が、ゆったりとしたスペースを取って就寝中。残り十一人が、小箱に入れたイモムシの詰め合わせのように隙き間なく荷を寄せ合った。粗末な小屋だが、とにかく風邪を引かず明日になればいいのだ。中年男は夕飯も食わず、眠りこけた。

四日目(30日)、5時半起床。お粥を食べ、7時40分出発。ガイド・中年・若者の順に隊列を組み直し、前日の目的地であった視高をめざして歩く。シュラフ・水などの重量物をガイドに任せ、中年もきょうはリュックを背負う。昨夜、夜間歩行を断念したのが正解だったと、歩行開始30分もして気づく。登山道崩壊はまだまだ続き、上は、下にと持ちながら恐怖の歩行は連続する。中年はその都度、若者に助けられながら進む。一回が視高に着いたのは9時20分。平常の一・五倍近くを要していた。遅れるほどにメンバーのイライラが募るのを感じたガイドは、東峰温泉までの14.5km程を二団に分けるほかなかった。もちろん、そこから先の八通関古道がさほど危険ではないとの判断をした上での決定であったろう。

先着組は午後4時半過ぎ湯釜街「東峰」に、遅れること2時間差でガイドと足を引きずった中年が到着した。昼食のスケジュールが夜時になった。若者は別働、北海道出身の日本人青年。雪渓事故以後、あらゆる場面で見事なメンパーへの勇気ある心やさしい必要な援助に感謝し、それを賞賛し、ビール

に話しかける。しかしガイドはどっどっど、ササと木の漣にた選もない山腹にもぐり込んでゆく。ガイドは聞く耳を持たず、やぶこぎを主張し強行したのだ。」「頂上に着けば、尾根道がある。目的地までの危険箇所は一ヶ所、他は安全」と通訳される。じっとしていれば、すぐに落日。やぶのなかでは確にもなれない。

一同焦燥感に駆られながらやぶをこぐ。登・降・横移動を繰り返す。登ってまづ尾根道へ出るのが目標ではないのか!? 何度も腹を立て、あきらめ、また腹を立て……いこうに尾根道に迷い合えない。小さなくぼみで小休止。顔を合わせても、声を出さずもいない。中年男も洪に後ろを支えられ、離れずに来ている。また移動。これを何度と繰り返すうち、赤テープを付けた枝、登山道が顔をだした。やれやれ、これで目的地に着けるか……。

だが、その先々でも行く手を阻むガレ場が幾度も出現した。橋が落ちた濡れた川の川原では一方を拒々とした木枝に結び固定、他端をガイドが持った当てもならない命綱を頼りに渡る。川原から岸の上まで、2・5分程度の岩壁を登れるのは、命綱の一端を握ったガイド以外に、

で乾杯。彼が次にめざすイリアンジャヤでの登頂成功を一同で祈念した。台湾人中年は、台北の医師により、左足首のヒビを報告された。参加者は台湾人九名、日本人二名。(平成9年3月27日、31日歩く)

山の本紹介	西尾寿一著
『雪山遊漢』	ナカニシヤ出版 本体価1,800円
『深峰閑話』	「閑話春秋」に続く 深峰閑話シリーズ三編の完結編
『京都山の会の会報』	「首領」の巻頭 「会報」に連載した文章を中心し、 珠玉の随筆集。「便利なもの」の裏側 に大きな無駄のあることを指摘して おいたが、「行動の基本」にエコロジ を隠せば案外簡単・単純な姿が見え てくるのが分かる」と筆者は結ぶ。 エコロジの視点から人間社会の 奇形を問う。良書である。

連載

カラコルム見聞録 ①

ラホールからチラスへ

芝野 泰明

パキスタン

96年(平成8年)2月、パキスタンの旧フンザ国ミール夫妻出席の日本人観光客誘致のためのキャンペーンが京都で開催された。

谷の里・不老長寿の郷・桃源郷・文藝三蔵の歩んだ歴史のコース・絹の道の基点などと種々に呼ばれるカラコルム地方は、インダス川流域に紀元前3000~1500年頃、既に高度な文明が発達していた。パキスタンとしての独立前はインドの一部であった。

西カラコルムに位置するパキスタンの北部地域には五つの5000m級峰と数多くの7000m級峰が連なり、世界第二の高峰K2(ゴビーンシ)や魔の山ナンガパ

ルバット(8126m)等、険峻な巨峰群の間を長大な氷河が流れ下っている。ヒマラヤ地方とは民族的・風土前によく異なるものを秘蔵している。私はその年の3月に訪ねてみた。

第一日目 ラホールへ

3月下旬、正午頃の関空発のタイ航空便で難波。バンコックで3時間の搭乗待ち、再びタイ航空便でラホールに着く。大阪からの所要時間約11時間。時差は4時間である。開発途上国共通の空速風降を後にしてバスで宿泊予定のホテルに入る。

行列が通行するための広い道路の両側はブーゲンビリアの花が空を染え、異国情緒たっぷりだ。

ラホール最大のバードシャヒーモスクは入口で下足を脱ぎ、裸足になって内へ導かれる。院内は大理石が敷き詰められた大広間で、四隅に赤砂岩で作られたミナールがある。西側には三つの大きな蘇坊主型の大きなドームがあり壮大だ。通常の礼拝所の天井のドーム、壁のアーチ全体は、多彩で細密なアラベスク模様でデザインされた壮麗な極めたものである。往時の王朝の勢力の豊かさや宗教力の偉大さを再認識する。晴れきった天空に向かって堂々と存在を誇示するドームの煌きは、たとえ現在貧困を辿らなくても、アラブはいつも明るく雄々しい生命力を内蔵し、世界の民族の長となり得る可能性を見せている。



バードシャヒー・モスク

旧市街のバザールに一步踏み入れると極端に道程も狭く、スラムの雰囲気になる。西側に隙間なく小商店が連なり、陽光もあまり届かない。衛生面は清潔とはいえないが、予想より塵芥も少なく、民族特有の臭気も気にならぬ程であるが、やはりガイドなしでは入れないエリアである。バザール中程にあるウズイールハンモスクは、規模こそ大きくないが、全体がぎっしりとモザイクタイルに包まれていて圧倒される。

午後市内観光を続ける。ラホール博物館でムガル王朝時代の有名な「断食中の釈迦像」を見る。西へ向かいラヴィー川を渡り少し行くと、ベルシャ風団のシャリーマル庭園、その裏にジャハーンギール廟がある。廟の中央に安置されている大雄石製の王の石棺を飾る貴石の入念な象徴は、まさに芸術品である。

ここから四方にある下屋の第の廟を彩っていた貴石類はすべて侵略者により削ぎされ、著しく荒廃した姿を無残にさらしている。

ラヴィーロードを横切り、鉄道線路を越えると、椰子の樹が散立するオアシスのような風景のなかに、スールジャーハン

第二日目(晴れ) ラホールにて

金曜日はイスラムの安息日で、街は比較的閑散としている。マイクロバスで市内観光。巨大な赤砂岩の煉瓦積み風の城壁に囲まれたラキールフォート(城)内は外観と全く異なって緑豊かな公園で、子どもたちがシーズンの風合戦に興じていた。

王の個人謁見所を経て大広間に出る。大広間といっても華麗で、中央に池があってその中に舞台が設けられ、招待客は池の周囲に席を占めてショーを楽しむようになっている。この国の豊さには水が一番の御馳走なのだ。

現在博物館として使用中の最豪華の建物は王の私用の棟で、柱・壁・床・天井ともすばらしい貴石やタイル絵のモザイクで装飾され、嵌め込まれた小さな鏡に灯かりが輝く華麗さは想像に余りある。回教では偶像を忌避するので、装飾等は花模様か幾何学模様である。開口部に建具類がないが、気温の低い季節は厚手の織物で着たようだ。最も感じ入ったのは豪華対策で、厚さ10cm程の大大理石の全面に通し彫りを施し、そこを渡る熱気を冷風に交えていた。儀式や祭典の際に象の

廟がある。ようやく傾きかけた夕日に映える赤砂色の廟の、落ち着いた麗な容姿は王妃にふさわしい廟のように思えた。夕刻、国内便でイスラマバードまで1時間の空の旅。すっかり暮れて昼間の熱気は消え、少し肌寒いほどだ。

第三日目(晴れ)

イスラマバードからチラス

北京経由で到着した東京組五名と大阪組七名と添乗員、現地案内人、運転手の計十五名がパーティーを組み、いよいよ往

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発株へ!!



スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(745) 3911・FAX 06(745) 3983
(夜間) 電話 06(945) 0816・FAX 06(945) 3044

- ・小型 (20人・24人)
 - ・中型 (28人乗り)
 - ・中2種 (46人乗り)
 - ・大型 (55人・60人)
- いずれもサロンカーからデフックスまで

1等三角点峰(5000以上) 548座完登の記録(第8回)

九州・中部・関東の山を攻略

坂井久光

東洋電波に入社したが、山岳部がないので「匠人クラブ」会員の山本寛氏ら有志で山岳部を創設し、会報「雄峰」を発行した。淡路島の輪鶴列山や水仙境を探訪したり、六甲山に猪を見に行くなどして社員との交流の場を作った。

昭和56年のゴールデンウィークに九州の御座ヶ岳(9977呎)・櫻橋山(9544呎)を始め、祖母山(17757呎)から嶺山(2等三角点)への縦走をし、由布岳(15844呎)から鶴見岳(3等三角点)に登った。これらを登れたのは日本山岳会大分支部事務局の西季子女史とその友人窪田氏のご協力のたまものだった。祖母山は神武天皇の祖母豊玉姫に因んだ命名とか。

シデの本・アサダ・アツサ等のカバノキ科や、ヒメシヤラ(菅科)・ツガ等が茂り、アケボノツツジが美しく映っていた。

この頃「1等三角点研究会」創立の同志の一人であった東京山岳部長で研究会の理事長をしていた宮後氏が、激烈な業務のためにストレスが積み重なり、胃ガンを患い、前逝を囑望されていたが、昭和56年10月に亡くなった。

夏から秋にかけて東北の与志山(9022呎)・鳥帽子岳(8544呎)を単独で、丁岳(1146呎)は赤湯市の若藤喜一氏の案内で登ったが、嶺が二つ建っていたのには驚いた。研究会の例会は鳥帽子山で、川越・滝沢両氏のリーダーで登った。

(6455呎)・東石谷(7744呎)を登った。日が暮れてけわしい谷を流を捲きながら下山した。翌日は対馬の有明山に登り、古湯温泉で一泊して天山(10045呎)に登った。山上に阿蘇氏の碑があり、故郷阿蘇の噴煙を望みながら自刃した無念さを偲んだ。広大な展望に時の経つのを忘れた。

この時背振山系の金山(9677呎)にも登っており、翌年の昭和57年元旦には最近噴火した菅野岳(1359呎)に登頂し、続いて長崎大学教授の片寄・鳥巢両氏の案内で、八郎山・長浦岳・虚空蔵山・多良山を訪ねた。

3月に再び九州に行き安曇岳(5144呎)・国見山(7777呎)・経ヶ岳(10766呎)・鷹取山(8022呎)・釈迦ヶ岳(12222呎)など、単独で登り続け、5月のゴールデンウィークは、新穂山(22220呎)から国師岳(22220呎)・東峰(22222呎)・三笠山(24033呎)・金峰山(22222呎)と縦走した。金峰山小屋と甲武信小屋で泊まったが、水道が止まっていたので夜食がまず持参のラーメンで自炊した。次いで十石峠を越え破風山、古木山を縦走し、鷹取山(2018

呎)に登頂した。展望広大、原三角点があった。これは明治の始め、内務省が実施した大三角測量の名残であり、現在は米山とここぐらいにしかない。

山麓の三条の湯へ下山したが、途中には松やトウゴクミツバツツジ・ハンシロコロ(毒草)が咲き誇り、まるで桃源郷にいるような心地がした。三条の湯は沸し湯の温泉宿だが、料理もよく、檜風呂で山酔いの汗や垢を流した。

翌日、千葉の川越氏を訪ね、付近の1等三角点根拠を案内してもらった。キンラン・キンランが咲き、ジュウニヒトエも咲いていて野草の宝庫だった。彼の店でそば料理を御馳走になり満腹した。

昭和57年の春の例会は越後の妻ヶ岳(11222呎)だった。前日育登山(6333呎)を登り、釜石山温泉で一泊した。この時新ハイキング創立者のひとりである産省の局長だった現研究会理事の河田氏に会った。彼は「山の旅鳥」を始め多数の著作があり、全国の1等三角点を闊歩しておられる。妻ヶ岳は快晴で、故松浦副会長や福久氏も参加された。山ワドやワラビ・ゼンマイなどが多くあり、河田氏と二人で土産にした思い出がある。

大鼻山山頂



その後、毛無山(1845呎)に福久氏と登ったが、ギョウジャニンニクの群落があった。

この年の秋の例会は安曇権現山(12222呎)だったが、参加者がなくて一人で小鼻山や周辺の山を登って帰った。好天でカラマツ林のなかの歩行は最高、鹿島嶺の展望も良かった。晩秋の11月、再び九州に行き、西山

夏は飯登山(21055呎)に登り、秋には東北の大東岳(13666呎)・火打岳(12222呎)・花澤山(9885呎)を登った。例会で信州の陣場平山(12588呎)を故清水天の案内で登った。

年末・年始の休日に、一人で宮崎の高畑山(5188呎)・牛ノ峰(9188呎)・輪田岳(17700呎)・白鹿山(8933呎)・浦与志岳(9688呎)・野首岳(8977呎)を巡遊した。九州開端は正月でも菜の花が咲き、キリシマエビネが群生していた。シイ・カシ・クスノキ・ヤブデなどの常緑樹林帯では、落葉葉が厚く積もった森もあり、歩く足が沈むほどであった。

昭和58年3月、山梨の御坂黒岳(17793呎)に登り、続いて九州熊本の高ヶ岳(5011呎)と熊ヶ岳(6885呎)を日暮れてから登った。その年のゴールデンウィークには、阿蘇の鳥帽子岳(13377呎)・鏡山(6455呎)・大崩山(16433呎)・元鏡山(5822呎)を巡遊した。大崩山ではアケボノツツジの美しい岩峠を登った。下山に別コースをとったため、針金のある急崖をくだったり、約30分幅の一枚板の橋は、長さ516呎で

全く手がかりがない。30分下は岩を咬む急流が流れている危険な橋で、死を覚悟して渡った。全く冷汗もので道を誤まった後悔の念がいまなお腹裏を去らない。

6月に宜崎の速日ノ峰(8688m)、米山(1992m)を登り、8月に北海道深川市の田中利一氏の招待で泊して晴天を待ち菅江山(点名入籍月峰・7995m)を登り、続いて登った近くの和寒山(7400m)には本点天測点があった。天塩川(1556m)は上土別の旅館に一泊してからタクシーで登山口まで行った。入山届けに記載して新コースをこって登った。音江山の点名「イリムゲップ」はアイヌ語でスズミの曲の意であり、天塩の「テシ」は築で、築川の水源の山という意である。下山後、旭川に戻って一泊。翌日安尾間岳をめざして愛山溪・峰越峠まで行き、林道をつめたが、その先はネマガリダケのやぶでしかたなく愛山溪口のバス停へ出て旭川に戻り、北海道テレビの平野明氏を訪ねた。8日に樽前岳を案内できるからと7日に深川市の田中宅で会う約束をした。その日は美瑛温泉のバスに乗り途中で乗り換えて白金温泉の十勝荘に一泊した。

翌5日、十勝岳に登り、大展望を楽しんだ。上ホロカメットク山で京都南大生の一行と出会った。エゾツツジ・イワブクロ(タルマイソウ)がめずらしかった。高良野岳(13382m)ではシマリスと出合った。十勝岳温泉に下山したが、宿舎は満員だったので、車を呼び上富良野駅前の旅館で泊まった。

6日、那美山(8191m)に登るのでJR(当時は国鉄)で滝里駅に行った。山麓の農家で道を尋ねると今は消えていないとのこと。

「何しに行くのか。冷夏でヒグマが里山において来ているから危いからやめなさい」と言われたが、せつかく来たのだからと林道をたどり、イタドリ・ネマガリダケにおおわれた山道を登った。途中スズメバチや虻がつきまとい、後頭部に何か止まった感じがして、ボンとたたいたら、足下に三つ大のスズメバチが落ちた。驚いてすぐ靴で踏み殺して四方を見渡したが、その一匹だけでホッとしたり、いちだんと茂りこんだ尾根道を進んだが、のどが乾いてポットの冷茶を何杯も飲んだのと疲れとで、15時になっても山頂までかなり遅かった。このぶんでは山頂に

何時に着けるか分からない。下山中に日没するのは確実だと判断してやぶのなかを谷へくだり、急流の右岸・左岸と渡り、やぶに筒と鈴を奪われて、爆竹を鳴らしてくだった。ヒグマの糞や姿は見なかったが、大型の獣が飛び出してきそうな気配がした。やっと林道に出て農家で水をいただいたが冷たくておいしかった。その晩は旭川市のステーションホテルで一泊した。

翌7日、深川駅で乗り換え、冬降山(6255m)へ登った。地理院の測量のため、切り開かれているとの田中氏の情報のお蔭であった。

標下内(を流す川の意)へ下山し、深川の田中宅で平野氏と会い、その夜は札幌の平野氏宅でお世話になった。

翌8日、平野氏の愛車で樽前岳(10244m)へ登った。標下には支笏湖が望め、展望広大な1等本点があった。この山は今でも噴煙を上げる活火山である。札幌に帰り、夕食は薄野の料亭で、後方羊蹄山登山や今西氏の会合で知り合ったJACC会員を呼び集めて私の送別会をしてもらった。翌9日千歳空港から帰京し、私の北海道での夏山を終わった。

善童子王子跡から道成寺

熊野街道探索(紀伊内原駅〜御坊駅)

コースタイム JR紀伊内原駅(30分)〜善童子王子跡(20分)〜天香山(15分)〜天香山(30分)〜善童子王子跡(30分)〜御坊駅(15分) 1日 1日 熊野街道(熊野) JR御坊駅(徒歩12分)

中村敏文

① 善童子王子跡(御坊市藤田町宮安)内原駅まで車し、日高郡日高町の大字、南木の東端で内原王子神社(高家王子跡)から東南へのびる熊野街道へ入る。このあたりは古代の寺社領高家庄に含まれる地域で、中世は湯浅氏の支配などをへて近世は幕府領に編入された。高家・油田・南木など高家庄内の地名は江戸時代にも残っていた。

御坊市域に入ると10分足らずで旧熊野街道の西側に善童子王子跡がある。明治末期に湯川神社に合祀され、現在は古びた小祠だけである。平安時代の「中右記」には連同持王子参詣と記され、「後鳥羽院熊野御幸記」に田嶋次王子と記され、その他に伝置王子と記した古文書もある。

「中右記」は中御門右大臣藤原宗忠の熊野詣日記で内容豊富な貴重な記録である。「御幸記」も後鳥羽院上皇に同行した左近衛権少将藤原定家の記録で、熊野王子社が八十社も記録され、平安朝の上皇・貴族の熊野詣を知る貴重な資料となっている。

善童子王子の当て字は鎌倉末期の「熊野縁起」に準五体王子の一つとして見える。至聖以降には方一間の本堂と薬師堂が存在し、土地の人々は出王子・出童子と呼び社領・神主領とも一町歩も確保されていた。

旧下富安村の淨土宗大深寺は村の礎土神善童子権現の新願所大谷寺であった。

② 愛徳山王子跡(御坊市藤田町吉田) 善童子王子跡から松原宿への熊野街道を東南へ1.5km行くと、道筋が変わったためにみかん畑のなかに愛徳山神社跡の石碑がある。

八幡山北側にあった愛徳山の愛徳権現と1.5km南にあった九海上王子社は、明治末に現在の吉田八幡神社へ合祀されている。八幡山東山麓に鎮座する吉田八幡は平安期に石清水八幡より勧請された古社である。

八幡山南麓にあった九海上王子社は天照大神像を祭祀していたが、現在は道成寺の古古姫神像となって祭祀されている。古代は久和方王子、中世は桑間崎王子と記され、近世に入って道成寺観音の伝承と結び海士・九海上王子と記されている。

海抜727mの八幡山の山頂には辺見氏の一族古田藏人頼秀が八幡山城を築き、西の方にある1200mの龜山には当地の権力者、湯河(湯川)一族の本城龜山城が築城された。

③ 天香山道成寺(日高郡川辺町道成) 愛徳山王子跡からの熊野街道は南東へ

20分も歩くと右へ曲がる。左へ曲がると道成寺参道で、飲食・土産物店が立ち並ぶ門前町となっている。10分も東へ行くと重文指定の仁王門がある。境内は重文の広大な本堂を中心に、僧坊・釈迦堂・



道成寺三重塔

念仏堂・護摩堂・十王堂が並び、県指定文化財の三重塔が遺堂全体をまとめるように建っている。

本尊は海士が海中から拾い上げたという黄金の千手観音で、安珍・清姫の語話にある鐘巻寺ともいう浄土宗の寺院である。

寺伝では大宝元年(701)に文武天皇の勅願によって法相宗の義淵が開山し、建立奉行道成の功績を尊重して道成寺と命名されたという。豊臣秀吉により京都妙法寺へ移された道成寺梵鐘銘には、正平十四年(1483)の年号と「紀伊

州日高郡矢田庄

文武天皇勅願道成寺治持鐘」とある。

本寺の絵説き説話

は平安中期の仏教説話集「法華縁起」の第二九話「紀伊の思女が大蛇となって僧を追う」とあり、境内に願い籠



普童子王子跡から道成寺付近略図

櫃櫃、宝物箱に陳列された多くの重文を含む仏像仏具など、また、安珍・清姫の説話を中心とした巧みな絵説き説話法が人々の人気を集めている。飲食・土産物店の並んだ門前町の人波は寺の繁栄を象徴し、多くの人々が動いている。

④ 湯川子安神社(窪田市湯川町)

道成寺から九海上子跡へ戻り、紀勢本線を横切った西へ向かうと、熊野街道の宿駅がおかれた小松原宿湯筋へ入る。和歌山藩の伝馬所跡付近には本陣の「おやど」と大小の旅館があったが、伝馬所保護の時代や制約が仇をなして客筋が道成寺方面へ流れたようである。

湯川子安神社は亀山城を本城とした湯河氏の居館跡の社で、中世では当地域の中心集落が形成されていたと発掘調査で確認された。

湯河氏は甲斐源氏武田氏支流の武田三郎忠長を祖とし、現在の中辺路町に当たる湯川村に在住したが、その後辺に移動した。

室町末期の湯河十一代直光は紀伊守殿代となり、十二代直存は石山本願寺を助けて織田軍と戦い、秀吉の紀州攻めには龜山城を襲って熊野山中で抗戦したのちに降伏し、大和・紀伊の豪族ともども大和郡山城に呼び出されて死んでいる。

⑤ 西本願寺日高別院(窪田市御坊)

湯川神社から日高川をめざして熊野道はほぼ南へと続き、3キロ近くも行くと紀州鉄道の西御坊駅が近くなる。街道の東側に大御堂・日高御坊という浄土真宗本願寺派の日高別院がある。

室町時代作の阿弥陀如来を本尊とする風格のある寺院で、室町末期、龜山城主湯河直光の次男信春(祐存)を開山とする。直光は真宗道場を当地に建立すると次男を出家させて唯可と改め入寺させ、唯可は石山本願寺証如にあって私寺院の寄進を伝える。証如は白髯の御影と祐存の僧名を与え本願寺直属の別院となる。

紀勢本線が御坊駅から道成寺駅と東方の日高の山中に入るの、道路は紀州鉄道西御坊駅からJR御坊駅へ戻り、紀勢本線で天王寺駅へ帰る。

た館を譲ると巻き締め焼き殺す話である。

皇室貴族の熊野詣での道筋にあたる当寺の最盛期は一八〇町歩の荘園を領有し、僧坊二十八と築えたが中世以降は次第に衰える。

室町初期に矢田庄を領有した逸見万寿丸清重は、現在の土生の城の内に居城を構え、正平年間に道成寺梵鐘を鋳造させている。昭和五十三年より四回にわたる発掘調査で寺の創建年代・伽藍配置が確認され、文武天皇の第一皇子・普賢子(聖武天皇)の誕生年大宝元年の創建は確かであろう。

重文の本堂は瓦の銘から天授四年(1378)に逸見金尾丸存作の再建、仁王門は広く庶民の喜捨を得て文明十三年(1481)に再建されている。

戦国時代末期は龜山城の湯河氏らが織豊政權に敵対したため、慶長六年(1600)の浅野幸長の和歌山人国時に当寺の所領は没収され、本堂維持費としてわずかに五石が与えられただけであった。現在の道成寺は昭和後半に古い物を生かした復興が目覚ましく、核の名所にふさわしい伽藍配置、整備された境内の

「この花・この草」

Y-Nb (Gm, GRAMINEAE)

イネ科

我が家の二階から見える風景は、見渡す限り、稲の緑。吹く風に波打つ様子は、秋の黄金色とはまた違った美しさです。

原産地はヒマラヤ山麓、インド、マレー付近等、雑穀がありはつきりしません。生育期間中、高温多湿で水切れの良い場所が適しており、日本では北海道の一部を除けば殆どの地域で栽培されています。

生薬名は種子の「米穀粉」(コメコ)と、うるち米を「粳米」といいます。種子には含有されるフィチン酸には酸化防止・大腸癌抑制作用、オリザンスタテンには抗ウィルス、抗菌作用が認められています。粳米は「潤して口渴を止め、胃腸を丈夫にする」作用があり、熱があったり、腹が冷えて嘔吐時などの処方に用いられています。

病後の回復期や下痢・腹痛・食欲不振時には滋養強壮の目的でお粥を食すと胃の働きが増し、口の渇きも治まります。また脂肪の燃焼には糖質が必要で、減量する時にもご飯は力強い味方です。

暑い夏、クーラーで冷える夏も、しっかりとご飯を食べて乗り切りましょう。⑥

蔵王堂に蛙飛び行事を訪ねて

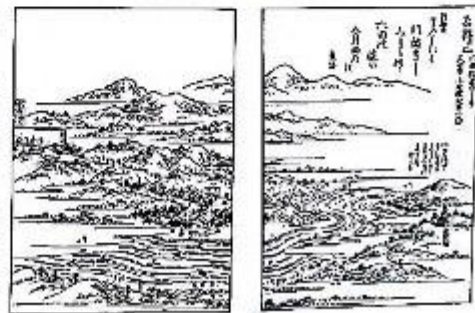
松永恵一

夏告げる大青蛙

ドラが二回響らされる。ピョンピョンピョンと大青蛙がユーモラスに飛び跳ねる。大導師が懺悔文を唱えながら、蛙を加持する。行者たちが九條湯女寮を唱行する。蔵王坊の住職が念珠をくり不助明王の慈容現を唱え、一同が和す。ドラが鳴る。竹林院の住職が五大尊の呪を唱え、中腹になって、大声で「還我頂礼、頌成證仏」と叫んで念珠で加持をする。ドラが鳴る。大導師が般若心経を唱え一同が和す。発菩提心、三昧邪戒の真言が唱えられ最後に本尊が唱えられる。大導師の脇に控えた二人の僧が、ぬいぐるみの蛙の首をはずすと、大青蛙が真人間に戻る。

蔵の名勝地、山岳宗教「修験道」の本拠地として知られる吉野山。その吉野山の中腹の尾根に、日本の山人の気骨の象徴のようにそびえ、四方を眺望している金峯山寺・蔵王堂。遠く白鳳年間(七世紀末)に修験道の開祖・役小角がこの地を道場として修行され、蔵王権現を感得し、そのお姿を桜の木で刻み、お堂を建てておまつりしたのが蔵王堂。以来、修験道の根本道場として多くの入々の崇敬を集めている。全山を埋める山桜が花を散らすと山桜特有の淡い褐色の葉が、遠望すると黄色い花を咲かせたように見える。この葉が一日ごとに早緑に変色し、そして青黄になっていく。葉桜が緑をいっそう濃くする7月7日、吉野山に夏の訪

吉野山「大和名所図絵」



れを告げる奇祭「蓮華会・蛙飛び行事」が営まれる。花どきの大雑踏から静かな山に戻り、何もかもが青く透けて見える真夏の朝を過ごし、再び多くの信者や観光客らで活気づく夏祭り。手作りの七夕飾りが軒に並ぶ吉野山の沿道を、蛙をのせた太鼓台が威勢よく練り歩く。色とりどりの葉陽花が咲き誇り、修験の山に本格的な夏の訪れを告げる。

蛙飛び行事の伝承

蓮華会・蛙飛び行事は、7月7日に役小角が座湯を使ったと伝えられる大和高田市奥田の弁天池の清浄な蓮の花を蔵王堂で法要し、山上ヶ岳頂上の大峯山寺本堂にささげる儀式。

白河天皇の延久年間(1069-1073)、高僧な一人の男が金峯山で修行中、蔵王権現の神力を侮る悪言を聞いたところ、たちまち大蛇にさらわれ、断崖絶壁の上に置き去りにされてしまった。さすがの高僧な男も当くなり、助けを求めていると、通りあわせた一人の高僧が憐れに思い、人間の姿では助け出すことができないので、蛙の姿に変えて助け出し、吉野へ連れ帰って、蔵王堂において一山僧侶の修行の功徳により、もとの人間の姿に戻してやったという。

室町時代初期に成立した「当山年中行事条々」には、蓮華会及び蛙飛びの記載は見られないが、5月9日の条に吉野一山の地蔵が、奥田から運ばれる蓮華を大六山まで運ぶ、蔵王堂に供え、その夜、験道を行つたと記載されている。そして、この験道べが蛙飛びであると推察されている。

蓮華会

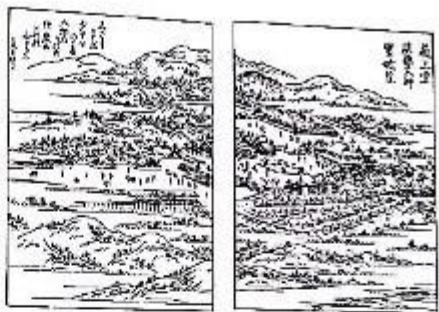
7月7日早朝、大和高田市奥田の弁天池の蓮池で蓮花が切られる。この地は役小角の母刀良光のいた地と伝えられ行者堂がある。採取された1200-1300本の蓮華は、二つの蓮華桶に入れられ、弁天社に供えられる。お昼頃、金峯山寺から迎えの一行が到着する。行者堂で斎戒護摩供が営まれ、蓮の受納式が終わる。蓮は吉野山へと運ばれるが、途中、大淀町六田の初花権現に献花される。初花権現は大峰二十五摩の最後にあたる柳の渡しの上に位置する。境内の正面右に蔵王権現をまつた小祠がある。この祠に蓮の花を供え、般若心経、諸真言、本尊讚をととなえ齋燈蓮華を行う。さらに吉野神宮に蓮華を供えて流経をし、下千本のケール山と坂に帰着する。

一方、吉野町内では午後1時頃、大青蛙を祭せた太鼓台が竹林院前を出発。力いっぱい太鼓台を担ぎ上げ、太鼓を打ち鳴らし、威勢のよい掛け声と「あれに見えるは吉野の花」と歌いながら、にぎやかに月夜き通りを練り歩いてケール山上坂をめざす。

蓮の花と太鼓台が眼前で合流。蓮華宝

輿に蓮華を納める儀式が行われる。導師が蓮華を加持し輿に入れ、周囲の行者が般若心経、諸真言、本尊讚を唱える。蛙を乗せた太鼓台の先導でいよいよ行列が蔵王堂に向けて出発する。蓮華講堂、法司、法螺、峰中法具、修験大衆(金峯山修験本宗所属の修験者)、法螺、唯衆(吉野一山の僧侶)、管長旗、管長、誓願二人、蓮華宝輿、蓮華桶(二つ)、法螺二人、信徒総代、奥田区総代、婦人教師、一般信徒ら二百人近い大集団となった一行は大行列を整えて蔵王堂へと練り歩く。一の鳥居、金峯山寺仁王門の奥で休憩した行列は、そのあと一気に石段を駆け登り、門をくぐって蔵王堂境内に到着する。吉野一山住職、吉野山や奥田の総代及び蓮華宝輿・蓮華桶は本堂に入る。内陣祭壇に蓮華が供えられ、管長を導師として蓮華会の法要が営まれる。願文奏上、法螺讚法、繪堂、供華、散華、引き続いた蛙飛び行事が行われる。

翌7月8日午前4時、蓮華会入経の一行が、蔵王堂前で立止の勸行後、蓮の花を携えて山上ヶ岳山頂の大峯山寺本堂へ向けて出発する。途中、各行場では蓮花が供えられ、流経が行われる。



葦七堂・威徳天神・貴城院『大和名所図説』

今回は、吉野山・金峯山寺・盛王堂の差
 葦会・蛙飛び行事を訪ねてみる。桜の名
 勝地であり、修験道のメッカである吉野
 山。その吉野山を象徴する金峯山寺・盛
 王堂で7月7日、吉野山に夏の訪れを告
 げる奇祭「蛙飛び行事」が営まれる。
 ヒョンピョンと飛び跳ねる大青蛙が僧
 侶の援救により真人間に戻る行事に参拝
 して、修験道の一端に触れてみよう。

コース概観

吉野山は馬の背の尾根を細い一本の道
 が南北に通っている。この古い修験者の
 道に軒を連ねる町並みは、いわゆる吉野
 建と言われるがけ造りである。一、二階
 が道より下にかけて出されており、三階が
 普通の平屋と同じ形なのである。

少し歩くと同門。大名も隨をふせ馬か
 ら下りて通った金峯山寺の総門である。
 攻が辻とこの黒門までの間は大塔宮と北
 条氏との最も激しい戦いのあった所。黒
 門を過ぎて急坂を登ると石段の上に梵心
 門がそびえている。銅の鳥居と呼び親し
 まれている。聖武天皇が東大寺大仏造
 の銅の余りで建立されたと言われる。山
 上々屋頂上までには、修行・寺堂・妙堂
 と合わせ四つの門がある。

吉野なる 銅の鳥居に 手をかけて
 京都の浄土に 入るぞうれしき



吉野山への道は、六田の渡し、今の美
 吉野を渡って、一の坂を登り、吉野神
 宮に詣で、長柄の尾根を登るのがいちば
 ん本格的である。

近鉄阿倍野橋駅から吉野行きの急行で
 乗り、吉野神宮駅で下車。駅前の石の鳥
 居をくぐって約1.5km登ると吉野神宮。明
 治二十二年、吉野の行宮にて崩御した後
 醍醐天皇の御業をしのぶ明治天皇の御意
 によって、吉野山の吉水院が奉祀してい
 た御遺像をお迎えしたのがこの社である。
 社殿は台湾阿甲山檜木の素木で建てられ
 た近代神社建築の代表的なものである。
 後醍醐天皇のご遺物がお慮され、本殿が
 北向きになっているのが珍しい。

神宮の裏門から出て吉野山への道をと
 ると長崎。少し進むと吉野城における大
 塔宮殿と黒土の無二の忠臣、村上義光
 の墓がある。大塔宮が最後を覚悟して、
 決別の酒宴をされたときに、大手の正将
 村上義光は、敵の矢を受けたまま瀕死に
 延びさせ、仁王門の高檜ののぼり、大音
 聲で大塔宮の名を告げて「汝等が武運
 忽ち尽す。腹ヲキランズル時ノ手本ニセ

と、真言を唱えて鳥居をくぐる。

すこし登ると道の突き当たり、石段の
 上に威圧するようなたすまいでそびえ
 る朱塗りの門が金峯山寺の仁王門である。
 北面して建つ仁王門から入って石段を上
 がる。いよいよ修験道の本拠、盛王堂
 に至る。山上々屋頂上に向かって南面する
 行七間聖閣八間、重層、入母屋造、檜皮
 葺、棟の高さ36尺、東大寺仏殿に次ぐ建
 物は、海抜346尺の吉野山中に巍然と
 してそびえ四階を階層している。本尊は
 金剛藏王権現。右手に三結杵を持って頭
 上にふりかざし、天界の無敵にいとみ、
 左手の指の刀印はすべての情欲や迷いを
 切り払う構えである。左足は磐石をふ
 まえて地下の悪魔を払い、右足を大きく
 上げて虚空に充満する悪魔を洞伏せし
 めんとしている。

ヨ」と言って、腹を一文子に横切り、は
 らわたをつかんで床板に投げつけ、太刀
 を口にくわえてうつ伏す、と『太平記』
 は伝える。史上で最も激しい切腹のさまだ。
 春なれば、左手の断崖から向かいの山
 手まで谷を埋めて白雲漢うごくく欄邊と
 桜花が咲きかかると地城が下の千本。上市
 から六田へと吉野川が眼下に白く光る。
 北方に高取山から高取山、大和と吉野の
 境をなす山々が連なり、その向こうに宇
 陀の山が東へ流れている。西には金剛・
 葛城・二上の山脈がどっしりと見守るよ
 うなたたすまいを見せている。

近鉄吉野駅からくねくねと登ってくる
 道が七曲り。ゆっくり歩いて登るのも悪
 くない。見上げると、吉野水分神社のあ
 たりから高取山・古根ヶ峰・愛染の峰が
 連なり、右手に大峰に連なる山並みが見
 るかにかすんでいる。登りきった所を攻
 が辻という。

吉野にて桜見せうぞ権置 芭蕉

『友の小文』の句碑が「大橋」近くの
 道端に建っている。大橋の板宝珠が疑る。
 「豊喜期百秀頼御建立奉行理部内匠頭
 光重寛長九年申辰十一月吉日大工三条藤
 原朝臣宗兵衛尉国次作」の銘がある。

本堂内の柱は8本あるが、木材の種類
 や寸法はまちまちで、太いものは直径四
 尺、細いものは一尺三寸に満たないとい
 う。松・杉・檜・梨など雑多な樹木の柱
 に、直径一尺を越えるツツジの柱も交じっ
 ている。正平三年(1348)に高師直
 に焼かれてから、復興まで百七年かかっ
 たという。康正元年(1455)に復興
 し、桃山期に大修理をした。万葉以来、
 御金の岳と言われ、黄金浄土の世界とさ
 れた金峯山の財方も、南朝の拠点として
 すべて使い果たしたのちの疲弊を思いお
 こさせる。

▲コース

近鉄吉野神宮駅→吉野神宮→村上義光墓
 →黒門→銅の鳥居→金峯山寺・盛王堂

▲費用

近鉄阿倍野橋駅→吉野神宮駅 950円
 近鉄吉野駅→阿倍野橋駅 950円

▲地形図 2万5千 吉野山

▲問い合わせ先 昭文社「大峰山脈」

総本山金峯山寺

07463(2) 8371
 07463(2) 8088
 吉野神宮

京都丹波

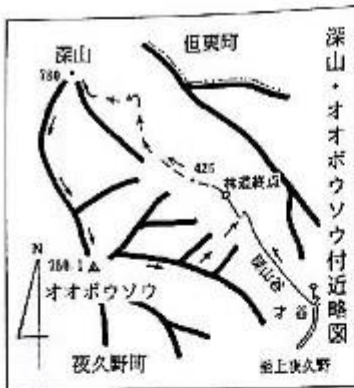
深山とオオボウソウ

中級コース(★★★)
廣佐次 盛一

夏はどこに行っても夏。高い山は涼しいが人でいっぱいだし、どうせ汗をかくて登るなら静かな山がいいということで今回は京都丹波の深山とオオボウソウを紹介しよう。低い山でも木陰に入ればけっこう涼しいし、滑らかな谷水で清涼感を味わうのも一興だ。

JR山陰線上夜久野駅で下車。一合しかないタクシーで北東方向の才谷へ向かう。才谷のすぐ先は小坂峠で、峠を越せばもう但馬である。才谷はわずかな農家が軒を寄せ合う小さな村で、町営バスの停留所もあるが日曜・祝祭日は運休で利用できない。

畑仕事の人たちに僅く会釈して深山谷



深山・オオボウソウ付近略図

た。
深山でゆっくりと休み、次は南方のオオボウソウをめざす。山頂から少し西寄りに進み、大きく広がる地形から南方への踏み跡を探せば容易に見つかるだろう。最初はあやふやな踏み跡も、進むほどにしっかりとした踏み跡になり、テーパーも所どころ残っている。けっこう起伏の多い稜線だが、標高差はほとんどなく、ミズナラ・リョウブなどが茂っている。

展望にはほとんど恵まれない稜線だが、右側が幼木帯となると、西に鉄鉾山(775m)からキン山(736・5m)・三谷山(679・2m)へと続く長大な稜線

の林道を進む。先の方に夜久野町最高峰の深山が見えている。草むす林道にはウツボグサの花が咲き、右の林道下にはミコウガの栽培地も見える。植林帯のなかに入ると視界が開き、道端にはウバユリの花も見られるだろう。この深山谷はかつて砂鉄が採掘されていたという。才谷の「サイ」も、サビ・サビとともに、鉄を意味する古語であろう。

林道終点はじめじめと湿った湿地状の草むらで、スギカミキリ駆除林の看板がある。ここからいよいよ本山道となる。はっきりとした踏み跡が残り、谷のせせらぎを聞きながら少しずつ高度を上げる。標高点428あたりで、道が二つに分かれたが、深山に近いと思われる右の深山谷沿いの道を選ぶ。

道はいちだんと細くなり、やがて踏み跡程度となる。先頭の仲間が先はやぶだと音を上げる。地形を判断し、谷から離れてここから直接深山をめざすことにする。最初は雑木とササのやぶに少々苦勞したが、10分も登ると成長した植林帯になり、やぶからも開放された。

深山までの標高差はわずか250弱くらいと思われたが、かなりの急登だ。し

が望め、ふり返ると但馬界の稜線越しに東床屋山と西床屋山の両山が望めたのはラッキーだった。

傾斜がゆるみ始め、成長した植林帯のなかに入っていく。倒木や伐採木をまたいでしばらく進むと、だだっ広い頂上に着く。3等三角点760・1が有り、ここがオオボウソウの山頂だと分かる。どうしたわけか、三角点は無残に傷んだ姿で、気をつけたいと見過ごしてしまいたいような山頂だ。まわりは全部植林で展望は全く得られない。オオボウソウとは変わった山名だが、この貴重な山名は京交山岳部のOさんが収録したものである。

しばらく休憩した後、さてどこからくだらうかと地図を並びながら指図と思索する。結局は元の才谷へくだることになり、50分ほどバックして東へくだる尾根を探す。同じ考えの先行者もいたらしく、テープがその尾根へ導いてくれた。かすかな踏み跡をたどりながらどんどんくだって行く。

急なくだりもあつたが、細い踏み跡さえ見失わなければ尾根から外れることはまずない。やがて傾斜がゆるみ、左側が大きく開けた谷状の地形になる。この下

オオボウソウにて



かし、植林の間から但馬界の稜線が透けて見え、ぐんぐん標高を稼いでいるのが分かる。

やっと傾斜がゆるみ、文尾根を登りつめると深山の頂上だ。三角点はなく、780mの標高ポイントだ。雑木の枝にコーヒーの変き缶が一つ。東南方向が開けているが、丹波の夏は視程がのびない。オニヤンマが暮々と飛翔する静かな山頂だっ

が朝通った林道だと見当をつけ、雑木に包まれたこの谷をくだる。踏み跡もないよく滑る谷だった。植林も現れて、最後は少々のやぶだったが、前方に水音が聞こえ始めると、予想通り朝通った林道に出た。

冷たい谷の清水で汗をぬぐい、衣服の汚れを落とす。才谷へ戻ると居母山の山並みが大きく広がり、懐かしかった。

*注意 このコースは地形図が読めて、山頂の人向きである。

△コースタイム▽

JR上夜久野駅(タクシー15分)才谷(20分) 林道終点(1時間20分) 深山(1時間) オオボウソウ(50分) 林道合流(10分) 才谷(タクシー15分) JR上夜久野駅
△地形図V2万5千Ⅱ直見



2等三角点のある山

長尾山・浅間山・大烏帽子山

初級コース(★) 山形 歳之

長尾山(782・4m) 点名 前山

熊野灘に面している2等三角点の山を巡る。関西からは、169号線で紀伊半島を縦断して行くのもよいが、多岐国道・伊勢自動車道を利用して、勢和多気インターから国道42号線を南下するのも比較的楽に行ける。とちぎにしても日帰りに少し遠い。

熊野市街を抜け、熊野灘の七里御(お七)浜沿いの国道42号線を走っていると、山頂にアンテナの立つ長尾山がよく見える。下からよく見えるということは展望の良い山なのだろう。地形図を見ると、山頂まで車道が記入されている。山頂まで車道があるということは、アンテナ専用道

で、ゲートがあって車で登れないかも知れない。過去に何回も車道を歩かされた経験がある。

七里御浜の有馬から国道311号線を金山に向かい、金山で札立峠越えの林道に入る。舗装はされているが曲がりくねった道は狭くて大車では無理である。札立峠のトンネルを抜けると長尾山への林道が右へ分岐していた。

電柱に赤ペンキで長尾山とあり、幸いゲートはなかった。ひと登りで札立峠に出る。トンネルの上あたりで、山越えの道はすでに廃道になっている。稜線沿いに東へ走ると、アンテナで行き止まり。周辺には4〜5本のバラボラアンテナが立ち並び、大展望が広がる。

七里御浜が長くのびる熊野灘がすばらしい。車で登れるのが残念だが、展望の良い山で、都会の近くだったらさぞかしに喜ぶことだろう。

▲コースタイム▼

▲地形図▼20万Ⅱ木本 5万Ⅱ木本

2万5千Ⅱ木本

浅間山(209・8m) 点名 浅間山

て山道に入る。植林のなか、ひと登りで平見池の分岐があり、わずかで山頂に到着した。

簡単な木道の展望台があり、そばに標石が設置されていた。この山の展望はすばらしく、眼前に七里御浜、太平洋が広がる。西には子泊山から那智の山々が連なっていた。

道標は「神内2・9分 小煙1・1分 平見1・8分」となっていた。登山道はよく整備されている。

山をくだり、みかん畑の集荷場で「セミノール」というみかんを分けてもらう。選別前ではあったが、一箱15kgが1000円出た。妻は安いと喜んでた。

熊野市内で「熊野かんぼ」の看板を見つけて汗を流す。温泉のない所では「かんぼ」の湯を利用するのが何よりだ。



長尾山・浅間山・大烏帽子山付近地図
▲コースタイム▼
大御登山口(30分)
大烏帽子山
▲地形図▼
20万Ⅱ木本
5万Ⅱ木本
2万5千Ⅱ阿田和

七里御浜沿いを南下して、下市木から上市木へ入る。

上市木の入り口の十字路を左折して、市木川の橋の手前下の神社の前に車を置く。神社のすぐ前の橋(旧道の橋ではない)を渡って田んぼのなかを農地の前に出る。さらに進み一帯奥の畑を過ぎ、山裾の山道に入ると地形図の湖池が現れる。しかし浅間山の山頂への標高も山道も見つかからない。この辺りが一番山頂に近いはずだが標高も低いし、下草も少ないので、歩きやすそうな所を登って行く。あるかなきかの踏み跡をたどって山頂に出ると、雑木林のなかに標石が入っていた。狙量標の標材が散らばるだけで展望もなく、人の入った形跡も全くなかった。



▲コースタイム▼

▲地形図▼20万Ⅱ木本 5万Ⅱ阿田和

2万5千Ⅱ阿田和

大烏帽子山(362・1m) 点名 大山

七里御浜をさらに南下して行くと、「うみがめ公園」の道の駅がある。車を停めて見上げると、展望台のある山が見える。これが大烏帽子山である。この案内板にも大烏帽子山が記載されていて、四方からの登山口が示されているが、略図なのでどこに行けばよいのか分からない。地形図では山の北側の大畑の村が一帯山頂に近いので、そこから登ることにする。

鷗園村の入り口から神内に車を走らせ、紀宝町の体育館の所で右折し、大畑地区に入ると、三叉路に「大烏帽子山登山口」の道標を見つけた。林道がさらに上にのびているので、農家の間を登ると案内の絵看板が立っていた。道の脇に車を駐め

KOBEの登山専門店

「スナッグザック」
夏山向き……汗対策のザックです。



- ウォーキングスナッグタイプ
ベンチレーションサポートパットにより背中
は常に快適。バックパネル部のワンタッチで
取りはずし可能。新案マグネットを装備、アル
ミフレーム内蔵。
日帰りから一泊山行きに最適、かつぎ良さで
業界のアダックタイプです。
- カラー：グエード×レッド・グエード×ブルー
グエード×ワイン
- 容量：28L ●重量：1,400g
- 素材：エスチルリップストップ生地
- 価格：¥13,000

山開き、雷沢、お花畑、
霧島、星空、テント村、
みんなで登ろう、夏山へ。
応援します。
あなただけの山登り。



神戸ザック
〒650-0371 神戸市東灘区磯子区1-10-4
TEL(078)621-5851
FAX 621-3520

特選コースガイド図

東播

高砂市全山縦走コース

高御位山と日笠山

初級コース(★)

柴田 昭彦

高砂市のハイキングコースと言えば、高御位山(播磨富士)と日笠山の連山縦走がよく知られている。日笠山は「万葉集」にうたわれた日笠浦にぼっかりと浮かぶ、いにしえの島であり、高御位山は古くからの御座信仰で知られ、その特異な岩標は目を引き、播磨アルプスとも呼ばれてハイカーに親しまれている。

高砂市の全山縦走コースは、北旭から北山奥山を経て、高御位山・鷹の巣山・地徳山・豆崎奥山からJR曾根駅へ、さらに牛谷から日笠山連山を経て、山陽電鉄曾根駅に至るものである。縦走路は展望が良く、飽きることがないが、急坂のアップダウンがあり、意外と時間がかかるの

で、余裕のあるコースをとったほうがよい。今回、山麓からのびる登路を利用した三つのコースを紹介する。なお、鷹の巣山の山名同定には市販のガイド記事に混乱が見られるので注意を喚起しておきたい。

JR加古川駅前神姫バス4番のりばで県立病院・平津経由徳島神社行き(1時間)一本に乗車、北池バス停で下車する。少し戻り、鳥居の方へ向かう。右手に松尾山延命地蔵堂があり、ここが登り口である。しばらく行くと、道がくさりになる所がある。ここで左手に登路がある。分かりにくいのはここだけで、あとは、全山縦走ハイキングコースの表示に従って尾根筋を進めばよい。岩場では白ペンキの目印がある。

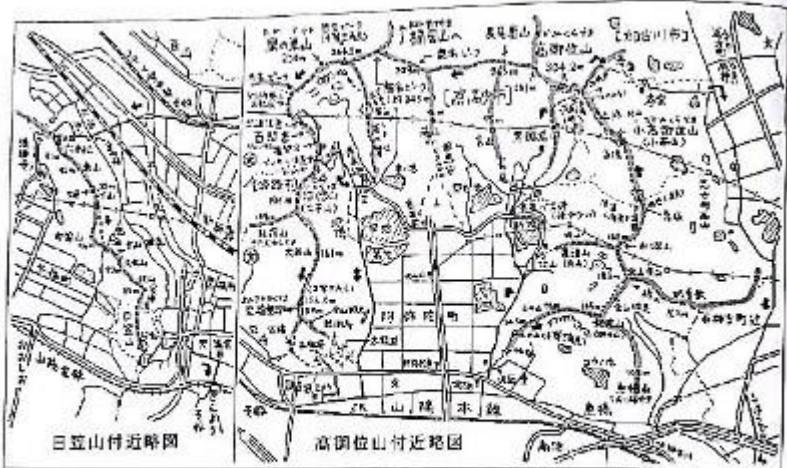
鷹の巣山(松尾山)で展望が開け、岩と灌木が目につく。連山縦走では、好展望の岩場が随所に現れ、道のようにうねる背後の山稜、山麓の池などが目を楽しませてくれる。やがて、峠方面との分岐点(北山奥山)に着く。鉄塔の方へ向かう。鉄塔では、北山鹿島神社からのハイキン

「飛翔」の碑(高御位山山頂)



グコースと出合う。ここからは、一般向きのエリアになるが、次の鞍部への急坂のくぐりは要注意だ。くぐりきった場所には道標があるが、かつて長尾と西山を結ぶ峠道があったとは思えないほど、旧道は荒廃している。

鞍部からピークを過ぎ、さらに鉄塔の上の岩場では、右手のりボンの目印に従って上がり、小高御位山(小鷹山)を越え



たら、ひと登りで案内板の立つ分岐点付近に到着する。この案内板には鷹の巣山は2500メートルと記載してあり、この表示は正確である。西へ石段を登れば、高御位神社奥宮の類聚する高御位山の山頂に達する。高御位神社は欽明天皇十年(549)3月6日の創祀と伝えられる。現在の奥宮の社殿は、昭和五十八年4月の火災による消火の後、12月に再建されたものである。

『聖相記』(1348)には、「生石子と高御倉は火燭を願し給へり」とある。江戸時代の略縁起には、生石神社の石の宝殿と共に、高御位神社には大己貴命(大國主命)と少彦名命の二神を祭るとするが、同書忠彦他『石の宝殿』(神戸新聞総合出版センター)によれば、『万葉集』の巻一三五五の歌と短略に結び付けたことよって生じた誤りらしい。

元年(1804)には、「高御位山(山上に神祠有り)これ、石宝殿に祭る所の一庭、高座明神の坐す山なり。例祭、九月十九日。……さて山を高御座と号するは、神座の儀なり」「高御位山上に名石多し。一の門・二の門・おん丸など曲折嶺々として太古神座の遺跡疑ふべくもあらず。……神幸一夜の間、里民ここに群参し、……人皆大音に告げて帰る」などである。

南側の断崖の下は岩場でロッククライミングの練習場になっている。縦走路や山腹から見るこの岩場はまるで岩のよう

で、迫力がある。山体は石英粗面岩から成る。頂上は360度の大展望が開け、淡路・四国まで見渡せ、すばらしいの一語に尽きる。大正十年(1921)10月17日のグライダー関西初飛行の遊覧をた

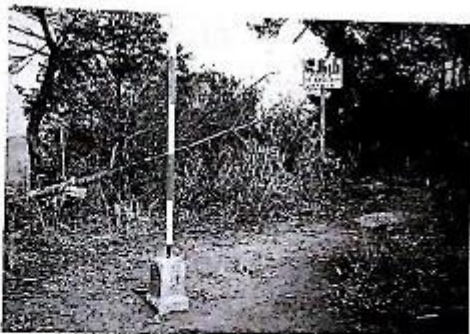
たえる「飛翔」の記念碑(昭和二十六年建立)があり、地元志方町の青年、渡辺信二(当時21歳)による、この断崖からの3000呎の滑空の成功を伝えている。

『高御位山』(『ロ・ハイキング』)日本交通公社によると二度目には失敗して墜落死したという。

山頂から分岐点まで引き返し、道標に

『播磨名所遊覧図会』(文化

— 67 —



三角点ピーク (264m) の頂上 (鹿島山という表示は誤り)

従って左折して志方町(成井)方面への参道をジグザグにくだる。北に向かう道が東に変わるころから殺風景になってくる。平成八年に発生した山火事の焼け跡が残っているため、慄然とさせられる。現在、加古川市まちづくり懇談会、志方全場実行委員会による「2002しかた桜回廊計画」が進行中で、桜の木の植樹による景観の回復が期待される。

山麓には高御位神社の本殿があり、熊野修験の行場に通じている。お滝、井泉、熊野湯、牛岩などへの案内社がある(山頂は天鏡社)。木殿を降り、右へ出て、略図に示したように、車の往來の少ない旧道を南下して、西山、辻を経て、JR宝塚駅へ出る「山と溪谷」1988年1月号の記事が参考になる。

二つ目のコースは北池または鹿島神社から出発して長尾登山口から高御位山に登り、西へ縦走して、三角点ピークと鹿島の果山を経て、鹿島神社にくだるもので、鹿島(長尾ハイキングコースと呼ぶ。コースガイドは「関西ハイキング」へJTBあるが情報源)と「関西西遊ハイキング」(関文社)に詳しいので省くが、両書共に、鹿島の果山の同定が不十分なので、そのことについて明瞭にしておこう。

高砂市内の山名の現地呼称の調査は古志を対象にして、高砂緑地問題研究会によって進められ、松木文雄「ふる里の山名復活―高砂での試み―」(創出版、昭和六十一年)に、その成果が公表され、「ふる里の山名絵地図」の「高砂市北部」(1988年)と「高砂市西部・牛谷/曾根地区」(1991年)によって明確にしている。

根地区(1991年)によって明確にされている。連山の両方から25.4mの三角点ピークを眺めると、その直下に大小二個の巨岩、大輝岩が見える。三角点ピークについては高砂市内の二百数十名の古志に伺っても名称が発見できなかったにもかかわらず、国鉄山岳連盟「駅から登れる山」(1989年)の337頁の地図に「鹿島山」と記入(高砂工場山岳部、本間肇次執筆)されて以来、通称として採用されているようである(「JTB」)。

現在でも、三角点ピークには、「鹿島山、別名：藤ノ果山とも申します。兵庫登山会」とした表示が立ててある。松本文雄氏によれば、おそらく鹿島神社のことを地元の方々が「かしまさん」と呼んでいるのを聞いて、登山者が山名と誤解して地図に記入したものらしい。

三角点ピークの西側には25.0mのピークがあり、その直下には、巨大な輝の果山(江戸時代に輝が果を作ったことに由来)があることから、正式名称を藤の果山と呼ぶ。従って、三角点ピークは、藤の果山とは呼ばないのであり、兵庫登山会の表示は全くの誤りである。25.0m

ピークには、壊れた案内板が転がっているだけでさびしい山頂である。

三角点ピークの東側にはおよそ245mの無名ピークがある。便宜上、東峰と俗称されているが、鹿島山(藤の果山)東峰という呼称が誤りであることは、松本氏グループの調査で明らかである。注意されたい。

なお、鉄道を過ぎて百間岩にましかかったら、急坂をくだることもできるが左へ迂回するルートのほうが楽にくだることが出来る。鹿島神社バス停からは、1時間に二本ぐらゐの便がある。JR曾根駅まで歩くのもよい。

二つ目のコースは、鹿島神社から、背後の森林に出て、白ヘンキの豆蔵とある案内に従い後線コースに入る。ふり巻くと、鷹の巣山連山が目に飛び込んでくる。展望のよい岩場があって美しく歩ける。地蔵山は、高砂市での呼称で、熊野歴史研究会「熊野の山々」(中島書店)によれば大平山と呼ばれ、明治二十七年頃、山頂に大阪と兵庫の米相場を結ぶのに知らせる電報の信号所が置かれたという。ササ理じりの道を緩急交いに南下して

行くと豆蔵山の先で分岐点がある。左は縦走路で、太鼓岩で左へおりて麓に出るが、分岐点にくいので右をとり、天井石の壊れた古墳の所に出よう。この分岐で赤テープに従い右へおる道がよく紹介されているが急坂なので、まっすぐ尾根筋の踏み跡をたどろう。古墳の位置から考えて、このルートが本来の道ではないだろうか。下で築地に出る。南下して安全な道をJR曾根駅に向かう。

曾根駅からは目笠山(牛谷ハイキングコースをたどる。山陽新幹線の下をくぐると案内板があり、石畳の滑降寺坂を上がり左手の山道に入る。山名案内板を経て鉄塔を過ぎ、現坂を横断し大輝岩のある北山に着く。展望板は全く用をなさなくなっている。大小二つの巨岩は神むつまじく並び、あたかも二見ヶ浦の夫婦岩のようであるところからの命名という。急坂をくだった後線は江戸期の旧街道が横断していたが、今では不連続になっている。目笠山山頂には全長50mほどの前方後円墳があり、経塚があったが、今では壊壊されてしまっている。配水池の南方には、かつての塩田の跡地が広が

ている。目笠山山頂には全長50mほどの前方後円墳があり、経塚があったが、今では壊壊されてしまっている。配水池の南方には、かつての塩田の跡地が広が

ている。煙突から出る煙がなにやらもの悲しい。遊園地算公をまつる曾根天満宮を経て、山陽鉄道曾根駅へ着く。
(平成9年12月28日)
平成10年1月8日歩く)

- △コースタイム▽
- 北池バス停(50分) 北山奥山(1時間10分) 高御位山(30分) 本宮(1時間) JR宝塚駅
- 北池バス停(30分) 長尾登山口(35分) 高御位山(50分) 藤の果山(1時間) 鹿島神社バス停(1時間) 豆蔵山(25分) JR曾根駅(1時間30分) 目笠山(25分) 山陽曾根駅
- △地形図▽2方5千加古川
- △問い合わせ先▽
- ・神姫バス 0794-2312231
- ・中島書店 0792-3512333
- ・松本文雄氏

高砂市回廊院町路地 1422

せせらぎ

題字・小林玻璃三

鳥取県若桜町に「くわすす」という1282・1の、3等三角点の山があります。山名に魅かれて知人が登りたいと言う。以前、山裾を紅葉で飾ったこの山を眺めた時から、自分の足も願わず、登る時は私も絶対に付いて行こう。と勝手に心に決めていました。S氏に案内をお願いすると、やぶ山に挑戦するなら冬がよいということになり、3月8日、不安と期待を抱いて知人と三人で出発。

何度かアップダウンを繰り返して、たどり着いた頂上は360度大パノラマの展望、大山・那岐山・水ノ山などが手に取るように見える。三人で貸し切りとは何という贅沢……

1時間の休憩もあっという間に過ぎ、頂上を後に。天気がよく縮んでいた雪が解けだして前の二人は素通りするのにながら歩くとスベスベと滑る。

高倉手前の鞍部で二人は地図を見て相談中。林道めざして直に下山すると言う。「出た」S氏と歩くと道が有ろうが無からうが、見定めたらおりて行く。こんな時は自分が女性だということを確認したくなる。それだからと言って甘えさせて貰える

とは思ってないのですが。道が有っても大変なのに、ただの斜面を二人は一目散におりて行ってしまう。私はどうするのよ？この私は、とひとり言。ストックの使い方を教えて貰ってヘッドリフトではるか後を付いて行く。無事二人の待つ場所にとどり着き、林道を歩きながら、きょう一日の山行を振り返る。

林道に咲くフキノトウ・ネコヤナギに寄る感じてウキウキした気分が包まれて次はどこに登れるかなあ、とろえていました。(熊田 千夜)

3月末の早朝、夫が「きょう天狗登山に行くか？」といきなり言い出すので「エー」と驚きながらも頭を身はすすいで山行きの準備に取りかかっていた。

実は一週間程前に、新ハイの山行に参加して以来この山の虜になり、燃るなり毎日やましましいほど話し続けていたのです。

「最後距離で頂上まで行ける熊野古道と林道の交差点する所へ車を置いた。石畳の道はあの時と

変わらず、すぐ脚近であらう頂上の大岩を想像しながらウクワクはくそ笑みながら歩く。

頂上までは30分とかならなかつた。大岩に這い上がって見る。熊野灘は少し霞がかかっていたが見事な眺望が楽しめた(これを夫に見せたかったのだ)。大きい方の岩の足元にある穴も興味津々で入ってみると中は意外と広く、斜め横の方向へ通り抜けることができる。またまた感動。

気分、尾鷲の街から見ると、活ダコが立ち上がったような特異な山容をふり返りながら満たされた心のまま1時間余りの帰途についた。(井上 久子)

4月11日、37歳にして始めて吉野の桜を見ました。少年時代、亡父の車で出かけ、洪水のために登れずに帰って来て以来です。

松阪から高見峠を越えて、麓家で左折、宮滝で吉野川を渡り、榎木神社前の駐車場に着きました。

春の野の花が咲き誇る真佐谷の車道を1・2歩歩いた後、万葉の道へ。登ること10分、同郷の偉人本所直長が遺したという高滝に着きました。象の小川に沿って美しい杉林のなかを登る道は快適です。高滝から50分で上平本付近の車道に出ました。足元にはニリンソウの花が。人液のなか、水分補給を過ぎ、さららに登っていくと、左に高城山頂への階段がありました。南北朝時代の城跡だそうです。山頂の立派な展望台からは、金剛・葛城の山々、二上山・葛門・岳・

類井岳等が望め、桜の花房の窓の中に鋭峰高見山を入れて写真を撮り、悦に入っていました。標高702mと記されていたので、駐車場との比高は500mくらいでしょうか。歴史ファンの方には、特にお勧めのコースです。帰途、日本で最後に猫が見つかった小川で等身人の像を見て来ました。(鈴木 伸人)

4月19日、「花のチルルン高望山」に参加しました。去年のチルルンでは、小雨の降るなか、朽ちた登山道を高望山へと向かい、可愛い花いっぱい出会えたのを覚えています。今年もやっぱり会えました。高望山への道すがら、雨上がりには咲くイチリンソウやミヤマカタバミは、うつむきかげんで恥ずかしそう。でも、お日さまが出れば御気に精一杯開きます。楽しいお昼は品のいいヒトリシズメの群落を眺めながら。歩き疲れた頃には、淡いピンクの花、葉、葉っぱがイカリソウの花、花、どの花も私の心に溢れるほどの優しさをくれました。山の仲間と交わす笑顔は、命の

「この上にNHKの中継所があった。そこに三角点がある」と教えてくれました。喜び勇んでその人たちの後ろに続き、整備された道を東に5000/6000計も歩くと意外に広い一角に出た。展望はあまり良くなかったが二つの建物に守られるようにひっそりと三角点は置かれていた。

横穴といひ三角点といひ二つの発見にとっても得をしたような

4月19日、「花のチルルン高望山」に参加しました。去年のチルルンでは、小雨の降るなか、朽ちた登山道を高望山へと向かい、可愛い花いっぱい出会えたのを覚えています。今年もやっぱり会えました。高望山への道すがら、雨上がりには咲くイチリンソウやミヤマカタバミは、うつむきかげんで恥ずかしそう。でも、お日さまが出れば御気に精一杯開きます。楽しいお昼は品のいいヒトリシズメの群落を眺めながら。歩き疲れた頃には、淡いピンクの花、葉、葉っぱがイカリソウの花、花、どの花も私の心に溢れるほどの優しさをくれました。山の仲間と交わす笑顔は、命の

4月19日、「花のチルルン高望山」に参加しました。去年のチルルンでは、小雨の降るなか、朽ちた登山道を高望山へと向かい、可愛い花いっぱい出会えたのを覚えています。今年もやっぱり会えました。高望山への道すがら、雨上がりには咲くイチリンソウやミヤマカタバミは、うつむきかげんで恥ずかしそう。でも、お日さまが出れば御気に精一杯開きます。楽しいお昼は品のいいヒトリシズメの群落を眺めながら。歩き疲れた頃には、淡いピンクの花、葉、葉っぱがイカリソウの花、花、どの花も私の心に溢れるほどの優しさをくれました。山の仲間と交わす笑顔は、命の

<p>休館日 成人浴も歓迎 10名以上マイクロボスで送迎 箱根山原温泉 福 島 館 〒250-0163 1 神奈川県足柄下郡箱根町 4-3-9 電話 0460-419041</p>	<p>「平野の踊り子」の横綱、シトワな話 山下に河津川の温泉 湯ヶ野温泉 湯ヶ野荘 「箱根」の方に温泉、元城山ハイキングコース案内まで付きます 〒413-0507 静岡県静岡市清水区 4-1-1 電話 0543-851722</p>	<p>四季織りな手織敷き布団のハイク 上高地・霧ヶ岳へ 冬はスキー けやき造りとの味の宿・日蓮連 温泉旅館 けやき山荘 〒3990-1500 長野県上田市 2-1-1 電話 0266-833255</p>	<p>さわやかな宿 霧ヶ岳 山吹の湯 湯田中温泉 (霧ヶ岳) 日野 屋旅館 〒381-0400 長野県上 野市 郡山ノ内 1-1-1 電話 0266-513313576</p>	<p>標高2000 雲上の温泉 湖の丸湯 自然休養林 ハイキングにXCSキー 高 峰 温 泉 〒2000-0000 長野県小市町 電話 0266-7252000</p>	<p>ハイキングに、スキーに、 両方楽しめる 石の湯ロッジ バス 車の遊園地 下町 電話 0266-341243 東京本社・東京都新宿区新富3 1-20-15 (新宿区) 電話 03-3394-1021 電話 03-3394-1021</p>	<p>道の道 千国街道 百八十七休「観音堂」 ホテル 白馬プリンス 〒2000-0000 長野県北安曇郡白馬村 1-1-1 電話 0266-724440</p>	<p>八ヶ岳南麓 北麓までの中心地 約年数回 温泉完成 全館温泉 木の香が 新浴 温泉 木造温泉 オーレ 小屋 1泊2食付 6000円 4月末・11月末閉館 〒391-0213 長野市 電話 2720 小笠原天 塚 電話 0266-721279</p>
--	--	--	--	--	---	--	--

泉を満たしてくれました。

高峯山から見る雲仙山・御池岳は最高。休憩のとき、星夜を袂め込んでいた私は、そっと実行。強い日差しを避けて、帽子を目深にかぶり体を暖かえします。遠く聞こえるメンバーの話し声が子守歌。山で昼寝をするのが私の夢だったから、もったいないけど、少しだけまね事をしてみました。

春の山が大好きです。吹き飛ばす木立がたまらなく好きです。そして、山の仲間が大好きです。(小田 妙子)

4月19日、猿ヶ馬場山に登る。宮谷林道の終点まで車で入り、路肩に駐車して林道を突へつめると、樹雲山に到達した。ガストでいたので地図と磁石を頼りに、高みをめざして猿ヶ馬場を踏みしめて山頂に着く。

下山後、桂湖畔で露宿。翌早朝、大嵐谷の鉄梯橋を蟹の橋ばいり抜けて、鉄梯子四本の急登、30分歩いたら感涙が出てくる。この日、名古屋や高山では30℃にもなる気温で、前日の足跡も解けていた。不明瞭になった感

後をひたすら歩いたが、大笠山へ5時間かかってしまった。はるかかなたの懐しの友ヶ岳はブッシュが出ていた。今年の積雪量は、日本海側の山岳地帯でも平年より少なく、3月から腰かやい日が続き、雪山もすっかりやぶ山になっていった。後ろ髪を引かれる思いで桂湖へくだった。

また来年度のあるうちにチャレンジしよう。去年秋には倒壊中だった遊園小屋も再建されていた。利用できそうです。(栗津 浩二・純子)

四文社の地図「京都北山1」(98年度版)に、花折峠からミタニ峠までの登山道が実線と描かれていた。

早速、4月20日8時半、花折峠口下車。峠の少し手前で左側の細い小道に入った。右へ廻りこんで尾根道に出ると、歩きにくいのが明瞭で赤テープも多く、迷うことはなかった。約1時間後8:12岩峰に到着。ここからしばらくの間が分りなく、慎重な行動が必要だ。赤テープが欲しいところ。そのあとミタニ峠(10時着)への道は

はっきりしている。ここまで実線と表示されているが、不明瞭な箇所もあり、あまり期待してはいけないのではないかと考えた。ナツチヤ(天ヶ巻)経由で小出石まではのんびりと歩き、帰宅した。(吉澤 孝次)

4月下旬、山頂に「平成之大馬廐門」の碑が立っている兵庫県千里町野の空山に登った。地元の人たちが要所に小さい木札で方向を示してくれていたお陰で、溪流を離れて急斜面を直登する時に少しばかりシンドイ思いをした以外は特に問題なく、コースタイム通りに頂上(9:10)に到着した。

当日は好天であり、樹木が切り払われた頂上にて、9:50度のすばらしい眺望を楽しむことができた。三室山(1336m)、後山(1345m)など、空山より高い山々が周りを取り囲んでいた。これらの山は、「大坂園辺の山」(山と渓谷社)の「因田園辺の山」の章に記述されており、私の登山予定リストにも早くから挙がっているのだから、何せ京阪神からの日帰

北八ヶ岳の登山案内 冬はスキーJ.R.野崎 北八ヶ岳登山口まで送迎します 要予約
プナホテル カナール
〒339-1030
〒339-1030
〒339-1030
0266-67-2255

日本唯一の女人禁制の山「大羊山」(空谷山)の登山山
御池・名木の里
積雪 紀の国屋 甚八
〒639-0431
奈良県吉野郡天川村御池
07476-4-0309

九州の最高峰・日本百名山
宮之浦岳に一番近い宿
歴久島グリーンホテル
〒891-4311
鹿児島県鹿嶋市歴久島
0997-46-3621

御在所登山に
愛知山溪谷次郎さん
山好き仲間集う宿
朝明茶屋
山小屋
〒510-1201
三重県志摩市御在所町下草
0560-193-7489

りは無理とあって、実現がのびのびになっていた。それらの山を眼前に見ることができ、大いに感激した。

しかし、背後の碑から「この大バカモノー 早くそちらも登ってこんかい」と叱咤されそうに気がして、時々碑のご機嫌を伺うひとときだった。

くだってから林を出ると、後山の全容を正面に見ることができた。その並びにあってもう一つの「大馬廐門」を持つおとしき山の所在を、細仕事をしていたおばさんに尋ねたところ、「定遠橋なら良く見えるのに」と残念がりながら別の山に見える山を教えてくれた。それを四切ワイドに拡大する予定で最大にズームアップして撮った。そして、次はそちらを後山と共にぜひ登るぞと決心した。(栗谷 浩)

雑木林をひと登りした所で、年配のご夫婦に出会った。この辺りは一面に福寿草が咲くのだそうだと、それを見に今年も登って来たのだが、花には早く、溜めて下山されるころだった。

3月下旬の鈴鹿山系でのことである。

私たちはご夫妻と別れ、さらに奥へ踏み入った。3時間程のちに再びそこへ戻り、巨岩を登った。朝には寒ささえ見えなかった福寿草が、わずかな時間の差で一面に咲いているのだ。気温が上昇したせいなのか、予期しない出来事は、予期していたそれとは別の楽しさがある。しかし、あの仲情じげだ。ご夫妻がこれを見られたら、どんなに喜ばれたかと思つくと、残念でならなかった。(栗津 純子)

屋山から山後、313号線を北に走り温泉へ向かった。温泉には外来専用の棟があり、小さなフロントに老人が一人所在なげに座っていた。壁には三種の湯の名が書いてあり、その下にそれぞれ選んだ料金が書いてある。「赤湯」11料金と書いて料金を払うと「今入っているけど、あなたの年ぐらいいやたらええじゃ」と言った。客は少なう輪を預けて中に入ると頭禱前後の男女二人が入浴中だ。浴槽は五人も入れれば満員

で底はスリパチ状になっていて、中に立つと湯が首のところまであり、これでは背の低い人は溺れてしまうのではあるまいか。先客の二人はというと先刻から腹痛を始めていたらしく感寒急を告げている。同時に熱が入っているのか、私のことなど気にしていないよう、前も履きす堂々とやり合っている。

頂上快晴、花に逢えて水うまび……と、あやう一日のよろこびをゆつくりかみしめるもくろみは三てがはずれ、今はもうただ目の前の成り行きにハラハラドキドキ。

二人が出でいった後、今度は別代の男女が説教場に入ってきて、女がこまごまを覗き込んで「あんなあまの」と言ったが、どんどん腹を始めた。これ以上の衝撃にオレは耐えることができないのか、きょうの山登山は印象に残るものであった。(山形 明)

抱きました。

遊歩道が整備され、所要1時間足らずの山で「そんなにおもしろくない山ですが……」などと言明のうえ出発したのですが、道沿いに始めて出会う道を見つけたら、プナとズナラの明るい林にとても新鮮な空気を感ぜたり、大気の澄んだ山頂からは既知の山々の姿が驚くほど新鮮であったりと、もう何回か通った山でもあるにもかかわらず、心躍る体験でした。

3月例会から定員割を突破して以来、申し込みハガキが集中し、瞬く間に定員に達してしまふという状況で、お断りの返信を心苦しい思いで発送しております。あれこれ思案の末、気がついたのですが、同じ山への山行を繰り返せば、多くの方々の参加いただけるのではないかと、ということですね。幸い、私は同じ山へ何回も行くタイプですから、今後は、機会をみてこれらも取り上げる工夫していきたいと考えています。(菅見 守穂)

コース 口8時30分
林道入口(車) 猪矢谷分
岐(元蔵谷) 左保(尾根
一ノ谷) 仙ノ谷(元
蔵谷林道) 猪矢谷分岐
(解散)

費用 交通費各自(※沢歩き山
行のため保険対象外・救
済対象外)

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
岳」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

コース 三重の山40
鈴鹿・入道ヶ岳 (中敷向き)
期日 7月11日(日) 日帰り
集合 橋本社駐車場(時
コース 依神社(車) 小岐須俣谷・

涼を求めて花崗岩の明るい沢を
のんびり歩き、仙ノ谷の源頭の桃
源郷から大洞ノ頭・仙ノ谷へとく
だる(37号・47・51ベジ参照)。
雨天中止

北アのグイヤモンドコースと呼
ばれる緑走路を高山植物と美しい
カールを訪ねて歩きます。
有峰口へはJR北陸本線後行急
行「きたぐい」(大坂発)で富山
まで(夏期には臨時夜行急行があ
ると思えます)。富山から地方鉄
道で有峰口へ。関西方面からは直
通夜行バス(松本電鉄バス大阪発
京福線山登06・346・2220
0利用のときは10日前までに要予
約)もあります。*申し込みハガ
キには集大方法も明記ください。
雨天決行

鈴鹿の深流に遊ぶ・カップル
白濁谷集合から西行隊
期日 7月19日(日) 日帰り
集合 朝明ヒュッテ前駐車場
コース 朝明ハット峠・峠・白濁谷
出合・ツツメカキ谷・深流谷
西口原まで往復(白濁谷
出合・朝明) (朝明) (朝明) (朝明)
装備 深流シューズ・水着・浮
袋必須
費用 交通費各自(※沢歩き山
行のため保険対象外・救
済対象外)

後援駐車場(名料) 1-1
本松院権一入道ヶ岳池
*谷ノ蔵(後援駐車場(車))
橋本社(解散)

費用 2500円(駐車場含む)
地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
岳」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

京都市北山歩き
鎌倉山から八丁平(一般向き)
期日 7月12日(日) 日帰り
集合 朝明(京阪)出所駅京
都バスのりば(時30分
出町橋駅(バス) 坊村
鎌倉谷・フナ平・鎌倉山
オグコ坂・八丁平
伊賀谷石保(林道終点)
葛川学校前(バス) 出町
橋駅(解散) (時30分)
費用 約3000円(京都から)

神崎川下流を往復します。青
を越す湖を泳ぎ、流に打たれて登
ります(疾患の無い方)。
雨天中止

平日本郷ハイイク44
笠子山から天ヶ森(中級向き)
期日 7月23日(日) 日帰り
集合 JR西園寺駅山登口(時40
分) (44分発バスに乘車)
コース 山登口(バス) 平一笠子
山(バス) 笠子山(バス) 笠子山
谷峠(天ヶ森) 小出石
(バス) 北山(バス) (解散)
費用 保険料1000円(交通費
は各自)
地図 昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

5方ノ御在所山
◎後井井治 ○木村吉秀
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

昭文社「京都北山」
①昭野 明 ○山本久雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

費用・三十三間山(一般向き)
 期日 7月28日(日) 日帰り
 集合 JR名古屋駅中央改札口
 7時15分/JR東山線小
 笠原ホーム10時

コース
 教習所(電車)→十軒駅→
 倉田山(山頂)→大塚岩→
 風神→後藤→三十三間山
 (往復コース)→十軒駅
 (電車)→教習所(電車)
 本駅(18時30分最終発)
 費用 約2300円(名古屋か
 ら西春18きっぷお持ち)

地図 2万5千:熊川
 申込み 千448-0002
 ③小出辰春

伊吹山夜間登山 (一般向き)
 期日 8月1日(土)夜7:30日帰
 前夜発日帰り
 集合 (1日)JR近江宮前駅
 21時50分

行のため保険対象外・救
 援費(要領あり)
 地図 5万:御在所山
 係 ③前井克治 ○木村吉秀
 申込み 千610-0121
 城陽市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで
 *マイカー山行
 神崎川中流域を進行します。背
 を越す淵を泳ぎ、滝に打たれて登
 ります(候地の無い方。雨天中止)

費用 約4000円(名古屋か
 ら西春18きっぷお使用・タ
 クシー代・バス代)
 地図 2万5千:杉津
 係 ③小出辰春
 申込み 千448-0002

コース
 (1日)近江宮前駅(バ
 ス)→山王口(三神社)→
 ノンドロ→三日月伊吹西原
 ホトル→五合目→八合目
 小屋→伊吹山(夜間)
 (2日)伊吹山→お花畑
 教習所→三合目伊吹西原ホ
 テル前(10時道解散)

費用 約5000円(電車代・
 ノンドロ代等)
 申込み 千610-0121
 城陽市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで

伊吹山夜間登山 (一般向き)
 期日 8月1日(土)夜7:30日帰
 前夜発日帰り
 集合 (1日)京都駅八条口近
 鉄改札前23時30分
 コース (1日)京都駅(夜行バ
 ス)→金山町登山口→
 (2日)養谷峠登山口→
 林道終点登山口→小籠の
 滝

費用 約3200円(宿前代
 等)・集合時後収
 地図 昭文社「鹿野山・黒部

流→同原橋(展望台)→養谷
 山→養谷峠→ブナ林→林
 道終点登山口→林道入口
 (バス)馬場川温泉(美
 福の湯)→入浴後バス→
 京阪駅(解散19時頃)

費用 約10000円(バス代)
 申込み 千610-0121
 城陽市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで

鈴鹿を歩く53
 須谷川(福岡向き)
 期日 8月9日(日)日帰り
 集合 水郷寺町打越尾「ひろせ
 酒店」前10時
 コース 須谷川→若ノ洞門→鶴子
 タ口登山道→421号線
 1→ひろせ酒店前(解散)
 装備 深溝シューズか地下靴・
 雨具

費用 約10000円(バス代)
 申込み 千610-0121
 城陽市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで

ワラシシ必携
 費用 交通費各自(*沢歩き山
 行のため保険対象外・救
 援費(要領あり))

期日 8月11日(火) 日帰り
 集合 飯島出町新橋8時10分
 コース 出町新橋(電車)→飯島川
 一樋ノ水畔→朝倉峠→魚
 谷山→出合橋(バス)出
 町新橋(解散)
 費用 約1500円(朝倉から
 ③今西亮亮)

期日 8月11日(火) 日帰り
 集合 飯島出町新橋8時10分
 コース 出町新橋(電車)→飯島川
 一樋ノ水畔→朝倉峠→魚
 谷山→出合橋(バス)出
 町新橋(解散)
 費用 約1500円(朝倉から
 ③今西亮亮)

期日 8月11日(火) 日帰り
 集合 飯島出町新橋8時10分
 コース 出町新橋(電車)→飯島川
 一樋ノ水畔→朝倉峠→魚
 谷山→出合橋(バス)出
 町新橋(解散)
 費用 約1500円(朝倉から
 ③今西亮亮)

期日 8月9日(日) 日帰り
 集合 (9日)扇沢バスターミ
 ナル6時
 コース (9日)扇沢バスターミ
 ナル→柳池山荘→若小屋
 沢岳→新越山荘(泊)
 (10日)新越山荘→栗沢
 岳→赤沢岳→スハリ岳→
 針ノ木平→針ノ木峠→連
 華岳→針ノ木小屋
 (泊)
 (11日)針ノ木小屋→大
 沢小屋→扇沢バスターミ
 ナル(解散)

期日 8月9日(日) 11日(火)
 前夜発→泊3日
 集合 (9日)扇沢バスターミ
 ナル6時
 コース (9日)扇沢バスターミ
 ナル→柳池山荘→若小屋
 沢岳→新越山荘(泊)
 (10日)新越山荘→栗沢
 岳→赤沢岳→スハリ岳→
 針ノ木平→針ノ木峠→連
 華岳→針ノ木小屋
 (泊)
 (11日)針ノ木小屋→大
 沢小屋→扇沢バスターミ
 ナル(解散)

期日 8月11日(火) 日帰り
 集合 飯島出町新橋8時10分
 コース 出町新橋(電車)→飯島川
 一樋ノ水畔→朝倉峠→魚
 谷山→出合橋(バス)出
 町新橋(解散)
 費用 約1500円(朝倉から
 ③今西亮亮)

期日 8月11日(火) 日帰り
 集合 飯島出町新橋8時10分
 コース 出町新橋(電車)→飯島川
 一樋ノ水畔→朝倉峠→魚
 谷山→出合橋(バス)出
 町新橋(解散)
 費用 約1500円(朝倉から
 ③今西亮亮)

3月15日(日) 吹雪
かもしが井集合 8・30(35)(車)
清水谷林道分岐 9・10(車道)
10(清水) 10・50(奥の柳集) 11・05(谷原) 11・35(昼食) 12・05(シタケ)の尾根 12・15(清水) 平谷林道 13・10(林道分岐) 13・55(解散)

集合したものの気分のため許された人もあり、18名で雨芝居をめぐります。後援もすこい吹雪で奥の畑からサヤがを右下にトラバースして谷の清流で昼食。車をのりかえり、地吹雪が続いてきた。

3月16日(日) 晴れ
観音堂集まり 8・10(9) 05(車) 坂を経て戸谷峠 三角点 10・05(20) 天ヶ岳口 35(鉄橋展望所)

3月16日(日) 晴れ
天ヶ岳から百井谷 (水曜ハイイク40)

11・45(昼食) 12・30(百井谷) 百井谷林道 14・05(解散) 尾根のよい好日に生まれ、マシタケの咲き始める尾根道を歩いた。

(参加者) 前田政雄 郡司善八郎 郡司良江 馬籠忠男 松本いつ子 南 寛子 北尾信枝 中川孝一郎 山根 茂 川根敏子 久世美紗子 山本孝一 辻 幸子 松村泰男 高木 晋 花鹿子 藤井益子 木村大郎 清林武雄 古川裕子 高見孝子 佐藤宜三 水口真砂子 ○水口園一 ○西上利和 ○前中 敏 (計26名)

3月21日(日) 晴れ
ジャスコ久居町駐車場集合 9・00(車) 近鉄中川駅 9・20(車) 小阿波神社(車) 登山口 9・50(車) 池10・00(柳集) 10・20(柳集) 柳11・00(05) 柳11・25(白米坂) 14・00(解散)

3月22日(日) 曇り
JR山陰線八木駅集合 9・20(25) (バス) 柳集 9・45(10) 00(柳集) 10・30(40) 地蔵山 11・45(55) 反対坂 12・05(昼食) 12・40(妻石) 三角点 13・15(30) 20(25) 針尾 13・45(14) 20(月輪) 道分岐 14・30(八木谷ヒラシの滝) 15・20(25) 針尾 16・00(05) (解散)

3月22日(日) 曇り
JR山陰線八木駅集合 9・20(25) (バス) 柳集 9・45(10) 00(柳集) 10・30(40) 地蔵山 11・45(55) 反対坂 12・05(昼食) 12・40(妻石) 三角点 13・15(30) 20(25) 針尾 13・45(14) 20(月輪) 道分岐 14・30(八木谷ヒラシの滝) 15・20(25) 針尾 16・00(05) (解散)

3月24日(日) 晴れ
北大路駅バスターミナル集合 8・45(9) 00(バス) 小出石 9・45(シタケ) 尾根 大谷集 11・50(途中) 12・30(昼食) 13・10(天ヶ岳) 13・25(15) 又岳 14・00(栗王坂) 15・00(観音堂) 15・25(解散)

百井谷は林道工事中で天ヶ岳から西坂のコースに変更しました。シタケの花芽はまだ小さくマシタケの残り花がきれいだった。また、尾根まで響くブルの音。(参加者) 芝野泰明 安良陽子 相沢初子 中西温子 若狭初子 大橋元造 上田由子 中一紀代子 吉田謙宏 秋田公代 高松雅子 中田茂江 大島和子 郡司善八郎 郡司良江 石丸安子 小森伊香子 山内啓子 笹田敦子 柳川常雄 高内初子 菅生孝子 馬籠忠男 光川 三美子 ○前田政雄 (計26名)

3月25日(日) 晴れ
中濃総合庁舎別集合 9・00(車) 坂田村21世紀の森林集 10・20(柳山) 12・40(昼食) 13・40(林道) 終点 15・05(21世紀の森林集) 16・10(解散)

3月25日(日) 晴れ
冷川谷林道入口 8・00(集合) 冷川谷 8・15(寒山) 9・30(高ヶ原) 10・00(白粉集) 11・30(昼食) 12・40(頭陀ヶ平) 夫御山 13・00(30) 頭陀の頭 14・00(冷川谷) 16・40(冷川谷林道入口) 17・00(解散)

4月4日(日) 快晴
JR上野駅集合 8・00(10) 10(車) 9・20(山崎) 寒山 10・00(15) 山 10・30(浄土大仏) 11・20(柳谷) 11・45(昼食) 12・45(大沢) 13・15(釈迦) 14・30(宮崎) 15・00(立石) 15・45(野山) 16・20(長岡大滝) 17・05(解散)

川中 保 山邊孝子 千恵子 枝子
明神成行 内本良子 琴田美奈子
吉川裕子 中田茂子 光川一子
藤田清子 白根清子 辻行子
西沢純子 佐田次郎 森安奈子
中西秋野 宮田水明
○加藤元彦 ◎野野原重彦(計19名)

4月5日 晴れ
JR大田駅集合 8:30(バス) 40分(電車) 相模駅 9:30(バス) 六谷・55(高橋) 入口15(5分) 谷山11・20(津山) 11・55(昼食) 12・45(遊園小屋) 14・15(観音山) 14・35(長者) 東山分岐 15・40(主道) 16・00(長者) 16・05(東山) 16・37(バス) 相模駅 17・40(解散)
賑やかな大音で早急の急行をとり、前日川沿いを和生へ。笠置山はさくらが満開で花見気分が下山した。

(参加者) 近藤 恭 福本芳雄
大見正信 田中 茂 西田美津子
芝野泰明 木村光江 堀 久子
和田四郎 岩田登美 矢野 晃
岡野敦子 岡田登夫 高森宏一
前田衣雄 三宅 明 野々山明美
山二雅江 長沢裕美 井林美奈子
泉尾裕美 家人城光 家人親子
藤 孝子 辻村幸彦 福井美沙之

新地裕子 吉津越子 小林 稔
岡原正夫 三田久子 合本ミツエ
青木一雄 青木敦子 宮田孝次郎
松田賢子 林 陽子 岩本いすゞ
中坊智代 森島 満 森島紀美代
渡辺隆雄 相井和子 中西 昭
多賀久子 福本哲久夫
○前田康夫 ◎田田智雄(計16名)

4月5日 晴れ
JR大田駅集合 8:30(バス) 40分(電車) 相模駅 9:30(バス) 六谷・55(高橋) 入口15(5分) 谷山11・20(津山) 11・55(昼食) 12・45(遊園小屋) 14・15(観音山) 14・35(長者) 東山分岐 15・40(主道) 16・00(長者) 16・05(東山) 16・37(バス) 相模駅 17・40(解散)
賑やかな大音で早急の急行をとり、前日川沿いを和生へ。笠置山はさくらが満開で花見気分が下山した。

(参加者) 櫻光一 櫻光光子
高橋信明 吉藤孝次 布原裕美

和泉元二 鈴木康 安田文美江
西田明子 鷺見守康 砂原美奈子
岩城登子 入江武史 森川信之
津方由子 三井統一 今淵氏代
津方由子 飯田由孝子
○加藤元彦 ◎小出長春(計16名)

4月11日 晴れ
JR大田駅集合 8:30(バス) 40分(電車) 相模駅 9:30(バス) 六谷・55(高橋) 入口15(5分) 谷山11・20(津山) 11・55(昼食) 12・45(遊園小屋) 14・15(観音山) 14・35(長者) 東山分岐 15・40(主道) 16・00(長者) 16・05(東山) 16・37(バス) 相模駅 17・40(解散)
賑やかな大音で早急の急行をとり、前日川沿いを和生へ。笠置山はさくらが満開で花見気分が下山した。

(参加者) 芝野泰明 明神成行
岩城登子 中村晴香 小白湯子
大東繁雄 野口 修 野口志穂子
向山 豊 長沢裕美 日田まや子
三浦幸雄 岡田 昇 岡田恵美子
桜田孝子 福本芳雄 木村光江

高木志夫 山崎多恵子
藤 孝子 飯田孝子 坂谷利明
福本秀雄 宮本孝幸 前田和子
森島 隆 森島彰子 木高浩夫
藤井健造 船橋高明 船橋みづ子
藤岡孝子 岡 信弘 岡 菊江
前田孝一 渡部隆雄 中西和子
◎渡部孝子 (計16名)

4月12日 晴れ
笠置山(西園) 新ルート
(総距離を歩く) 45分
寺院(松原) 集合 8:30(バス) 40分(電車) 相模駅 9:30(バス) 六谷・55(高橋) 入口15(5分) 谷山11・20(津山) 11・55(昼食) 12・45(遊園小屋) 14・15(観音山) 14・35(長者) 東山分岐 15・40(主道) 16・00(長者) 16・05(東山) 16・37(バス) 相模駅 17・40(解散)
賑やかな大音で早急の急行をとり、前日川沿いを和生へ。笠置山はさくらが満開で花見気分が下山した。

(参加者) 小林 稔 太石哲美

王藤博子 中川博史 服部清子
平 幸子 鈴木 庸 山田慈三
河合正彦 木村精忠 城月清
若狭孝子 小池正次 吉田直一
谷 守 河辺俊男 野田美奈子
小林 実 谷 久雄 石田真由美
○山本久雄 ◎志野 明(計16名)

4月12日 晴れ
JR大田駅集合 8:30(バス) 40分(電車) 相模駅 9:30(バス) 六谷・55(高橋) 入口15(5分) 谷山11・20(津山) 11・55(昼食) 12・45(遊園小屋) 14・15(観音山) 14・35(長者) 東山分岐 15・40(主道) 16・00(長者) 16・05(東山) 16・37(バス) 相模駅 17・40(解散)
賑やかな大音で早急の急行をとり、前日川沿いを和生へ。笠置山はさくらが満開で花見気分が下山した。

櫻光光子 大木政美 藤原きよみ
辻村幸彦 前田孝三 福本 隆
藤岡明子 堀 久子 甲木孝子
細井和子 小野和子 井林美奈子
若狭孝子 入江武史 兩 寛子
養名和子 前田衣雄 加藤信彦
菅生幸子 林 陽子 岩本いすゞ
古市祐子 八木陽子 川上友美
北川良子 岡田孝子 高月ミチヨ
岡田春美 ○田中三恵子
○中村 登 ◎松元二彦(計16名)

4月14日 晴れ
JR大田駅集合 8:30(バス) 40分(電車) 相模駅 9:30(バス) 六谷・55(高橋) 入口15(5分) 谷山11・20(津山) 11・55(昼食) 12・45(遊園小屋) 14・15(観音山) 14・35(長者) 東山分岐 15・40(主道) 16・00(長者) 16・05(東山) 16・37(バス) 相模駅 17・40(解散)
賑やかな大音で早急の急行をとり、前日川沿いを和生へ。笠置山はさくらが満開で花見気分が下山した。

仏像寺の桜は散っていた。午後からは咲いて三郎ヶ岳と徳城山からの風景を楽しんだ。
(参加者) 近藤 恭 立川郁夫
朝野孝香 岡田登美 前川和佳子
森川信之 大見正信 西田美津子
若狭孝子 占部信隆 米谷孝子
若狭孝子 木村正次 木村工代子
中村 保 岡野敦子 中塚美穂子
岩田孝士 田辺理子 佐藤孝一
徳田孝子 前田政雄 森 晴代
亀本繁治 亀本孝子 吉田誠宏
岩谷 榮 川中 保 重徳孝子
中村英雄 堅田善夫 中道加代子
堤 貞男 野崎重郎 竹内孝久子
津方由子 高木 晋 高木美津子
辻村幸彦 長沢裕美 成川みさお
藤田 昇 藤子 藤田和幸
岡松義雄 松村孝子 森 美香子
寺田久広 村松一雄 渡辺理郎
秋田福郎 家人城光 家人親子
入江武史 長沢裕美 伊藤則男
遠水 保 久松正己 福田美穂子
江村重雄 松田賢子 井林美奈子
内本良子 武藤 剛 武藤美奈子
青木一雄 辻村孝夫 西原隆男
若木義二 高田明子 吉田ノノ子
福井清之 福井孝子 藤原千恵子
竹田豊英 小出長春 新治裕子
○則田康夫 ◎田田智雄(計16名)

4月19日 晴れ
JR大田駅集合 8:30(バス) 40分(電車) 相模駅 9:30(バス) 六谷・55(高橋) 入口15(5分) 谷山11・20(津山) 11・55(昼食) 12・45(遊園小屋) 14・15(観音山) 14・35(長者) 東山分岐 15・40(主道) 16・00(長者) 16・05(東山) 16・37(バス) 相模駅 17・40(解散)
賑やかな大音で早急の急行をとり、前日川沿いを和生へ。笠置山はさくらが満開で花見気分が下山した。

鈴鹿・高畑山から高雲山
(花の子ルンレンと)
4月19日 晴れ
JR大田駅集合 8:30(バス) 40分(電車) 相模駅 9:30(バス) 六谷・55(高橋) 入口15(5分) 谷山11・20(津山) 11・55(昼食) 12・45(遊園小屋) 14・15(観音山) 14・35(長者) 東山分岐 15・40(主道) 16・00(長者) 16・05(東山) 16・37(バス) 相模駅 17・40(解散)
賑やかな大音で早急の急行をとり、前日川沿いを和生へ。笠置山はさくらが満開で花見気分が下山した。

4月22日 晴れ
JR大田駅集合 8:30(バス) 40分(電車) 相模駅 9:30(バス) 六谷・55(高橋) 入口15(5分) 谷山11・20(津山) 11・55(昼食) 12・45(遊園小屋) 14・15(観音山) 14・35(長者) 東山分岐 15・40(主道) 16・00(長者) 16・05(東山) 16・37(バス) 相模駅 17・40(解散)
賑やかな大音で早急の急行をとり、前日川沿いを和生へ。笠置山はさくらが満開で花見気分が下山した。

